

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■人文・社会	入門ゼミ CAR101F 全学科 全教員 (○学科長)	1学期	1	1	1
	技術経営概論 BUS311F 佐藤 明史	2学期	3	2	2
	経済入門Ⅰ ECN111F 中岡 深雪	1学期	1	2	3
	心と体の健康学 HSS101F 高西 敏正 他	1学期	1	1	4
	考え方の基礎 PHR111F 森本 司	1学期	1	2	5
	職業と人生設計 CAR102F 見館 好隆	2学期	1	1	6
	経済入門Ⅱ ECN112F 中岡 深雪	2学期	1	2	7
	企業と技術者 CAR201F 辻井 洋行 他	1学期	2	1	8
	経営入門 BUS211F 増田 幸一 平成26年度以前入学生は開講学期に注意	2学期	2	2	9
	倫理入門 PHR211F 森本 司	1学期	2	2	10
	日本語の表現技術 LIN211F 池田 隆介	1学期/2学期	2	2	11
	アジア経済 IRL211F 中岡 深雪	2学期	2	2	12
	ことばとジェンダー GEN211F 水本 光美	2学期	2	2	13
	工学倫理 CAR301F 辻井 洋行 他	1学期	3	2	14
	企業研究 CAR302F 増田 幸一	2学期	3	2	15

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■人文・社会	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	16
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	17
	共生の作法 LAW001F 今泉 恵子 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	18
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	19
	都市と地域 RDE002F 南 博 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	20
	現代の国際情勢 IRL003F 山本 直 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	21
	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	22
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	23
	地球環境システム概論 ENV103F 寺嶋 光春 他	1学期	1	2	24
	エネルギー・廃棄物・資源循環概論 ENV201F 大矢 仁史 他	2学期	2	2	25
環境問題特別講義 ENV101F 二渡 了 他	1学期	1	1	26	
生物学 BIO111F 原口 昭	1学期	1	2	27	
生態学 BIO112F 原口 昭	2学期	1	2	28	
環境マネジメント概論 ENV212F 松本 亨 他	1学期	2	2	29	
環境と経済 ENV211F 加藤 尊秋	2学期	2	2	30	

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境	環境都市論 ENV213F 松本 亨	2学期	2	2	31
	環境問題事例研究 ENV102F 森本 司 他	2学期	1	2	32
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他 北方・ひびきの連携科目	1学期	1	2	33
■外国語教育科目	英語演習Ⅰ ENG100F 長 加奈子 他	1学期	1	1	34
	プレゼンテーションⅠ ENG103F 植田 正暢 他	1学期	1	1	35
	Intensive English Course ENG200F クレシーニ アン	1学期	1	1	36
	TOEIC基礎 ENG120F 酒井 秀子	1学期/2学期	1	1	37
	TOEIC応用 ENG220F 三宅 啓子	1学期/2学期	1	1	38
	英語演習Ⅱ ENG110F 長 加奈子 他	2学期	1	1	39
	プレゼンテーションⅡ ENG113F プライア ロジャー 他	2学期	1	1	40
	TOEICⅠ ENG221F 長 加奈子 他	1学期	2	1	41
	科学技術英語Ⅰ ENG241F 植田 正暢 他	1学期/2学期	2	1	42
	TOEICⅡ ENG222F 長 加奈子 他	2学期	2	1	43
	科学技術英語Ⅱ ENG242F プライア ロジャー 他	2学期	2	1	44
	Basic R/WⅠ ENG203F 柏木 哲也 他	1学期	2	1	45

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	Discussion and Debate ENG204F ブライア ロジャー 他	1学期	2	1	46	
	English Communication ENG205F 長 加奈子 他	1学期	2	1		47
	Scientific R/W I ENG243F 柏木 哲也 他	1学期	2	1	48	
	Basic R/W II ENG213F 柏木 哲也 他	2学期	2	1		49
	English Presentation ENG214F クレシーニ アン	2学期	2	1	50	
	Extensive Reading ENG215F 岡本 清美 他	2学期	2	1		51
	Scientific R/W II ENG244F 柏木 哲也 他	2学期	2	1	52	
	Academic Writing ENG303F ブライア ロジャー	1学期	3	1		53
	Topic Studies A ENG313F 柏木 哲也	2学期	3	1	54	
	Topic Studies B ENG314F 長 加奈子	2学期	3	1		55
	Topic Studies C ENG315F 未定	2学期	3	1		
	Topic Studies D ENG316F 未定	2学期	3	1		
	■専門教育科目 ■工学基礎科目	物理実験基礎 PHY101M 董 青 他	1学期	1	2	
		微分・積分 MTH102M 山本 勝俊 他	1学期	1	2	57
一般化学 CHM100M 大矢 仁史 他		1学期	1	2	58	

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専門教育科目 ■工学基礎科目	化学実験基礎 CHM101M 朝見 賢二 他	2学期	1	2	59	
	微分方程式 MTH106M 朝見 賢二 他	2学期	1	2	60	
	基礎有機化学 CHM120M 秋葉 勇	2学期	1	2	61	
	基礎無機化学 CHM130M 鈴木 拓	2学期	1	2	62	
	力学基礎 PHY140M 岡田 伸廣	2学期	1	2	63	
	確率論 MTH101M 高島 康裕	2学期	1	2	64	
	一般物理学 PHY100M 岡本 良治	1学期	1	2	65	
	線形代数 MTH110M 野上 敦嗣	1学期	1	2	66	
	化学熱力学 CHM110M 上江洲 一也	2学期	1	2	67	
	基礎生物化学 BIO110M 中澤 浩二	2学期	1	2	68	
	基礎化学工学 CHM260M 上江洲 一也	1学期	2	2	69	
	環境統計学 ENV210M 加藤 尊秋 他	1学期	2	2	70	
	■専門科目	物理化学実験 CHM280M 黎 暁紅 他	1学期	2	4	71
		化学平衡と反応速度 CHM211M 朝見 賢二	1学期	2	2	72
有機化学 I CHM221M 李 丞祐		1学期	2	2	73	

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門教育科目 ■専門科目	無機化学		1学期	2	2	74
	CHM231M	今井 裕之				
	化学産業技術論		1学期	2	2	75
	CHM290M	飯田 汎				
	有機化学実験		2学期	2	4	76
	CHM281M	秋葉 勇 他				
	分析化学		2学期	2	2	77
	CHM241M	吉塚 和治				
	化学工学		2学期	2	2	78
	CHM261M	山本 勝俊				
	環境分析実習		1学期	3	4	79
	CHM180M	吉塚 和治 他				
	物理化学演習		1学期	3	1	80
	CHM312M	朝見 賢二 他				
	有機化学演習		1学期	3	1	81
	CHM320M	秋葉 勇 他				
	反応工学		1学期	3	2	82
	CHM360M	西浜 章平				
分離工学		1学期	3	2	83	
CHM361M	西浜 章平					
大気浄化工学		1学期	3	2	84	
ENV332M	高倉 弘二					
構造化学		1学期	3	2	85	
CHM310M	黎 暁紅					
先端材料工学		1学期	3	2	86	
CHM350M	李 丞祐 他					
機器分析		1学期	3	2	87	
CHM342M	鈴木 拓					
環境分析化学		1学期	3	2	88	
CHM341M	門上 希和夫					

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	資源循環工学 ENV333M 安井 英斉 他	1学期	3	2	89
	エネルギー循環化学実習 CHM380M 門上 希和夫 他	2学期	3	4	90
	無機・分析化学演習 CHM331M 今井 裕之 他	2学期	3	1	91
	化学工学演習 CHM364M 大矢 仁史 他	2学期	3	1	92
	電気化学 CHM311M 吉塚 和治 他	2学期	3	2	93
	触媒工学 CHM362M 天野 史章	2学期	3	2	94
	エネルギー化学プロセス CHM363M 黎 暁紅	2学期	3	2	95
	高分子化学 CHM340M 秋葉 勇 開講学期に注意	1学期	3	2	96
	地圏環境論 ENV331M 伊藤 洋	2学期	3	2	97
	水処理工学 ENV330M 石川 精一	2学期	3	2	98
	生物化学 BIO220M 河野 智謙	1学期	2	2	99
	統計熱力学 CHM212M 櫻井 和朗	2学期	2	2	100
	分子生物学 BIO221M 木原 隆典	2学期	2	2	101
	錯体化学 CHM233M 磯田 隆聡	2学期	2	2	102
	環境政策概論 ENV220M 岡山 俊直	2学期	2	2	103

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■専門科目	有機化学 II CHM222M 櫻井 和朗	2学期	2	2	104	
	環境計画学 ENV320M 松本 亨	1学期	3	2		105
	微生物学 BIO310M 森田 洋	1学期	3	2	106	
	生態工学 BIO311M 上田 直子	2学期	3	2		107
	生物工学 BIO330M 中澤 浩二	2学期	3	2	108	
	遺伝子工学 BIO320M 木原 隆典	2学期	3	2		109
	環境シミュレーション ENV310M 野上 敦嗣	2学期	3	2	110	
	環境リスク学 ENV321M 二渡 了 他	2学期	3	2		111
	■卒業研究	卒業研究 STH410M エネルギー循環化学科全教員	通年	4	8	
	■留学生特別科目 ■基盤・教養教育科目(人文・社会)	日本事情 JPS100F 水本 光美	1学期	1	1	112
■基盤・外国語教育科目読替		総合日本語 A JSL100F 池田 隆介	1学期	1	2	
	総合日本語 B JSL110F 池田 隆介	2学期	1	2	114	
	技術日本語基礎 JSL230F 水本 光美	1学期	2	1		115
	ビジネス日本語 JSL340F 水本 光美	1学期/2学期	3	1	116	
	総合英語I ENG104F 岡本 清美	1学期	2	1		117

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2014年度入学生)

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■留学生特別科目 ■基盤・外国語教育科目読替	総合英語II	2学期	2	1	118
	ENG114F 植田 正暢				
■補習	数学(補習)	1学期	1	0	119
	荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代				
	物理(補習)	1学期	1	0	120
	平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成				
	化学(補習)	1学期	1	0	121
	溝部 秀樹				
	英語(補習)	1学期	2	0	122
	外部講師(○長 加奈子)				

入門ゼミ

(Introductory Seminar)

担当者名 /Instructor 全学科 全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 問題の発見やその解決策を導くために必要な考え方や取り組み方を修得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル 英語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 社会生活に必要な「聞く力」「理解する力」「話す力」「調べる力」「書く力」を修得する。
		入門ゼミ
		CAR101F

授業の概要 /Course Description

大学生にとってコミュニケーション能力は、専門的な知識を修得する以前に身に付けておくべき、基礎的な能力である。この入門ゼミでは、グループワークなどを通して、他者の意見を聞き、その人の言いたいことを理解した上で、自分の意見を伝えることができる力（「理解する力」「話す力」）、そして情報を収集して、レポート、報告書を作成する力（「調べる力」、「書く力」）を養成することを目的とする。また、学生が受動的ではなく能動的にグループワーク・情報収集等に取り組むことによって、問題解決能力を高め、自ら学ぶ力を養成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

担当教員の指示したもの

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員の指示したもの

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) 15週のうち、最初の1週は新入生全員を対象にガイダンスを実施する。
- (2) 2週目以降は、原則としてゼミ単位での活動とする。詳細については、担当教員の指示に従うこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度を評価する (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

入学時のガイダンスで配布されるテーマ一覧を参考に、希望するゼミを検討しておくこと。また、希望者は他の学科が提供するゼミに参加することもできる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生になった皆さんは、既に大人社会の仲間入りをしています。大人社会では、あらゆる事象において受身の体勢では、うまくいかない事が増えてきます。積極的にコミュニケーションを図る、貪欲に情報を収集する、自分の意見をしっかり持ち、常に問題意識を持つ、相手の立場を理解し協調性を養うことが重要となります。そのような魅力ある学生になれるよう頑張ってください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション, 情報

技術経営概論

(Introduction to Technology Management)

担当者名 /Instructor 佐藤 明史 / Meiji SATO / 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	技術を基盤とした新規事業展開に関わる課題を把握し、創造的な解決策を構想できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	常に、新しい社会・経済と技術動向に関心を向けられるようになる。
	コミュニケーション力	●	チームで討議しながら資料をまとめ、プレゼンテーション能力を向上させることができる。
		技術経営概論 BUS311F	

授業の概要 /Course Description

人間力および就業力育成の仕上げるの科目であり、工学技術を社会で活用するのに必要なマネジメント能力を実践的演習で育成する。環境問題が惹起した環境経営の重要性とベンチャー企業の必要性を学び、イノベーションの創出とそれに続くベンチャーや企業における新規事業、自治体における新規企画とその実現へ挑戦できる基礎を養う。授業の前半は、技術経営や環境経営の実践方法を講義で学習し、チーム演習で興味ある分野の過去10年間の技術ロードマップを調査作成し発表することにより「洞察力」を育む。後半では、技術経営、環境経営、ベンチャーの事例を学習し、チーム演習でフィールドワークとベンチャービジネスモデル検討による提案発表を行うことにより「構想力」「構築力」を醸成し「技術マネジメント能力」を習得する。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 環境経営の実践マニュアル、山路敬三、国連大学ゼロエミッションフォーラム
- ・ 起業のマネジメント、小林忠嗣著、PHP出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義概要と技術発展ロードマップ、ベンチャー提案作成の手引き
- 2 技術経営概論(1) - なぜ技術経営が必要か
- 3 企業のビジネスモデルの調査
- 4 技術経営概論(2) - 技術発展ロードマップテーマとチームの決定
- 5 技術ロードマップ作成1(背景・課題の整理と情報収集)
- 6 技術ロードマップ作成2(発表シナリオ、発表スライドの作成)
- 7 技術ロードマップのプレ発表
- 8 技術ロードマップの本発表
- 9 事例に学ぶ - ベンチャー人材に必要な能力
- 10 事例に学ぶ - 環境ベンチャー事例
- 11 事例に学ぶ - ビジネスモデルの作り方
- 12 ベンチャー提案テーマとチームの決定
- 13 ビジネスモデルのレベルアップとベンチャー提案発表準備
- 14 ベンチャー提案プレ発表
- 15 ベンチャー提案本発表

技術経営概論

(Introduction to Technology Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

技術ロードマップ発表 30%
ベンチャー提案発表 60%
学習態度 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の好きなことを考えるときは楽しい。好きなことをビジネスにする演習授業なので授業外の活動も必要になるが能動的に夢を持って取り組むこと。
自由討論やビジネス演習など授業への自主的かつ積極的な参加が理解の基本である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学部および大学院での就職活動にも非常に役立つ内容になってます。学外活動も奨励しています。自分も出来るぞと思える舞台が必ずあります。講義外の学習時間も必要ですが、自分の好きなテーマに取り組めるので楽しめると思います。常に学生諸君の建設的な提案を待っています。

キーワード /Keywords

経済入門 I

(Introduction to Economics I)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会科学を学ぶ際に必要な基礎知識が身につく。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	人間の行動を数式によって表現することができる。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自身を取り巻く環境について熟考し、適応する能力が身につく。
	コミュニケーション力		

経済入門 I

ECN111F

授業の概要 /Course Description

本講義では下記のテキストを使用し、ミクロ経済学の基礎的な内容を学習する。普段私たちがとっている消費行動（需要）、企業の生産行動（供給）、そして需要と供給の出会う「市場」の理論を学習する。経済学を学ぶことで、身の回り、または現代の日本や世界で起こっている様々な経済現象に関心を持ってほしい。授業では適宜時事問題も扱い、経済問題に対する理解も深める。

教科書 /Textbooks

前田純一著『経済分析入門I - ミクロ経済学への誘い - 』晃洋書房、2011年、2,500+税円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤田康範『ビギナーズミクロ経済学』ミネルヴァ書房、2009年
○三橋規宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門 改訂版』日本経済新聞出版社、最新版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 第1章 消費行動の分析(1) - 無差別曲線によるアプローチ(予算制約と無差別曲線)
- 3 第1章 消費行動の分析(1) - 無差別曲線によるアプローチ(最適消費点と需要曲線)
- 4 第2章 消費行動の分析(2) - 効用関数によるアプローチ(限界効用)
- 5 第2章 消費行動の分析(2) - 効用関数によるアプローチ(需要の弾力性)
- 6 第3章 生産行動の分析(1) - 費用分析によるアプローチ(費用曲線)
- 7 第3章 生産行動の分析(1) - 費用分析によるアプローチ(損益分岐点、企業閉鎖点)
- 8 第4章 生産行動の分析(2) - 生産関数によるアプローチ
- 9 第5章 完全競争市場の分析(完全競争市場)
- 10 第5章 完全競争市場の分析(価格、数量による調整)
- 11 第6章 資源配分の効率性
- 12 第7章 独占市場の分析
- 13 第8章 不完全競争市場の分析
- 14 第9章 市場の失敗
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%
課題実施状況や授業への積極性 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済入門 I

(Introduction to Economics I)

履修上の注意 /Remarks

普段より経済に関する新聞記事やニュースに関心を払ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて授業の進度を調節することがあります。経済学の勉強を通じて世の中に対する関心を高め、社会に出た時にものおしせず、自分の意見を発言できるようになりましょう。またニュースや記事などから経済事情を読み解き、判断することは理系出身の学生にも求められることです。授業で扱うテーマ以外にも経済に関することなら質問を歓迎します。一緒に経済を勉強していきましょう、世界が広がるはずですよ。

キーワード /Keywords

経済 需要 供給 市場 日本経済

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 乙木 幸道 / Kodo OTOKI / 非常勤講師
内田 満 / Mitsuru UCHIDA / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体とメンタルの状況を把握し、自ら改善することができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	年齢の進行に応じた身体とメンタルのケアに必要な情報を自ら得ることができる。
	コミュニケーション力	●	身体とメンタルの状態について、他者とやりとりをしながら把握し、協力して改善することができる。
		心と体の健康学 HSS101F	

授業の概要 /Course Description

将来にわたって心と体の健康を自ら維持・向上させていくための理論や方法を体系的に学ぶことが、この科目の目的である。
生涯続けられるスポーツスキルを身につけ、心理的な状態を自ら管理する方法を知ること、こころやからだのバランスを崩しがちな日々の生活を自分でマネジメントできるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回コミュニケーションゲーム① (グループワーク)
- 3 回コミュニケーションゲーム② (カラダを使って)
- 4 回ボディマネジメント① (身体的健康と精神的健康)
- 5 回ボディマネジメント② (体力の概念)
- 6 回ボディマネジメント③ (体力・身体測定・ : 体育館)
- 7 回メンタルマネジメント① (基礎)
- 8 回メンタルマネジメント② (目標設定① : 積極的傾聴・合意形成・会議力)
- 9 回メンタルマネジメント③ (目標設定② : コミュニケーション・ファシリテーション・組織論)
- 10 回メンタルマネジメント④ (目標設定③ : ワークショップ・主体的参加)
- 11 回エクササイズ① (オリエンテーリング)
- 12 回エクササイズ② (屋内個人スポーツ : 体育館)
- 13 回エクササイズ③ (屋内集団スポーツ : 体育館)
- 14 回エクササイズ④ (屋外スポーツ : グラウンド)
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度 60% レポート 20% 試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

履修上の注意 /Remarks

[コミュニケーションゲーム] [エクササイズ] は身体活動を伴うので、運動できる服装ならびに靴を準備すること。
[ボディマネジメント①・②] は教室での講義、[ボディマネジメント③] は体育館で行う。
[メンタルマネジメント] はワークを中心とした授業を行いますので筆記用具を持参すること。
授業への積極的な参加を重視します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目を通して、「やりたいこと」「やるべきこと」「できること」を整理し、いかに目標を明確にするかを学び、自分自身の生活にも役立てほしい。さらに、身体活動の実践を通して、スキル獲得のみならず仲間作りやノンバーバルコミュニケーション能力獲得にも役立ててほしい。

キーワード /Keywords

考え方の基礎

(Basic Ways of Thinking)

担当者名 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー	●	その場にふさわしい情報利用の仕方の基礎が身につく。	
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題を言葉で適切に表現し、解決のための情報共有をすることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	現実と言葉の対応、言葉と言葉の論理的対応の基礎が身につく。	
			考え方の基礎	PHR111F

授業の概要 /Course Description

問題解決力を身につけるためには、言葉を媒介にしたさまざまな作業を必ず必要とします。特に、グループによって問題解決に関わる作業をする場合には、言葉による伝達ばかりではなく、議論そのものを活発に遂行する力が求められます。その力を身につけるためには、言葉に関する二種類の学習が必要です。一つは、言葉の基本性質を理解し、言葉の情緒機能の働きを学習することです。もう一つは、言葉の論理的な働きを身につけるための学習です。この講義では、二種類の言葉の学習を通じて考える力を高めることを目的としています。

授業に当たっては、予習・復習を課します。学習の確認のため、毎回小テストを行います。

前半 思考と行動における言語（小テスト）

後半 論理トレーニング（論理課題練習）

教科書 /Textbooks

『思考と行動における言語』、S.I./ハヤカワ、岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『新版・論理トレーニング』、野矢茂樹著、産業図書
『議論のレッスン』、福澤一吉、NHK生活人新書
『論理表現のレッスン』、福澤一吉、NHK生活人新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 履修説明 + 評価の仕方と問題解決の考え方、問題解決と言語
- 2回目 言語と生存、記号過程
- 3回目 報告・推論・断定
- 4回目 文脈と意味
- 5回目 言語の情緒的意志的機能
- 6回目 私たちはどうやって知るか（定義とは）
- 7回目 抽象と分類
- 8回目 二値的と多値的（まとめと補足）
- 9回目 論理トレーニング1（接続表現①論理問題の練習の仕方）
- 10回目 論理トレーニング2（接続表現②応用問題）
- 11回目 論理トレーニング3（議論の骨格①議論の構造図の作成）
- 12回目 論理トレーニング4（議論の骨格②応用問題）
- 13回目 論理トレーニング5（論証の練習①論証図の作成）
- 14回目 論理トレーニング6（論証の練習②応用問題）
- 15回目 論理トレーニング7（論理トレーニングまとめ）

考え方の基礎

(Basic Ways of Thinking)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 前半に予習テストを6～7回 30%
- ・ 前半内容に関するレポート 20%
- ・ 後半に論理課題 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前半：予習確認のため、小テストを毎回実施します。また、復習のための確認テストを数回行います。
後半：授業中に問題を配付し、解答作業を行います。作業内容を確認するため、配布プリントを提出してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 言葉の使用について、感覚と論理とを連携させて、少しずつ自分の言葉で表現できるようにしましょう。表現の練習が自分の世界を作る基礎になります。

キーワード /Keywords

言語と現実、報告・推論・断定、意味、分類、論理トレーニング

職業と人生設計

(Career and Life Planning)

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	キャリア設計を自ら行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	キャリア設計を必要に応じて再編することができる。
	コミュニケーション力	●	キャリア設計において、必要な相談を他者と交わすことができる。
		職業と人生設計	CAR102F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化や労働生産性の低迷、グローバル化・多極化など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査（2013年）によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」（73.6%）、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（62.0%）、「チームワーク」（52.5%）、「コミュニケーション能力」（51.7%）の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいの？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登場します。目標となるかもしれない先輩や社会人（ロールモデル）との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみること、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、授業はもちろん、課外活動や日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

職業と人生設計

(Career and Life Planning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社

○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社

○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版

○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房

○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房

○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社

○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社

J.D.クランボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 アイデンティティ(身の丈を超える経験)【1】【2】【3】【4】
- 3回 就職活動を知る(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 4回 アクティブ・リスニング(傾聴)【1】
- 5回 アイデンティティ(自分の長所を活かす)【1】
- 6回 大学院進学を知る(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 7回 アサーション・トレーニング(爽やかな自己表現)【1】
- 8回 ダイアログ(対話)とワールドカフェ【1】
- 9回 リーダーシップ【1】
- 10回 働くことを知る(社会人登壇)【2】【3】【4】
- 11回 ファイナンシャルプランニング(社会人登壇)【2】
- 12回 地域活動に挑戦する(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 13回 将来の見通しを立てる(企業団体研究)【2】
- 14回 計画された偶発性とセレンディピティ【1】【2】【3】【4】
- 15回 まとめ&発表(将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポートおよび授業への取り組み、宿題...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※クラスは履修者をランダムに振り分け、5つのクラスに分かれて行う予定です。受講前にクラスを確認してください。

※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の他学科の学生と話すため、学内の友人が増えます。本授業を通してさらに大学生活を充実したものしたい、という意味を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

経済入門Ⅱ

(Introduction to Economics II)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各国経済の歴史、現状について説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	経済の変化を数量的に説明することができる。
思考・判断・表現	英語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	経済について関心を持ち続け、自身の意見を述べるすることができる。
	コミュニケーション力		
			経済入門Ⅱ
			ECN112F

授業の概要 /Course Description

本科目では現代社会における経済事象について理解を深める。私たちが生活している現代はどういった経済状況にあるのか。またどのような問題が発生しているのだろうか。社会問題から身近な経済事情まで幅広く扱い、経済に関する知識を獲得する。同時に多様な経済事象を題材に背景、因果関係を考える力を養う。まず、これまで日本経済がたどってきた経緯を知ることから始める。そして日本のみならず海外の経済事情についても理解を深める。適宜時事問題も扱い、経済への関心を高める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三橋 規宏 (著)、内田 茂男 (著)、池田 吉紀 (著) 『ゼミナール日本経済入門』 日本経済新聞出版社
金森 久雄 (編集)、加藤 裕己 (編集)、香西 泰 (編集) 『日本経済読本』 東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨン
- 2 戦後日本経済の年表を作成する
- 3 戦後日本経済の時代ごとの変化を理解する
- 4 GHQの戦後改革による日本社会の変化
- 5 高度経済成長とは
- 6 高度経済成長のメカニズム
- 7 プラザ合意が日本経済にもたらした変化
- 8 バブルの発生と崩壊
- 9 失われた10年
- 10 リーマンショック
- 11 アメリカ経済
- 12 EUについて
- 13 欧州経済不安
- 14 時事問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70%
小テスト、課題や授業への積極性30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済入門 II

(Introduction to Economics II)

履修上の注意 /Remarks

日常より新聞を読む、ニュースを見るなどして経済問題に関心を払ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気になる経済問題について楽しく学びましょう。

キーワード /Keywords

経済 日本経済 グローバリゼーション アジア

企業と技術者

(Business and the Engineer)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 長 弘基 / Hiroki CHO / 機械システム工学科 (19~)
松波 勲 / Isamu MATSUNAMI / 情報メディア工学科, 陶山 裕樹 / Hiroki SUYAMA / 建築デザイン学科 (19~)
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	技術者としてのキャリア設計に必要な情報を自ら選び取ることができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	技術者の仕事に興味を持ち、適切な質問をすることができる。
			企業と技術者
			CAR201F

授業の概要 /Course Description

授業の概要

この授業では、履修者が、年少者が実際に利用する動く玩具や教材の企画・設計・製作・実装・改良の実習を通じて、実利用者とのやり取りを行い、技術系人材に対する期待に触れつつ、社会における自らの役割意識を高めることを目的とする。

学習達成目標

- (1) 工作物の企画・設計・製作などに、対応する利用者の目線を踏まえて取り組むことができる。
- (2) 安全性、耐久性を考慮した工作物を設定された条件下で製作することができる。
- (3) ものづくり技術者による講演の要点を捉え、工作に反映することができる。
- (4) 自分の工作物に関する自己評価を客観的な視点から行い話すことができる。
- (5) 社会における技術系人材への期待を捉え、自らの役割について、記述することができる。

教科書 /Textbooks

授業中の配付資料による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中の配付資料による。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【第1週】
- 2 保育園訪問、園児との交流【第2週】
- 3 工作アイデア図の製作【第2週】
- 4 ものづくり技術者講演 1、工作アイデアの掘り下げ【第3週】
- 5 工作アイデアのプレゼン【第3週】
- 6 工作実習【第3週】
- 7 工作物の実装実験1 [浅川保育園]【第4週】
- 8 実装結果の評価、修正点の確認【第4週】
- 9 改善実習【第4週】
- 10 工作物の実装実験2 [浅川保育園]【第5週】
- 11 ものづくり技術者の講演2・3【第5週】
- 12 実装結果の評価、修正点の再確認、再改善実習【第5週】
- 13 工作物の納品 [浅川保育園]【第6週】
- 14 実習成果の振り返り【第6週】
- 15 振り返り発表会【第6週】

企業と技術者

(Business and the Engineer)

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法 ※上の(1)-(5)に対応

- (1) 工作物の企画書の内容による。[20%]
- (2) 工作物とその仕様書の内容による。[20%]
- (3) 講演の振り返りシートによる。各800文字 [20%]
- (4) 振り返り発表会の内容による。[20%]
- (5) 提出レポートによる。1200文字 [20%]

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1)土曜日集中での開講になります。
- (2)班別のワークショップで、作業を進めます。
- (3)毎回の授業終わりに、学習内容に関する振り返りレポートの提出を求めます。
- (4)工作実習が遅れる場合には、授業時間外の実習活動を求めます。
- (5)現場実習先の保育園では、園児にとって「先生」として見なされますので、毅然とした態度で臨み、服装など身だしなみを整えることを求めます。
- (6)履修に当たり、保険(学研災・学研賠)への加入が必要になります。(有料)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ワークショップや提出課題の多いタフな授業になりますので、覚悟して履修して下さい。

キーワード /Keywords

技術者、ものづくり、役割意識、キャリア

経営入門

(Introduction to Business Management)

担当者名 増田 幸一 / Koichi MASUDA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 平成26年度以前入学生は開講期が第1学期から第2学期になりますので注意してください。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業の役割や仕組みについて、説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	企業の社会的な影響力の大きさを把握することができる。
	生涯学習力	●	社会現象としての企業に関心を持ち、自らの態度を適応させることができる。
	コミュニケーション力		
			経営入門
			BUS211F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、履修者の皆さんにとってビジネスがより身近なものとして感じられるようになることです。技術者として生きることは、誰かの不便を解決したり、生活を充実させたり、何かの大きな仕組み作りにも貢献したりすることにあるでしょう。企業に雇われて技術力を発揮することは、そのような技術者個人として、貢献すべき世界のビジョンを描き、具体的な「ものづくり」や「ことづくり」の延長線上にあるはず。この授業では、小さなビジネスを作って、それを実現するための企画書を書いてみることを通じて、働くこと、ビジネスをすることを自分自身のこととして捉えてもらえるようになることを目指します。

達成目標

- (1) 必要項目をすべて満たしたビジネスプラン（企画書）を作成することができる。
- (2) 他の履修者から助言を引き出し、ビジネスプランを改善することができる。
- (3) 説明力のあるポスターを作成し、企画の意図・内容を説明することができる。
- (4) BGMキャンパスの使い方を把握し、適切に運用することができる。
- (5) 班別活動へ積極的に参加し、提出課題作成に貢献することができる。

教科書 /Textbooks

今津美樹（2014）：図解ビジネスモデル・ジェネレーションワークショップ、翔泳社、¥1,800-

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中の配付資料

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス 課題「ビジネスプラン」の提示
- 2 キャンパスの紹介、BMGキャンパス事例の検討
- 3 BGMキャンパスの使い方、事例分析演習
- 4 「ビジネスプラン」に向けたアイデアを生み出す。「身の周りの不便を解決するビジネス」
- 5 BMGキャンパスでのアイデアの共有（班別作業）
- 6 ビジネスのプロトタイプ作成、アイデアの整理、課題の検討
- 7 BMGキャンパスの作成
- 8 「ビジネスプラン」のポスター発表
- 9 「ビジネスプラン」の改善①顧客を深く理解する「共感マップ」の作成
- 10 「ビジネスプラン」の改善②「共感マップ」を活用した「顧客セグメント」と「価値提案」の見直し
- 11 「ビジネスプラン」の改善③「価値提案」に関わる他の項目とお金の流れの検討
- 12 BMGキャンパスを用いた「ビジネスプラン」のポスター発表（セカンドキャンパス）
- 13 「ビジネスプラン」プレゼンテーションの準備 発表スライドの作成
- 14 「ビジネスプラン」発表会
- 15 振り返り

経営入門

(Introduction to Business Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 30% (提出課題)
- (2) 10% (提出課題)
- (3) 30% (提出課題)
- (4) 10% (提出課題)
- (5) 20% (提出課題)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題提出やグループ作業など、活動量の多いタフな授業になりますので、履修する場合は覚悟して下さい。ことで、より理解が進んで、楽しさを感じられる授業にしようと思います。

キーワード /Keywords

ビジネスプラン、キャリア

倫理入門

(Introduction to Ethics)

担当者名 /Instructor 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
	情報リテラシー			
技能	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	複雑な状況下で、問題を定義し、分析することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	倫理問題を他人事ではなく、自分の立場で考え、対応することができる。	
	社会的責任・倫理観	●	主観的な関心だけでなく、社会の共通ルールを考え、身につけることができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			倫理入門	PHR211F

授業の概要 /Course Description

この講義では、西洋の倫理学の歴史を背景にしながら、日常生活と関連する具体的な問題を考えていきます。これまでの西洋倫理思想史で善や道徳がどのようなものと考えられてきたのか、ということを実感ある現代の問題（「人を助けるためにウソをつくことは許されるか」など）を材料にして、考察します。このような考察を通じて、今日倫理を考えることがどのような意味をもつのかということ、受講する学生が自分の問題として感じ取り考えることができるように、テキストを利用しながら講義します。

授業に当たっては、予習・復習を課します。確認のため授業中に毎回小テストを行います。また、宿題レポートを課します。さらに、試験の代わりに最終レポートを提出してもらいます。考える作業を文章作成というかたちで実践してもらいます。

教科書 /Textbooks

・『現代倫理学入門』、加藤尚武、講談社学術文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ここからはじまる倫理』、A.ウエストーン、春秋社
※その他授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 履修説明・概要
- 2 「嘘について」その1（問題提起）
- 3 「嘘について」その2（考察と課題）
- 4 「功利主義について」その1（問題提起）
- 5 「功利主義について」その2（考察と課題）
- 6 「平等主義について」その1（問題提起）
- 7 「平等主義について」その2（考察）
- 8 「エゴイズムと道徳」その1（問題提起）
- 9 「エゴイズムと道徳」その2（考察と課題）
- 10 「判断能力の判断」その1（問題提起）
- 11 「判断能力の判断」その2（考察と課題）
- 12 「正直者の損について」その1（問題提起）
- 13 「正直者の損について」その2（考察と課題）
- 14 「他人への危害について」その1（問題提起）
- 15 「他人への危害について」その2（考察と課題）

倫理入門

(Introduction to Ethics)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(授業はじめ毎回+テーマの終わり6回) 200字程度 30%
宿題レポート(3回~5回) 400字程度 30%
期末レポート 700字~800字 40%
評価の基準:
講義内容: 40%、表現・構成: 40%、独自性: 10%、具体性: 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 予習確認のテストをしますので、必ずテキストを予習してください。
- ・ 内容がつながっていますので、以前の授業内容をよく復習してください。特に、功利主義的な考え方については復習しておいてください。
- ・ 授業での各テーマの後半(その2)で、宿題レポートを作成してもらいます。レポートの作成は、3回~5回あります。また、授業の最後に全体をまとめるレポートの作成を課します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ テキストの言葉をそのまま写すのではなく、できるだけ自分の言葉で表現できるような文章作成の練習をしてください。そのためのヒントを授業中に提供しますので、単語や語句を書き取りながら、メモをとる練習をしましょう。理解力・表現力を向上させて、問題提起の力と問題を考えるための条件を抽出する力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

功利主義、人格主義

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アカデミックな実用文執筆のために必要な日本語表現の課題を自ら発見し、解決の糸口を探ることができる能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	日本語による論理的な文章の書き方の基礎を身につけ、自らの主張や見解を不特定多数の読み手に伝えることができる。
			日本語の表現技術 LIN211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、日本語における論理的な文章構成の習得、および、論述文の表現技術の向上を目的とする。とりわけ、フォーマルな場面で用いられる実用文書で使われる日本語の表現技術を身につけておくことは、教養ある社会人には必須の要素である。この授業においては、(1)大学の授業で提出するレポートの定型からいかなるアカデミック・スキルが学生に要求されているかの気づきを得ること、(2)書き言葉として適切な表現・文体を選択すること、(3)自作の文章の論理性・一貫性を客観的に判断すること、以上の3つの軸に受講生参加型の講義を展開していく。

教科書 /Textbooks

必須教材は授業中に指示、あるいは、教員が適宜準備する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の進行に合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 環境工学を学ぶ大学生に必要な文章表現能力
2. 言語とコミュニケーション
3. 「論じる」とは / 再現性と合理性
4. 効果的な書き出し
5. 文体 / 話し言葉と書き言葉
6. アイディアを搾り出す / ノンストップライティング
7. テーマを絞る
8. 段落の概念(1)中心文と支持文
9. 段落の概念(2)文のねじれ
10. 目標規定文を書く
 11. 事実と意見
 12. 出典を記す / SIST02による表記法
 13. 読者を迷子にするな / 首尾一貫した文章
 14. 待遇表現
 15. 期末課題のためのアウトライン作り・質疑応答

※上記の授業項目・順序等は進度に応じて修正を行うことがある。詳細な授業スケジュールはhibikino e-learning portal (<http://moodle.env.kitakyu-u.ac.jp/>) にて公開するので、授業の前後に必ず確認すること。

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加10%
コメント10%
宿題15%
小テスト15%
中間課題5%
期末課題のための準備活動5%
期末課題40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portal (<http://moodle.env.kitakyu-u.ac.jp/>) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。また、授業は一定の適正人数での活動を想定している。正確な受講者数把握のため、第1回目の授業から出席すること。

※1：出席率80%未満の受講生は不合格とする。

※2：留学生は「技術日本語基礎」に合格していることを履修条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業、進学、就職等、学生生活が終盤に近づくにつれ、フォーマルな表現を駆使しなければならない機会は多くなる。適切な表現をTPOに応じて繰り出すことができるよう、この授業を絶好の修練の場にしてほしい。

キーワード /Keywords

日本語、表現技術、実用文、書き言葉、受講生参加型講義

アジア経済

(Asian Economies)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次 / 2学期 / 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本を含むアジアの国々について説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	経済発展の各国比較を数量的に行うことができる。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アジア各国の経済成長の原動力について考察することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			アジア経済
			IRL211F

授業の概要 /Course Description

東アジアの国々の経済発展、そして貿易と直接投資を通じて各国間の関係が緊密になってきたことについて学習する。例えば貿易に関しては、輸出額では東アジアからの輸出が世界の全輸出の4分の1を占めている（2013年）。30年前の1985年にその割合が10%であったことを考えると、世界経済における東アジアの存在感が上昇していることがわかる。そして、2013年の東アジアの輸出の44%が東アジア域内で行われており、域内各国の経済が密接になってきたこともわかる。さらに今後もその傾向は継続すると思われる。

このように日本にとってアジア諸国は単に近くにある国ではなく、経済面でつながりが深い。本講義ではアジア経済発展の過程において、日本を中心とした経済関係の構築、発展の経緯について考察を行うと同時に、各国経済について理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、1997年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 時系列で考える
- 3 横のつながりで考える
- 4 統計を読み解く(1)－方法と手順－
- 5 統計を読み解く(2)－分析－
- 6 どのようにしてアジア経済の発展が始まったのか
- 7 アジア経済の発展はどうして維持できたのか
- 8 貿易
- 9 直接投資
- 10 アジア通貨危機はなぜ起こったのか
- 11 時事問題(1)－経済発展－
- 12 中国経済
- 13 韓国経済
- 13 ASEANの経済
- 14 時事問題(2)－各国事情－
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%
小テスト、授業中の発言や提出物 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アジア経済

(Asian Economies)

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりとして下さい。また常にアジア地域に関するニュースに耳を傾けて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では東アジアの国々を事例に経済成長のメカニズムを考えます。日本経済の歴史やアジア地域との関わりについても勉強し、知識を増やしていきましょう。

キーワード /Keywords

アジア 日本経済 経済発展

ことばとジェンダー

(Language and Gender)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	ジェンダーを表現することばを認識し、責任ある社会人として倫理的な言動をすることができる。
	生涯学習力	●	社会においてジェンダー表現に関する課題を発見し解決するために、倫理的言動をすることができる。
	コミュニケーション力	●	ジェンダーバイアスに支配されない正しい知識と精神力でもって、お互いを尊重しつつコミュニケーションを取ることができる。
		ことばとジェンダー	GEN211F

授業の概要 /Course Description

ジェンダー」とは、人間が持って生まれた性別ではなく、社会や文化が培ってきた「社会的・文化的な性のありよう」です。この講義では、ジェンダーに関する基礎知識を身につけるとともに、生活言語、メディア言語などが持つ様々なジェンダー表現を観察、検証することにより、日本社会や日本文化をジェンダーの視点から考察します。この授業では、社会におけるジェンダー表現に関する課題を発見し解決するために、責任ある社会人として倫理的言動をすることができる能力を養成します。

教科書 /Textbooks

- 『ジェンダーで学ぶ言語学』, 中村桃子編, 世界思想社, 2012.
- 『ことばとジェンダー』, 水本光美, 北九州市立大学基盤教育センター日本語プログラム, 2013.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション ②ジェンダーとは 1
- ①ジェンダーとは 2 ②「男らしさ、女らしさ」とは：ジェンダーからことばを見る
- 作られる「ことば」女ことば
- 作られる「ことば」男ことば
- メディアが作るジェンダー：マンガ 1 (構造とジェンダー表現)
- メディアが作るジェンダー：マンガ 2 (ストラテジーとしてのジェンダー表現)
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ 1 (テレビドラマと実社会のことばの隔たり)
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ 2 (テレビドラマの女性文末詞)
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 1 (差別表現とは何か)
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 2 (ジェンダーについて語る言説と表現ガイドライン)
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 1 (ことばは認識を変える力をもつ)
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 2 (セクシュアル・ハラスメントのインパクト)
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 3 (セクシュアル・ハラスメントはなくせるか)
- 私のまわりのジェンダーについて考える
- 期末プレゼンテーションの準備

* 授業スケジュールは、状況に応じて、適宜、変更される場合もある。

ことばとジェンダー

(Language and Gender)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
宿題・小テスト 30%
事前調査・ディスカッション 20%
期末プレゼンテーション 30%
* 出席率80%未満は、不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 日本人と留学生の混合小規模クラス。
2. 異文化間でのディスカッションやディベートも実施するため、授業で積極的に発言する意志のある学生の履修が望ましい。
3. 留学生は「技術日本語基礎」が日本語能力試験 1級(N1)に合格していること。
4. 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちの生活は、数多くのジェンダー表現に囲まれています。それらは、どのような価値観、社会慣習などによるものか分析することによって、無意識に自己の中に形成されている男性観・女性観・差別意識について一緒に考えてみませんか。単に講義を聴くという受身的姿勢から脱して自発的に発言し、事例収集などにも積極的に取り組む態度を期待します。

キーワード /Keywords

ジェンダーイデオロギー、ジェンダー表現、性差別語、性差別表現、ジェンダーをつくることば

工学倫理

(Engineering Ethics)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	技術者としての倫理的行動の仕方と理論を説明することができる。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	技術的な対応を越えた課題を指摘し、倫理的な対応を検討することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	技術者としての倫理的行動の評価基準を運用することができる。	
	社会的責任・倫理観	●	技術者の社会的な影響力を理解し、倫理的な行動を設計することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			工学倫理	CAR301F

授業の概要 /Course Description

現代社会における製品・サービスの生産・供給は、高度化・複雑化した技術を基盤として成り立っています。技術者は、多様なステイクホルダーの持つ価値観の間で、ジレンマに苛まれながら難しい判断を迫られることが少なくないといえます。この授業では、技術者として様々な倫理的課題に直面した時に、どのように対処していけばよいのか、自ら考え、仲間と話し合いながら判断するための方法を身につけます。

達成目標

- (1)工学倫理に関連する概念を理解することができる。
- (2)倫理課題を把握し指摘することができる。
- (3)倫理課題の原因を指摘し、解決策を検討した上で、その妥当性を説明することができる。
- (4)工学倫理の観点から、必要な態度について検討し、説明することができる。
- (5a)技術に関わる事例について、倫理課題の原因を分析し、予防策・解決策を検討できる。(エネルギー循環化学科・環境生命工学科)
- (5b)各学科専門領域の倫理的課題を検討し、必要な解を導くことができる。(機械システム工学科・建築デザイン学科、情報メディア工学科)

教科書 /Textbooks

中村収三・一般社団法人近畿化学協会工学倫理研究会(2013): 技術者による実践的工学倫理(第3版)、化学同人

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中の配布資料

工学倫理

(Engineering Ethics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 倫理課題が生じる状況 ビデオ教材「ソーラーブラインド」
- 3 製品・サービスなど製造物に関わる責任
- 4 製品・サービスなど製造物に関わる責任(演習)
- 5 製品・サービスの安全性問題と技術者の行動
- 6 製品・サービスの安全性問題と技術者の行動(演習)
- 7 リスクの評価と対応
- 8 リスクの評価と対応(演習)
- 9 技術者に拘わる法規、倫理規則
- 10 倫理課題の把握と対処 ビデオ教材「ソーラーブラインド」
- 11 知的財産に関する権利と倫理
- 12 知的財産に関する権利と倫理(演習) まとめ

エネルギー循環化学科・環境生命工学科

- 13 技術士における工学倫理
- 14 知的財産(特許)の考え方・特許明細書の構成分析
- 15 生命科学における工学倫理

機械システム工学科・建築デザイン学科、情報メディア工学科

- 13 専門分野の倫理課題検討
- 14 検討課題のポスター発表と相互評価
- 15 技術者関連資格試験問題を用いたまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 達成目標(1) : 提出課題 [10%]
達成目標(2) : 提出課題 [20%]
達成目標(3) : 提出課題 [20%]
達成目標(4) : 提出課題 [20%]
達成目標(5a)(5b) : 提出課題 [30%]

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題提出のためにMoodleを活用します。必ず利用者登録をして下さい。また、情報伝達のためにActiveMailを用いますので、受信するための設定を整えておいて下さい。登録キーは、ee2015(イー・イー・2015)となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この種の「倫理」についての問題は、往々にして暗い内容です。しかし、それらに上手く対応するスキルを身につければ、技術者にとって、明るくやりがいのある活躍の場が広がっていることでしょう。製品・サービスの利用者を守り、自分と仲間を守る方法を考えるのが、工学倫理なのです。

教科書を用いた事前学習と授業中の演習を軸として、学習を進めて行きます。十分な準備をすることで、より理解が進んで、楽しさを感じられる授業にしようと思います。

キーワード /Keywords

工学倫理、技術者倫理、技術倫理

企業研究

(Enterprises and Industries)

担当者名 増田 幸一 / Koichi MASUDA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業活動の全体像を把握し、自らのキャリア設計に活かすことができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会生活を送る上で、自らの適正を把握し、動機付けることができる。
	社会的責任・倫理観	●	企業の社会的な影響力を理解し、自らの働き方を設計することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			企業研究
			CAR302F

授業の概要 /Course Description

ビジネスモデル・キャンパスを用いながら、企業調査やパーソナル・ビジネスモデルを描く作業を通じて、仕事の選択や必要な学習・経験について具体的なイメージを持つことができるようになります。また、自分自身で継続的にキャリア設計を行ない、自分自身で望む仕事を探すことのできるスキルを身につけます。

履修者は、この授業に参加することで、次のことができるようになります。

達成目標

- (1) 就職志望先の企業（団体）について、ビジネスモデルを描き、説明することができる。
- (2) 自分自身に関するパーソナル・ビジネスモデルを描くことができる。
- (3) 企業についてのビジネスモデルを描き、パーソナル・ビジネスモデルと関連づけながら説明することができる。
- (4) 自身の職業観・キャリア観を整理し、説明することができる。
- (5) 班別活動に参加し、内容の充実に貢献することができる。

教科書 /Textbooks

ティム・クラークほか（2012）：ビジネスモデルYOU、翔泳社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

業界地図、東洋経済新報社（2014）
就職四季報、東洋経済新報社（2014）

企業研究

(Enterprises and Industries)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、「私の職業・キャリア構想」(1回目)
- 2 企業研究のツールとしてのビジネスモデル・キャンパス(BMC)の使い方
- 3 BMCを用いた志望先企業の分析と自己PR文の作成と共有
- 4 模擬就職面接の実施と相互評価
- 5 自己分析のためのパーソナル・キャンパス(PC)
- 6 パーソナル・キャンパス(PC)の作成と共有
- 7 パーソナルキャンパスの改善①「ライフホイール分析」と「現在わたしが一番に取り組んでいること」
- 8 パーソナルキャンパスの改善②「私はどんな人?」と「自己発見エクササイズ」
- 9 パーソナルキャンパスの改善③「ライフライン分析」、重要な出来事リストの作成
- 10 パーソナルキャンパスの改善④「ホランドの6つの傾向」
- 11 パーソナルキャンパスの改善⑤「わたしの人生の目的」、パーソナルキャンパスの再整理
- 12 志望先企業のBMCとわたし自身のPCとの整合性検証と自己PR文の作成
- 13 模擬就職面接の実施と相互評価(2回目)
- 14 BMCとPCのポスター発表会
- 15 まとめ「わたしの職業・キャリア構想」(2回目)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 達成目標(1): ビジネスモデル・キャンパスの作成と提出による。(20%)
達成目標(2): パーソナル・キャンパスの作成と提出による。(20%)
達成目標(3): BMCとPCの連関に関する分析レポートの作成と提出による。(20%)
達成目標(4): 「わたしのキャリア構想」レポート(1回目と2回目)の作成と提出による。(20%)
達成目標(5): 班別の活動に対する参加確認による。(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が必要ですので、必ず購入して下さい。Amazon.co.jpなどでも中古書を購入できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ワークショップや提出物が多く、作業量の多い授業になります。それでも、キャリア設計がなかなか進まない人にとっては、有意義な内容であると思います。

キーワード /Keywords

企業研究、自己分析、キャリア、パーソナルビジネス・モデル

キャリア・デザイン

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。 ※木曜2、3時限担当：眞鍋和博、木曜4時限担当：永田公彦

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

現代人のこころ

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 基盤教育センター, 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

現代人のこころ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 やればできる？成長する考え方と成長できない考え方はどう違うのか？
【動機づけ】【マインドセット】
- 第6回 その気にさせる心理学
【動機づけ】【動因】【誘因】【フィードバック】
- 第7回 コミュニケーションとは？
【認知】【スキーマ】【メンタルモデル】
- 第8回 わかりやすい文章作成，勝てるプレゼンテーション
【影響力】【説得】【社会的認知】
- 第9回 人づき合いの技術
【社会的スキル】【アサーション】【報告コミュニケーション】
- 第10回 三人寄れば文殊の知恵？船頭多くして船山に登る？
【集団討議】【集団思考】【創造性】
- 第11回 組織を動かす心理学
【リーダーシップ】【リスクマネジメント】【レジリエンス】
- 第12回 ストレスは人生のスパイス
【ストレス理論】【ストレスマネジメント】【ソーシャルサポート】
- 第13回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第14回 感情はコントロールできるか？
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。
【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第15回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。
【積極的傾聴法】【私メッセージ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・75% (範囲：第2～12回)
課題(レポート)・・・25% (範囲：第13～15回)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科
 植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科
 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
 /Department

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という概念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(高橋)
- 第2回 法と道徳について(重松)
- 第3回 障害のある人の権利—日本国憲法から(植木)
- 第4回 生命の「自己決定」権?(中村)
- 第5回 行政活動と法治主義(福重)
- 第6回 犯罪とは何か(大杉)
- 第7回 刑事裁判とはなんだろう?(水野)
- 第8回 家族とは何か(小野)
- 第9回 契約とは何か(民法入門:契約の意義,種類,成立から終了まで)(福本)
- 第10回 商事(ビジネス)に関する法の特徴は何か(今泉)
- 第11回 民事訴訟とは何か(小池)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立,雇用関係の展開,雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層(山口)

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる(100%,④に注意)。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから,テーマを1つ選び,レポートを1本作成して提出すること。
 - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
 - ③ レポートには,所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
 - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は,レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲(テーマ群)が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲(テーマ群)は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

現代社会と新聞ジャーナリズム

担当者名 /Instructor 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
		現代社会と新聞ジャーナリズム	
		SOC001F	

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活動している記者やデスクなどの講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 追跡・振り込め詐欺 / 深刻化する高齢者への犯罪 (社会部記者)
- 第3回 九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 第4回 人口減少社会を追う / 超高齢社会の先にあるもの (社会部記者)
- 第5回 デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (q B i x 編集長)
- 第6回 ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第7回 アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (前中国総局長)
- 第8回 地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第9回 新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 第10回 スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第11回 分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 第12回 報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 第13回 働く現場とは / 企画「働く 生きる」を取材して (生活特報部記者)
- 第14回 戦後70年を迎えて / 国の安全保障を考える (社会部記者)
- 第15回 北九州の現場から / 半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、ネットなど多メディア時代における新聞の役割、価値について、少しでも理解を深めてくれれば幸いです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー(メディアを読み解く力)

都市と地域

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【地域】 適宜文献や資料を紹介する。
【都市】 特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : 授業及び講師紹介
- 2回 地域1 : 地域概念 : 世界と日本の事例
- 3回 地域2 : 地域をどのように学問するか : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域間という考え方
- 5回 地域4 : グループ討論 : 地域とはなにか? 何が地域を規定するか?
- 6回 地域5 : 地域事例紹介1 (国内事例予定)
- 7回 地域6 : 地域事例紹介2 (海外事例予定)
- 8回 地域7 : 課題レポート発表・討論
- 9回 都市1 : 都市概念
- 10回 都市2 : 都市へ人や産業が集まる理由
- 11回 都市3 : 都市問題、都市の衰退
- 12回 都市4 : 今後の日本の都市のあり方を考える際に必要な視点
- 13回 都市5 : 都市間の連携による政策推進
- 14回 都市6 : 北九州の都市政策を考える(1) 【にぎわいづくり】
- 15回 都市7 : 北九州の都市政策を考える(2) 【総合的な政策推進】

成績評価の方法 /Assessment Method

【地域】 全体の50% : クイズ... 15% 授業内貢献... 10% レポート... 25%
【都市】 全体の50% : レポート... 35% 日常の授業への取り組み... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【地域】前半の「地域」のどこかで数回、クイズ(小テスト)を行う(当日発表)。レポートは各自印刷の上、地域7の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。

【都市】特になし。レポート提出方法等については授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。

【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い/悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市政策、にぎわい

現代の国際情勢

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 / Semester 1学期 / Class Format 授業形態 講義 / Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。	
			現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランシング戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定【FTA】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地 【人件費】【為替レート】
- 6回 企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
- 7回 企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
- 8回 グローバル化と人材①【トヨタ生産方式】【熟練】
- 9回 グローバル化と人材②【マザー工場】【人材育成】
- 10回 グローバル化と途上国の成長・発展【開発経済】【労働移動】
- 11回 グローバル化と先進国の経済【格差】【ジニ係数】
- 12回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワークング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機【バブル】【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機【リーマンショック】【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II HIS005F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史の読み方II

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

地球環境システム概論

(Introduction to Environmental Systems)

担当者名 /Instructor
寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科
石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球環境システムの様々な問題について基本的な知識及び考え方を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	地球環境の現状について定量的に認識する能力を身につける。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		地球環境システム概論	ENW103F

授業の概要 /Course Description

地球環境（水環境を中心に大気，土壌，生態系，資源・エネルギーなど）の歴史から現状（発生源，移動機構，環境影響，対策など）を国土や地球規模からの視点で概観できるような講義を行い，環境保全の重要性を認識できるようにする。

教科書 /Textbooks

特になし。随時、必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・地球環境の変遷
- 2 文明崩壊
- 3 酸性雨とオゾン層
- 4 広がる化学物質汚染（放射性物質を含む）
- 5 地球温暖化
- 6 水汚染・浄化（水環境）
- 7 種の絶滅と生物多様性の保全
- 8 資源とエネルギー
- 9 大地を守る（土壌環境）
- 10 森を守る（環境と植生）
- 11 水資源を守る（水不足）
- 12 持続可能社会の最新技術
- 13 環境再生の事例
- 14 北九州市における環境の取組み
- 15 海を守る（富栄養化・赤潮）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地球環境システム概論

(Introduction to Environmental Systems)

履修上の注意 /Remarks

授業の最後に20分程度の演習を実施するので、各授業を集中して聞くようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境に対する問題意識や将来展望を持つことは、あらゆる専門分野で必要不可欠なものになりつつあります。講義項目は、多岐にわたりますが、現状と基本的な考え方が理解できるような講義を行います。皆さんの将来に必ずプラスになるものと確信しています。

キーワード /Keywords

エネルギー・廃棄物・資源循環概論

(Introduction to Resources Recycling)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 /Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	資源の循環利用に必要な専門的知識を修得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル	●	資源の循環利用などに関する数量的知識を修得する。	
思考・判断・表現	英語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			

エネルギー・廃棄物・資源循環概論 ENV201F

授業の概要 /Course Description

廃棄物減量、資源循環を実現するために資源、エネルギー全般、廃棄物全般を概説する。また、それらを背景として取り組んでいるリサイクルシステム（マテリアル、エネルギー、排水・廃棄物など）について、資源、エネルギー回収と処理の観点からそれぞれの技術や社会的な仕組みを概観できるような講義を行い、科学技術が持続可能な社会形成に果たす役割を理解できるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 資源、エネルギー概論
- 2 廃棄物概論
- 3 リサイクルと3R
- 4 リサイクル技術1(回収物の評価方法)
- 5 リサイクル技術2(単体分離技術)
- 6 リサイクル技術3(物理的分離技術)
- 7 リサイクル技術3(化学的分離技術)
- 8 生物学的排水処理システムの基礎
- 9 物質の循環(生態系における炭素・窒素・リンの循環)
- 10 生物学的排水処理システム1(窒素除去活性汚泥法)
- 11 生物学的排水処理システム2(活性汚泥法)
- 12 生物学的排水処理システム3(リンの生物学的除去)
- 13 主な汚濁物質の分析方法
- 14 汚濁物質除去の計算
- 15 最終処分場と不法投棄

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 60%
試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

エネルギー・廃棄物・資源循環概論

(Introduction to Resources Recycling)

履修上の注意 /Remarks

講義中に配付した資料を見直し、次の講義への準備をしておく必要がある。
演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

リサイクル・水・廃棄物処理に関する体系的な知識が習得できる。

キーワード /Keywords

環境問題特別講義

(Introductory Lecture Series on Environmental Issues)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~) , 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~)
森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域及び地球規模での環境問題について、その仕組みと基本的な対応に関する知識を正しく理解する。
技能	情報リテラシー	●	環境問題に関する情報源は多数ある。その中から科学的な情報を適切に入手する能力を修得する。
	数量的スキル	●	環境問題に関する課題（エネルギー消費や水質指標）についての演習を行い、環境問題を数量的に把握する能力を修得する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		環境問題特別講義	ENV101F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、地球規模の問題であるとともに地域の問題でもある。目前に見える今日の課題から地球温暖化のように将来の課題まで含んでいる。そして、私たち日常生活のみならず産業経済や政治も環境問題にどのように対応するかが重要なテーマである。本授業では、各分野で活動する専門家の講義を受けるとともに、演習や見学を通して環境問題の概略を理解する。

教科書 /Textbooks

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会編著「エコアクションが地球を救う！第2版」丸善

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都研究会編著「環境首都 - 北九州市」日刊工業新聞社
米本昌平「地球環境問題とは何か」岩波新書
門脇仁「最新環境問題の基本がわかる本 [第2版] 」秀和システム
ほか授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境問題とは何か
 - 2 環境と科学
 - 3 環境問題演習① (エネルギー消費)
 - 4 環境問題演習② (環境負荷 : BOD)
 - 5 北九州市の環境政策
 - 6 環境問題と市民の役割
 - 7 環境問題と企業の役割
 - 8 環境問題と報道の役割
 - 9 環境産業 (技術) の発展
 - 10 自然史・歴史博物館 (いのちのたび博物館) の見学と講義
 - 11 エコタウン施設の見学
 - 12 環境問題事例研究ガイダンス① (チーム編成)
 - 13 環境問題事例研究ガイダンス② (研究テーマの検討)
 - 14 環境問題事例研究ガイダンス③ (テーマ決定、夏期休暇中の活動)
 - 15 まとめ
- (講義の順番は講師の都合により入れ替る)

環境問題特別講義

(Introductory Lecture Series on Environmental Issues)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20% (講義内容への質問等も評価する)
レポート 30% (レポートは、講義内容や施設見学に関するもの)
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容に関する演習、小論文、課題提出等を課す。常に授業への集中力を持続すること。
講師の都合等で、講義内容に変更が生じる場合がある。土曜日に施設見学を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義内容のノート・メモをとり、聴きながら整理する習慣をつけ、学校生活のペースを身につけること。そのためには、講義内容に関係した記事を新聞雑誌で読んだり、参考書で学習すること、友人と意見交換することを奨める。

キーワード /Keywords

環境問題 生態系 環境負荷 エネルギー消費 北九州市 エコタウン

生物学

(Biology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生物学の基礎に関する内容について、自分の言葉で説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	生物の階梯について定性的に理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			生物学
			BI0111F

授業の概要 /Course Description

生物学の導入として、(1) 細胞の構造と細胞分裂、(2) 遺伝、(3) 生殖と発生、(4) 系統進化と分類、(5) 生物の生理、の各分野について概説します。本講義では、生物学を初めて学ぶ者にも理解できるように基本的な内容を平易に解説し、全学科の学生を対象に自然科学の教養としての生物学教育を行うとともに、生物系の専門課程の履修に最低限必要な生物学の基盤教育を行います。

教科書 /Textbooks

生物学入門 第2版 石川統 ほか 著、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生体構成物質
- 2 細胞の構造
- 3 細胞の機能
- 4 細胞分裂
- 5 遺伝の法則
- 6 遺伝子
- 7 ヒトの遺伝
- 8 適応
- 9 進化
- 10 系統分類
- 11 配偶子形成
- 12 初期発生
- 13 植物の発生
- 14 刺激と反応
- 15 恒常性の維持

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 絶対評価します
課題 20% 講義期間中に随時課します
出席 評点には含めませんが、極力全講義に出席してください

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生物学

(Biology)

履修上の注意 /Remarks

平易な解説を行います。講義はすべて積み重ねであるので、一部の理解が欠如するとその後の履修に支障が生じます。そのため、毎回の講義を真剣に受講し、その場ですべてを完全に理解するように心がけてください。生物学の理解のためには、化学、物理学の基礎的知識が必要です。本講義では、生物学を初めて学ぶ学生にも理解できるような平易な解説を行います。高校までの化学、物理学の知識は再確認しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物学が好きな学生、嫌いな学生ともに、基礎から学べるような講義を行います。すでに生物学を学んだことのある人は再確認を行い、また生物学初学者は基礎をしっかりと身につけ、専門科目へのつなぎを作ってください。

キーワード /Keywords

細胞・遺伝・系統分類・進化・発生・生理

生態学

(Ecology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生態学にかかわる基礎的内容について各自の言葉で説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	生態現象を支配する理論に関して、定性的にその概念を理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			生態学
			BI0112F

授業の概要 /Course Description

生態系は、私たち人間も含めた生物と環境との相互作用によって成り立っています。この相互作用の基本となるものは物質とエネルギーで、生態系における物質・エネルギーの挙動と生物との関係を正しく理解する事が、諸々の環境問題の正しい理解とその解決策の検討には不可欠です。本講義では、このような観点から、(1)生態系の構造と機能、(2)個体群と生物群集の構造、(3)生物地球化学的物質循環、を中心に生態学の基礎的内容を講述します。

教科書 /Textbooks

生態学入門 -生態系を理解する- (原口昭 編著) 生物研究社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本の湿原 (原口昭 著) 生物研究社
 - 攪乱と遷移の自然史 (重定・露崎編著) 北海道大学出版会
- ほか必要に応じて講義の中で指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球環境と生物 - 生態系の成り立ち
- 2 生態系の構成要素 - 生物・環境・エネルギー
- 3 生物個体群の構造
- 4 種内関係
- 5 生態的地位
- 6 種間関係
- 7 生態系とエネルギー
- 8 生態系の中での物質循環
- 9 生態系の分布
- 10 生態系の変化 - 生態遷移
- 11 土壌の成り立ちと生物・環境相互作用
- 12 生態系各論：森林生態系・海洋生態系
- 13 生態系各論：陸水生態系・湿地生態系
- 14 生態系各論：農林地生態系・熱帯生態系
- 15 生態系各論：エネルギー問題と生態系

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 80% 絶対評価します
レポート 20% 講義中に随時実施します
出席 評点には加えませんが、極力すべての講義に出席してください

生態学

(Ecology)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義の積み重ねで全体の講義が構成されていますので、毎回必ず出席して、その回の講義は完全に消化するよう努めてください。工学系の学生にとっては初めて学習する内容が多いと思いますが、何よりも興味を持つことが重要です。そのために、生態系や生物一般に関する啓蒙書を読んでおくことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考える上で生物の機能は不可欠な要素です。これまで生態系に関する講義を履修してこなかった学生に対しても十分理解できるように平易に解説を行いますので、苦手意識を持たずに取り組んでください。

キーワード /Keywords

生態系・生物群集・個体群・エネルギー・物質循環・生態系保全

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境マネジメントのスキルとして、環境問題の現状把握・将来予測・管理手法等に関する基礎的専門知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題に対して、改善のための目標をどのように設定し、対策を施し、進行管理を行うか、企業や行政の現場で直面する具体的な事例をもとに理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	工学の環境問題に対する社会的責任と倫理観を理解し、社会に出て技術者として何ができるか考える基礎とする。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		環境マネジメント概論 ENW212F	

授業の概要 /Course Description

多様な要素が関係する環境問題を解きほぐし、その対策・管理手法を考えるための基礎知識を修得することが目標である。まず、人間活動がどのように環境問題を引き起こしているのか、その本質的原因を知るために、経済システムや都市化、工業化、グローバル化といった視点から環境問題を捉える。次に、環境の現状把握のための評価手法、目標設定のための将来予測の考え方を学び、さらに、環境マネジメントの予防原則に則った法制度、国際規格、環境アセスメント、プロジェクト評価手法、環境リスク管理等の基礎を習得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義ではプリントを配付する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境システム（土木学会環境システム委員会編、共立出版）○
環境問題の基本がわかる本（門脇仁、秀和システム）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- < 環境問題を考える視点 >
- 1 環境システムとそのマネジメント（松本）
- < 環境問題の原因を考える >
- 2 都市化・工業化・国際化（二渡）
- 3 市場と外部性（加藤）
- < 環境の状態をつかみ目標を決める >
- 4 地域環境情報の把握と環境影響予測（野上）
- 5 製品・企業の環境パフォーマンス（未定）
- 6 地球環境の把握と将来予測（松本）
- 7 経済学的手法による予測（加藤）
- < 環境をマネジメントする >
- 8 国内・国際法による政策フレーム（未定）
- 9 国際規格による環境管理（二渡）
- 10 開発事業と環境アセスメント（野上）
- 11 環境関連プロジェクトの費用と便益（加藤）
- 12 環境リスクとその管理（二渡）
- 13 環境情報とラベリング（未定）
- < 事例研究 >
- 14 企業（野上）
- 15 行政（松本）

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト 42%
期末試験 58%

※2/3以上出席すること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する小テストを実施するので集中して聞くこと。
欠席すると必然的に小テストの得点はゼロとなる。
小テストは講義の最後なので、早退の場合も欠席同様、小テストの得点はゼロとなるので注意が必要である。
30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境生命工学科環境マネジメント分野の教員全員による講義です。環境問題の本質をつかみ、理解し、解決策を見出すための理念と基礎手法を解説します。工学部出身者として、今やどの分野で活躍する場合でも習得しておくべき知識と言っていいでしょう。

キーワード /Keywords

環境と経済

(The Environment and Economics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル	●	社会的な現象を数理モデルを使って分析するための枠組みを理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の対策について、経済学的な視点から基本的な考察することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	環境問題に関わるステークホルダーの立場に配慮しつつ、望ましい解決に向かうための考え方を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		環境と経済	ENW211F

授業の概要 /Course Description

環境問題に関し、経済学的な観点から、社会にとって良い政策とは何かを考える。2部構成とし、第一部では、ミクロ経済学の知識を必要な範囲で伝授する。第二部では、環境税や排出権取引のしくみを説明する。実際の政策の議論では、さまざまな論点が混じり合い、これらの対策の本来の意義が見えにくくなっているため、原点に立ち返ることを学ぶ。

教科書 /Textbooks

説明用のプリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日引聡・有村俊秀(2002)「入門 環境経済学」中公新書 842円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：環境問題と経済学
- 2 需要曲線と消費者余剰
- 3 費用と供給曲線 1【費用の概念】
- 4 費用と供給曲線 2【供給曲線の導出】
- 5 供給曲線と生産者余剰
- 6 市場と社会的余剰 1【市場の機能】
- 7 市場と社会的余剰 2【社会的余剰の算出】
- 8 中間テストと前半の復習
- 9 環境問題と環境外部性
- 10 環境税のしくみ 1【社会的余剰最大化】
- 11 環境税のしくみ 2【汚染削減費用最小化】
- 12 排出権取引のしくみ 1【汚染削減費用最小化】
- 13 排出権取引のしくみ 2【初期配分の意義】
- 14 環境税と排出権取引の比較
- 15 事例紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・中間テスト 45%
期末テスト 45%
レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境と経済

(The Environment and Economics)

履修上の注意 /Remarks

高校レベルの微分積分および基本的な偏微分の知識を前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題に対する経済学的対処法に興味がある人は、ぜひ受講してください。理解促進のために5回程度の小テストを実施予定です。公務員試験を受ける人は、ミクロ経済学の勉強にもなります。

キーワード /Keywords

環境都市論

(Urban Environmental Management)

担当者名 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市の環境問題の発生と対策・政策の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力		
	課題発見・分析・解決力	●	都市環境問題に対して、どのように生産・消費等の人間活動が原因や解決に関わっているのかを理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		環境都市論	ENV213F

授業の概要 /Course Description

アジア各国で進行している産業化、都市化、モータリゼーション、消費拡大とそれらに起因する環境問題には、多くの類似性が見られる。日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するこれらの諸国への先行モデルとして高い移転可能性を持つ。本講では、北九州市を中心とした日本の都市環境政策を題材に、環境問題の歴史と対策を紐解き、その有効性と適用性について考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義ではプリントを配付する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東アジアの開発と環境問題（勝原健、勁草書房）
その他多数（講義中に指示する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロ（松本亨）
- 2 日本の環境政策の歴史的推移（松本 亨）
- 3 産業公害に対する環境政策：北九州市洞海湾を例に（福岡女子大学・山田真知子教授）
- 4 都市の土地利用・土地被覆と熱環境（崇城大学・上野賢仁教授）
- 5 廃棄物問題と経済学（西南学院大学・小出秀雄教授）
- 6 都市交通をめぐる環境問題とその総合対策（九州工業大学・寺町賢一准教授）
- 7 北九州の生物をめぐる水辺環境の問題（エコプラン研究所・中山歳喜代表取締役所長）
- 8 水資源と都市型水害（福岡大学・渡辺亮一准教授）
- 9 物質循環から見た循環型社会の姿（松本亨）
- 10 再生可能エネルギーの産業化と低炭素社会を目指す九州の取組（九州経済調査協会・徳田一憲主任研究員）
- 11 再生可能エネルギーを利用した村落単位の電化促進：インドの取り組み（国際東アジア研究センター・今井健一主席研究員）
- 12 バイオマスから持続可能を考える（NPO九州バイオマスフォーラム・中坊真事務局長）
- 13 食品ロスとフードバンクの役割（NPO法人フードバンク北九州・ライファゲイン・原田昌樹代表）
- 14 ソーシャルビジネス概論～社会を変えるアイデア～（西日本産業貿易コンベンション協会・古賀敦之課長）
- 15 環境対策の包括的評価（松本亨）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への積極的参加）10% ※2/3以上出席すること
毎回の復習問題 60%
期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境都市論

(Urban Environmental Management)

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する復習問題（選択式）を実施するので集中して聞くこと。
欠席すると必然的にこの得点がゼロとなるので注意。
復習問題は講義の最後なので、早退の場合も欠席同様、復習問題の得点はゼロとなるので注意が必要である。
30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市あるいは九州の環境への取り組みの現状と課題について、その第一線で関わってこられた研究者、企業、NPO等の担当者に講述していただきます。学生諸君は、北九州市で過ごした証に、北九州市の環境政策について確実な知識と独自の視点を有して欲しい。

キーワード /Keywords

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

担当者名 /Instructor
森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室, 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)
西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~), 岡田 伸廣 / Nobuhiro OKADA / 機械システム工学科 (19~)
仲尾 晋一郎 / Shinichiro NAKAO / 機械システム工学科 (19~), 佐藤 敬 / Takashi SATOH / 情報システム工学科 (19~)
佐藤 雅之 / Masayuki SATO / 情報システム工学科 (19~), 保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~)
安藤 真太郎 / Shintaro ANDO / 建築デザイン学科 (19~), 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)
河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 /Year
単位 2単位 /Credits
学期 2学期 /Semester
授業形態 演習 /Class Format
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department
【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題をテーマにした調査研究活動とチーム活動を実践することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	チームによる調査研究活動を通じて、問題を発見し解決するためのプロセスを設計することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会生活に適用できる知識や技能を修得することができる。
	コミュニケーション力	●	チーム活動を通して、情報の伝達や共有の作法が身につく。
		環境問題事例研究	
		ENW102F	

授業の概要 /Course Description

環境問題の本質を理解し、解決への糸口を見つける最善の方法は、直接現場に接することである。そして、多様な要素の中から鍵となる因子を抽出し、なぜ問題が発生したのかを考える。この環境問題事例研究では、チームごとに独自の視点で問題の核心を明らかにし、目標設定、調査手法選択、役割分担などの検討を経て、自主的に調査研究を進め、研究成果のとりまとめ・発表を行う。

教科書 /Textbooks

環境問題特別講義の教科書及びその中で紹介されている書籍、関連Webサイトを参考にすること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その他、参考となる書籍等については、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 研究計画の発表
- 3 調査研究の実施
- 4 調査研究の実施
- 5 調査研究の実施
- 6 中間発表会
- 7 調査研究の実施
- 8 調査研究の実施
- 9 発表準備、調査研究とりまとめ
- 10 発表準備、調査研究とりまとめ
- 11 第1次発表会 (口頭発表)
- 12 調査研究とりまとめ、調査研究報告書作成
- 13 第2次発表チームの発表、調査研究とりまとめ
- 14 第2次発表会 (口頭発表、ポスター発表)
- 15 表彰式

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

成績評価の方法 /Assessment Method

調査研究活動や発表等 50% チーム内での貢献度を評価する。
成果発表や報告書の成績 50% チーム内での貢献度を評価する。
以上を個人単位で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業計画は、あくまでも目安になるものである。この科目では、開講期間全体を通じ、時間管理を含めて、「学び」の全てとその成果を受講生の自主性に委ねている。
調査研究は、授業時間内及び時間外に行う。フィールドワークを伴うことから、配付する資料に示される注意事項を守り、各自徹底した安全管理を行うこと。連絡は、基本的にオンライン学習システムを通して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業科目は、テーマに関連した北九州の環境や生産の現場を直接訪問し、自分の目で見て、考えるとともに、分野を超えて友人や協力者のネットワークをつくる機会となる。積極的にかかわり、有意義な科目履修になることを期待する。

キーワード /Keywords

未来を創る環境技術

担当者名 /Instructor 龍 有ニ /Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 朝見 賢二 /Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)
鈴木 拓 /Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~), 門上 希和夫 /Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科
泉 政明 /Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 /Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)
松永 良一 /Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 佐藤 敬 /Takashi SATOH / 情報システム工学科 (19~)
佐藤 雅之 /Masayuki SATO / 情報システム工学科 (19~), 福田 展淳 /Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)
城戸 将江 /Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 高 偉俊 /Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~)
櫻井 和朗 /Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 /Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
森田 洋 /Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice この科目は北方・ひびきの連携科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
			未来を創る環境技術
			ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：バイオ燃料の製造技術
- 第3回：放射性物質の危険度
- 第4回：未来の環境分析
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その1・燃料電池）
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その2・エンジン、次世代発電システム）
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：無人航空機システム～空から豊かで安全・安心な環境を創る～
- 第9回：ユニバーサルデザイン～人間の多様性に配慮した生活環境の設計～
- 第10回目：環境に配慮する建築デザイン
- 第11回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
- 第12回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- レポートおよび小テスト30%
- 期末課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。
- 私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
- 都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

- 環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

英語演習 I

(English Skills I)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師, 中野 秀子 / Hideko NAKANO / 非常勤講師
林 南乃加 / Nanoka HAYASHI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語によるコミュニケーションに必要とされる基本的な英文法、語彙を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	平易な英語を用いて必要な情報を収集することができる。
		英語演習 I	ENG100F

授業の概要 /Course Description

この科目では、コミュニケーションの道具として英語を用いるのに最低限必要とされる受信力（読む・聞く）を向上させることを目指す。そのためTOEICテスト形式の問題を素材として様々なトピックを扱い、高等学校までに学習した基本的な英文法および語彙を復習する。また、この授業を通して、卒業後の英語学習に活用できる学習方法やスキルを習得および実践する。

この授業では以下の4つを到達目標とする。

- ① 基本的な英語の文法の定着
- ② 基本的な英語の語彙の定着
- ③ TOEICテストにおいて400点以上の英語力の習得
- ④ 自律的な学習習慣の確立

教科書 /Textbooks

- ① 『Longman Preparation Series for the TOEIC Test: Introductory Course』 (By Lin Lougheed) Pearson.
- ② 『Newton e-learning』 ¥3,200 (なお、再履修学生については別途指示する。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

英語演習 I

(English Skills I)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. <合同授業> オリエンテーション・eポートフォリオの説明
- 2.Part 1: Strategy Overview & Photos of People (pp. 2-18)
- 3.Part 1: Photos of Things (pp. 19-32)
- 4.Part 1: Strategy Review (pp. 33-38)
- 5.Part 2: Strategy Overview & Identifying Time, People, and an Opinion (pp. 39-46)
- 6.Part 2: Identifying a Choice, a Suggestion, a Reason and a Location (pp. 47-55)
- 7.Part 2: Strategy Review (pp. 56-57)
- 8.Review (Part 1 & 2)
- 9.Part 5: Strategy Overview, Word Families, Similar Words, Pronouns, and Prepositions (pp. 120-130)
- 10.Part 5: Coordinate Conjunctions, Subordinate Conjunctions, Verb Tenses, and Phrasal Verbs (pp. 131-139)
- 11.Part 5: Strategy Review (pp. 140-142)
- 12.Part 6: Strategy Overview, Word in Context, Possessive Adjectives and Pronouns, and Prepositions (pp. 143-149)
- 13.Part 6: Verb Tense, Adjective Comparisons, and Gerunds or Infinitives (pp. 150-156)
- 14.Part 6: Strategy Review (pp. 157-160)
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① TOEICのスコア50%
- ② 小テスト・課題30%
- ③ 課題 (eラーニング) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

成績評価の対象となるTOEICのスコアは、本学に入学後に受験した公開試験、カレッジTOEICもしくはTOEIC IPのものとなりますので、第1学期中に必ずいずれかの試験を受けてください。詳細は第1回の授業にて説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「テニスがうまくなりたい」としよう。テニスの試合を見ているだけでうまくなるだろう。決してそんなに甘いものではない。自ら地道に毎日トレーニングを積み重ねて初めて、試合で満足のいくプレイができるようになるだろう。英語も同じである。授業を受けている(見ている)だけでは、決して上達しない。毎日の学習・練習・実践が必要である。学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション I

(Presentation I)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室, 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師, 江口 雅子 / Masako EGUCHI / 非常勤講師
國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	資料を正しく分析的に読み、分かりやすくまとめることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	理解した事柄を日本語で論理的にかつ効果的に伝えることができる。
		プレゼンテーション I	ENG103F

授業の概要 /Course Description

身の回りのさまざまな事柄について書かれた英語の文章を正しく分析的に読み、内容を批判的に検討できるようにする。さらに理解した内容を再構成し、人前で論理的かつ明確に表現する力を養う。この授業では以下の5つを到達目標とする。

- (1) 英語の文章を正しく、分析的に読む
- (2) 内容を批判的に検討し、発表できるようにまとめる
- (3) 日本語で論理的かつ明確に表現する
- (4) 日本語で発表するのに相応しい話し方や態度を身につける
- (5) 聞き手の理解を容易にするために補助資料などを活用する

教科書 /Textbooks

プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. プレゼンテーションとは?
2. 簡単なプレゼンテーションをしてみよう
3. 自分のプレゼンテーションをふりかえろう
4. ハンドアウトを作ろう(1): 資料収集
5. ハンドアウトを作ろう(2): 発表準備
6. ハンドアウトを作ろう(3): プレゼンテーション
7. ハンドアウトを作ろう(4): ふりかえり
8. ポスターを作ろう(1): 資料収集
9. ポスターを作ろう(2): 発表準備
10. ポスターを作ろう(3): プレゼンテーション
11. ポスターを作ろう(4): ふりかえり
12. プレゼンテーションソフトを使って発表しよう(1): 資料収集
13. プレゼンテーションソフトを使って発表しよう(2): 発表準備
14. プレゼンテーションソフトを使って発表しよう(3): プレゼンテーション
15. プレゼンテーションソフトを使って発表しよう(4): ふりかえり

プレゼンテーション I

(Presentation I)

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション…40%
プレゼンテーション用資料…30%
授業への積極的な参加・課題…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料の収集や配付資料・ポスターの作成などプレゼンテーションを行うためには準備に時間がかかりますので、学習計画をしっかりと立てて授業に臨んでください。また、課題によっては他の受講生と協力して取り組む場合がありますので、普段接する機会がない人と一緒に作業を試みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経団連のアンケート結果によると、グローバルに活躍する日本人に求められる素質や能力の1つに「外国語によるコミュニケーション能力」が挙げられています。この能力は語学力だけでなく、相手の意見を聴いた上で、自分の意見を論理的にわかりやすく説明する能力とされています。また、外国人人材についてはアンケートに回答した企業の過半数が「専門能力に関わらず、日本人と同程度の日本語能力を求める」としています。

日本人の受講生にとっては、第2学期に開講される「プレゼンテーションII」の前段階として、英語で書かれた資料を日本語で論理的でわかりやすく説明する練習をしていきます。また、外国人の受講生にとっては、将来、日本人と働いていけるように日本語で伝える力を身につけることをねらいとしています。課題に主体的に取り組む、将来求められる力の礎を築きましょう。

キーワード /Keywords

Intensive English Course

(Intensive English Course)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語の聞く力、話す力を向上させる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	様々なテーマについて自分の意見を英語で述べることができる。

Intensive English Course

ENG200F

授業の概要 /Course Description

The goal of this class is for students to sharpen all four English skills (reading, writing, speaking, and listening), with a focus on improving communication skills. Students will engage in group discussions and debates, as well as prepare group and individual presentations on a variety of topics during this course. Students will not only think about various issues and topics facing the globalized world today, but also be required to express their opinions on these topics in a strong and clear manner. At the end of this course, students should be more confident in their communication skills, and their ability to express their views in English on various issues.

教科書 /Textbooks

Handouts prepared by the instructor will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Course Introduction
 Class 2: Education Styles (Introduction)
 Class 3: Education Styles (Discussion)
 Class 4: Education Styles (Presentation)
 Class 5: Family Structures (Introduction)
 Class 6: Family Structures (Discussion)
 Class 7: Family Structures (Presentation)
 Class 8: Review
 Class 9: Being a Global Citizen (Introduction)
 Class 10: Being a Global Citizen (Discussion)
 Class 11: Being a Global Citizen (Presentation)
 Class 12: Race and Gender Issues (Introduction)
 Class 13: Race and Gender Issues (Discussion)
 Class 14: Race and Gender Issues (Presentation)
 Class 15: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework (30%)
 Presentations (40%)
 Final Assessment (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Intensive English Course

(Intensive English Course)

履修上の注意 /Remarks

Please bring a dictionary to every class

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class will be conducted entirely in English. Your instructor will not use Japanese, and you are expected to speak only in English as well. This class will be limited to 25 students. Students will be chosen according to their English proficiency.

キーワード /Keywords

This class is an elective intensive English communication course. In today's world, it is important to not only learn about the world around you, but how to express your opinion on a variety of topics important to people all over the world. This class will help you to learn how to better express yourself in English, and make you a more confident global citizen.

TOEIC基礎

(Introductory TOEIC)

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	TOEICの出題形式をもとに、基本的なリスニング力、リーディング力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	平易な英語を用いて、ビジネスの場面において必要な情報を収集することができる。
		TOEIC基礎	ENGI20F

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEICについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な英文法・語彙を復習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の養成を図る。特にTOEICで出題されやすい文法事項および語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図るとともに、少なくとも授業終了時までにはTOEICにおいて400点程度のスコアを取れる英語力をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol. 6』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4, vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1～4（リスニング）の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5～7（リーディング）の概要
- 4回 Part 1、Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2、Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3、Part 5と関連する文法の学習
- 7回 Part 4、Part 5と関連する文法の学習
- 8回 復習
- 9回 Part 6と関連する文法の学習、読解練習
- 10回 Part 7と関連する文法の学習、読解練習
- 11回 Part 1～4 総合復習
- 12回 Part 5～7の総合復習
- 13回 総合復習（全パート）
- 14回 読解練習
- 15回 模擬テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・40% 単語テスト・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修希望者が40名を超えるクラスについては、履修制限をかけることがある。

TOEIC基礎

(Introductory TOEIC)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICテストの難易度は高いが取り組み方により結果を出すことができるので、与えられた課題は必ず学習し準備してから授業に臨むこと。

キーワード /Keywords

TOEIC応用

(Advanced TOEIC)

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル		
	英語力	●	TOEICの出題形式をもとに、高度なリスニング力、リーディング力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ビジネスの様々な場面において、英語を用いて必要な情報を収集することができる。
		TOEIC応用	ENG220F

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEIC 400点相当以上の英語力の学生を対象として、TOEICにおいてより高い点数を取ることを目指す。TOEICの出題形式や問題の特徴を踏まえ、より高度なリーディング力・リスニング力を養成する。特にTOEICに頻出するビジネス関連の文書や英語を用いたアナウンスやニュース、スピーチなどを、限られた時間内に正しく理解できるような英語力を養う。授業終了時までにはTOEIC 600点程度の英語力をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『More Step-up Skills for the TOEIC Test』（北尾泰幸他著）(Asahi Press, 2014) ¥ 1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Eating Out
- 第3回 Unit 2 Travel
- 第4回 Unit 3 Amusement
- 第5回 Unit 4 Meeting
- 第6回 Unit 5 Personnel
- 第7回 Unit 6 Shopping
- 第8回 Unit 7 Advertisement
- 第9回 Unit 8 Daily Life
- 第10回 Unit 9 Office Work
- 第11回 Unit 10 Business
- 第12回 Unit 11 Traffic
- 第13回 Unit 12 Finance and Banking
- 第14回 Unit 13 Media
- 第15回 Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①期末テスト 50%
- ②小テスト 30%
- ③提出物 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

TOEIC応用

(Advanced TOEIC)

履修上の注意 /Remarks

予習を前提に授業をすすめるので、必ず自宅学習を行うこと。
履修希望者が40名を超えるクラスについては、履修制限をかけることがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では、制限時間を設定して練習問題を解くことにより、速読能力の向上を図る。自宅学習では、語彙、文法の重要事項等の復習を行ない、学習内容を定着させることが必要。

キーワード /Keywords

英語演習 II

(English Skills II)

担当者名 /Instructor
長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室
プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師, 江口 雅子 / Masako EGUCHI / 非常勤講師
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師, 國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department
【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語によるコミュニケーションに必要とされる文法、語彙を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	比較的平易な英語を用いて、必要な情報を収集することができる。
			英語演習 II
			ENG110F

授業の概要 /Course Description

この科目では、コミュニケーションの道具として英語を用いるのに必要とされる受信力（読む・聞く）を向上させ、限られた範囲内であれば業務上のコミュニケーションも可能なレベルを目指す。そのためにTOEICテスト形式の問題を素材として扱い、卒業後にそれぞれの専門分野においてコミュニケーションの道具として英語を使うために最低限必要とされる英語の基本的な受信力（読む・聞く）を伸ばす。また、この授業を通して、卒業後の英語学習に活用できる学習方法やスキルを習得および実践し、自律的に学習する態度を養う。この授業では特に以下の4つを到達目標とする。

- ① 基本的な英語の文法の定着
- ② 基本的な英語の語彙の定着
- ③ TOEICテストにおいて470点以上の英語力の習得
- ④ 自律的な学習習慣の確立

教科書 /Textbooks

第1学期の教科書をそのまま使用する。

- ① 『Longman Preparatin Series for the TOEIC Test: Introductory Course』, (By Lin Lougheed), Pearson.
- ② 『Newton e-learning』 ¥3,200 (なお, 「英語コミュニケーションII」の再履修学生については別途指示する。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後, 各担当者より指示する。

英語演習 II

(English Skills II)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション , Part 7: Strategy Overview, and Advertisement (pp. 161-169)
- 2.Part 7: Business CorrespondenceからArticles and Reports (pp. 170-178)
- 3.Part 7: Announcements and ParagraphsからDouble Passage(pp. 179-188)
- 4.Part 7: Strategy Practice (Single Passages) (pp. 189-195)
- 5.Part 7: Strategy Practice (Double Passage) (pp. 196-199)
- 6.Reading Review
- 7.Reading Reviewの解答・解説
- 8.Part 3: Strategy Overview, Identifying Time & People (pp. 58-65)
- 9.Part 3: Identifying Intent, the Topic, and a Reason (pp. 66-73)
- 10.Part 3: Identifying a Location, an Opinion, and Stress and Tone (pp. 74-81)
- 11.Part 4: Strategy Overview, Identifying the Sequence and the Audience (pp. 86-93)
- 12.Part 4: Identifying a Location, the Topic, and a Request (pp. 94-101)
- 13.Part 3 & 4: Strategy Review and Practice (pp. 82-85, pp. 102-104)
- 14.Listening Review
15. Listening Reviewの解答・解説

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① TOEICのスコア50%
- ② 小テスト・課題30%
- ③ 課題 (eラーニング) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

成績評価の対象となるTOEICのスコアは、本学に入学した後に受験した公開試験、カレッジTOEICもしくはTOEIC IPのいずれかで、第1学期の成績評価のために使用していないものとなります。詳細は授業で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プレゼンテーション II

(Presentation II)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室, 新貝 フランセス / Frances SHINKAI / 非常勤講師
富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師, 中野 秀子 / Hideko NAKANO / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語のプレゼンテーションで使用される基礎的な表現法と構成を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	様々な情報やデータを英語で分かりやすく伝える技能を身につける。
			プレゼンテーション II
			ENG113F

授業の概要 /Course Description

このコースでは、学生が様々なテーマについて英語の資料を読み、資料に基づいた簡単な英語で発表をする。英語のプレゼンテーションで求められる論理的な構成や明確な表現力を重視しながら、長めの英文の読解力も育成する。さらに、英語の発表に必要な表現や手振り身振りを学ぶとともに、パワーポイントやポスターなど、英語の補助資料の特徴を踏まえて英語コミュニケーション能力を包括的に養う。この授業の到達目標は以下の通りとする。

- (1) 英語の文章を正しく読み、主張とその根拠を見分ける
- (2) 内容を批判的に検討し、英語で発表できるように簡単にまとめる
- (3) 聞き手の理解を容易にするために英語の補助資料などを作成・活用する
- (4) 英語で発表するのに相応しい技能と態度を身につける

教科書 /Textbooks

First Steps in English Presentations 2015, by Roger Prior

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において各担当教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 英語で発表する時の心構え
- 第2回 簡単なプレゼンテーションを英語でしてみよう
- 第3回 プレゼンテーションの構成(1) : イントロダクション
- 第4回 プレゼンテーションの構成(2) : データの扱い方
- 第5回 プレゼンテーションの構成(3) : データの説明・データ収集
- 第6回 クラスプレゼンテーション1 : ポスター・プレゼンテーション (データ)
- 第7回 プロセス・プレゼンテーション(1) : Time Transition Signals・指示をする形プロセス
- 第8回 プロセス・プレゼンテーション(2) : 説明をする形のプロセス
- 第9回 クラスプレゼンテーション2 : パワーポイント・プレゼンテーション (プロセス)
- 第10回 比較・対照をするプレゼンテーション(1) : ポイント・バイ・ポイントタイプ
- 第11回 クラス・プレゼンテーション3a : 比較・対照プレゼンテーション (ポイント・バイ・ポイント)
- 第12回 比較・対照をするプレゼンテーション(2) : ブロックタイプ
- 第13回 クラス・プレゼンテーション3b : 比較・対照プレゼンテーション (ブロックタイプ)
- 第14回 比較タイプのふりかえりと期末プレゼンテーションの準備
- 第15回 期末プレゼンテーション

プレゼンテーション II

(Presentation II)

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスプレゼンテーション	30%
課題と小テスト	40%
期末プレゼンテーション	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will not just be learning English in this class. You will be learning how to use English. There's a big difference.

キーワード /Keywords

TOEIC I

(TOEIC I)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	基本的な語彙、文法を身につけ、英語の読む力、聞く力を向上させる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語を用いて最低限のコミュニケーションを取ることができる。
		TOEIC I	ENG221F

授業の概要 /Course Description

社会においてますますTOEICのスコアが重要視されてきている。本科目では、TOEICにおいて470点以上のスコアを獲得するために、TOEICの概要を把握し、どのような英語力が試されているか、そしてその英語力を身につけるにはどのようにアプローチすれば良いのかという観点から、各パートの出題形式およびその解答の方策を体系的に学ぶ。TOEICに頻出される文法事項、語彙について復習すると共に、470点を突破できる英語力を身につける。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト公式プラクティス リーディング編』, IIBC, ¥1,800
『Newton e-learning』, ¥2,650

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
Part 5 Unit 1 動詞の形
2. Part 5 Unit 2 品詞の識別
Part 5 Unit 3 代名詞その他
3. Part 5 Unit 4 接続詞・前置詞
Part 5 Unit 5 準動詞・関係詞
4. Part 5 まとめ
5. Part 6 Unit 6 Eメール・手紙
6. Part 6 Unit 7 お知らせ・記事
7. Part 6 まとめ
8. Part 7 Unit 8 日常生活
9. Part 7 Unit 9 余暇
10. Part 7 Unit 10 オフィス生活
11. Part 7 Unit 11 企業・団体の活動
12. Part 7 Unit 12 人事
13. Part 7 まとめ
14. 模擬練習問題
15. まとめ

TOEIC I

(TOEIC I)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① TOEICのスコア50%
- ② 小テスト・課題30%
- ③ 課題 (eラーニング) 20%

※最終的な成績評価は、TOEICのスコアに基づき調整がなされます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術英語 I

(English for Science and Technology I)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期/2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	パラグラフの構成を意識しながら英語の文章を読み、内容を理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文章の論理的構造に注意を払いながらコミュニケーションを取ることができる。
		科学技術英語 I	ENG241F

授業の概要 /Course Description

比較的やさしく書かれた英語の文章を通して科学技術分野の文献を読む基礎力を養う。また、科学的・論理的に考える方法を身につけ、批判的に読む力と論理的に表現する力を身につける。そのためにこの授業では以下の5つを到達目標とする。

- (1) 科学技術分野の語彙や表現を習得する
- (2) 文章の構成を分析できる
- (3) 目的にあった読み方ができる
- (4) 事実と意見を正しく区別し、効果的に使い分けることができる
- (5) 原因と結果の関係を正しく理解し、的確に理由を述べるができる

教科書 /Textbooks

プリント
「Practical English 6 (理系コース)」リアルイングリッシュブロードバンド

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <合同授業> オリエンテーション・ e-Learning の説明
- 2回 [論理的思考] 論理的に考えるとは？ [Reading] 科学的な考え方は？
- 3回 [論理的思考] 事実と意見を区別しよう—訴求力のある広告とは？
- 4回 [論理的思考] 強い意見とは—説得力のあるロコミとは？ [Reading] 科学と技術
- 5回 [論理的思考] 言葉で絵を描こう
- 6回 [論理的思考] データを批判的に読もう [Reading] 音楽と電子工学
- 7回 [論理的思考] 立場の違いを考えよう
- 8回 [論理的思考] 原因と結果を区別しよう [Reading] 音と医療
- 9回 [論理的思考] 原因と結果を分析しよう
- 10回 [論理的思考] 複数の原因がもたらす結果は？ [Reading] 火星探査機
- 11回 [論理的思考] おかしな理由づけ—隠れた前提を見つけよう
- 12回 [論理的思考] 書かれていないことを導きだそう [Reading] 遺伝子
- 13回 [論理的思考] より正しい推論とは？
- 14回 [論理的思考] 事実と意見、原因と結果を組み合わせて説明しよう
- 15回 まとめ

科学技術英語 I

(English for Science and Technology I)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 40%
e-Learning 20%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC II

(TOEIC II)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師
酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師, 許 慧 / Hui XU / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	基本的な語彙、文法を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語を用いて最低限のコミュニケーションを取ることができる。
			TOEIC II
			ENG222F

授業の概要 /Course Description

社会においてますますTOEIC®のスコアが重要視されてきている。本科目では、TOEICにおいて470点以上のスコアを獲得するために、TOEICに頻出される文法事項、語彙について基本事項から復習する。またTOEICの概要を把握し、各自の苦手な箇所を把握し、苦手なパートや問題タイプを克服するためにどのようにアプローチすれば良いのかという観点から各パートについて体系的に学ぶ。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト公式プラクティス リスニング編』, IIBC, ¥1,800
『Newton e-learning』, ¥1,000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション
Part 1 Unit 1 人物の描写
- Part 1 Unit 2 物の描写
Part 1 Unit 3 人物の動作と状況の描写
- Part 1 まとめ
- Part 2 Unit 4 質問の種類
Part 2 Unit 5 WH疑問文
- Part 2 Unit 6 Yes/No疑問文・選択疑問文
Part 2 Unit 7 依頼・許可・提案・勧誘の文
- Part 2 Unit 8 付加疑問文と否定疑問文, 肯定文と否定文
Part 2 まとめ
- Part 3 Unit 9 社会と生活
- Part 3 Unit 10 職場とビジネス
- Part 3 Unit 11 人事と研修
- Part 3 まとめ
- Part 4 Unit 12 電話メッセージ
- Part 4 Unit 13 アナウンス
- Part 4 宣伝とトーク
- Part 4 まとめ
- まとめ

TOEIC II

(TOEIC II)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① TOEICのスコア50%
- ② 小テスト・課題30%
- ③ 課題 (eラーニング) 20%

※最終的な成績評価はTOEICのスコアに基づき調整がなされます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術英語 II

(English for Science and Technology II)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル		
	英語力	●	パラグラフの構成を意識しながら英語で文章を書くことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文章の論理的構成に注意を払いながらコミュニケーションを取ることができる。
		科学技術英語 II	ENG242F

授業の概要 /Course Description

この科目では、第1学期に「科学技術英語I」で学んだことをもとに、学術的な内容を論理的で明瞭に表現する力を養うことを目的とする。考えを練ることから文章を書き上げるまでの過程を通して、パラグラフの構造や学術的な文章で必要となる文法事項や語彙を学び、様々なタイプのパラグラフが作成できるようになることを目指す。したがって、この科目では以下の5つを達成目標とする。

- ① 考えを練ることから文章を書き上げるまでの過程を理解し、実践できる
- ② パラグラフの基本構造に則って文章を書くことができる
- ③ パラグラフの種類によって必要になる情報を組み込んだパラグラフを作成できる
- ④ 文と文の論理的なつながりを理解し、論理的なつながりを意識して文章を作成できる
- ⑤ 学術的な文章を作成する際に用いられる文法や表現を用いることができる

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs. 3rd ed. (By Hogue, Anne) Pearson Education. ¥3,220 (本体価格)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Sentence Types: Simple, Compound, Complex
- 2回 The Structure of a Paragraph
- 3回 Chapter 4: Describing with Space Order
- 4回 Chapter 4: Prepositions of Place; the Order of Adjectives
- 5回 Chapter 4: Creating an Outline for a Descriptive Paragraph
- 6回 Chapter 5: Reasons and Examples; Models and Prewriting
- 7回 Chapter 5: Organising Reasons and Examples
- 8回 Chapter 5: Sentence Structure (Conditional Clauses)
- 9回 Chapter 5: Paragraph Writing--Explaining a Reason
- 10回 Review of Chapters 4 and 5
- 11回 Chapter 6: Expressing an Opinion; Models and Prewriting
- 12回 Chapter 6: Organizing Facts and Opinions
- 13回 Chapter 6: Sentence Structure (Relative Clauses)
- 14回 Chapter 6: Paragraph Writing--Expressing your own Opinion
- 15回 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

パラグラフ・ライティングの課題 : 50%
小テスト : 20%
宿題・課題 : 30%

科学技術英語 II

(English for Science and Technology II)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Basic R/W I

(Basic R/W I)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	目的にあった読み方で身近な話題について理解することができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	簡単な英語を用いて自分の考えを適切に書き表すことができる。
		Basic R/W I	ENG203F

授業の概要 /Course Description

英語の文章を読み理解するためにはパラグラフの構成を正しく理解していることが必要不可欠である。そのため、本科目では、身の回りの様々なトピックや時事問題に関する比較的平易な英語の文章を通して、英語のパラグラフの構成を理解するとともに、英語の基本的なリーディングストラテジーを身につける。特に、英語の基本的な文法・語彙について、リーディングを通して復習する。またモデルとなる文章を参考にしながら、自分の考えを簡単な英語を用いて表現できる力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 1 --Reading in Chunks--
成美堂 ISBN978-4-7919-3111-8

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 シラバスと概要の説明
- 2 回 Unit 1 All You Have to Do Is Press a Key (読解)
- 3 回 Unit 1 All You Have to Do Is Press a Key (文法と演習)
- 4 回 Unit 1 のまとめと復習
- 5 回 Unit 2 Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise? (読解)
- 6 回 Unit 2 Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise? (文法と演習)
- 7 回 Unit 2 のまとめと復習
- 8 回 Unit 3 Crusaders: Their Influence Is Still Felt (読解)
- 9 回 Unit 3 Crusaders: Their Influence Is Still Felt (文法と演習)
- 10 回 Unit 3 のまとめと復習
- 11 回 Unit 4 Beethoven, the First Composer to Keep His Independence (読解)
- 12 回 Unit 4 Beethoven, the First Composer to Keep His Independence (文法と演習)
- 13 回 Unit 4 のまとめと復習
- 14 回 Unit 5 The Plague Carried by Rats (読解)
- 15 回 Unit 5 The Plague Carried by Rats (文法と演習) 及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の演習及び課題、小テスト(30%)
授業への参加度(20%)
試験の成績(50%)

Basic R/W I

(Basic R/W I)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Discussion and Debate

(Discussion and Debate)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 新貝 フランセス / Frances SHINKAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英文の内容を理解し、英語を用いてその内容について議論することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	情報やデータを活用し、自分の意見を論理的に述べることができる。
		Discussion and Debate	ENG204F

授業の概要 /Course Description

科学技術の分野のトピックやそれに関する倫理的な問題、および自分の身の回りのトピックに関して、英語を用いて自分の意見をまとめ、論理的かつ効果的に述べるようになるよう、学習します。また、英語によるディスカッションやディベートをする際に用いられる基本的な表現や語彙を学ぶとともに、効果的かつ円滑にディスカッションやディベートを行うために必要な様々なストラテジーを習得する。

教科書 /Textbooks

"Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions" by Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington (Language Solutions Inc.) ¥2,354

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○"Pros and Cons: a Debater's Handbook", Ed. by Trevor Sather (Routledge)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN・ガイダNス
- 第2回 Unit 1: Types of Opinion
- 第3回 Unit 1: Opinions in the News and Debate Terms
- 第4回 Unit 2: Explaining your Opinion
- 第5回 Unit 2: Giving Reasons
- 第6回 Unit 3: Supporting Your Opinion
- 第7回 Unit 4: Organising Your Opinion
- 第8回 Unit 4: Making a Conclusion
- 第9回 Unit 5: Refuting and Opinion
- 第10回 Unit 5: Making Refutations; Tennis Debate
- 第11回 Unit 6: Challenging Supports
- 第12回 Unit 7: Organizing your Refutation
- 第13回 Unit 8: Debating an Opinion
- 第14回 Unit 9: Debating an Opinion; Preparing for a Debate
- 第15回 Final Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

課題	30%
クラスディベートとディスカッション	40%
期末ディベート	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Discussion and Debate

(Discussion and Debate)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Communication

(English Communication)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, ミラー ジャマール / Jamar MILLER / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	様々なテーマに触れながら、英語の聞く力、話す力の基礎を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目的に合わせて平易な英語を用いてコミュニケーションを取ることができる。
		English Communication	ENG205F

授業の概要 /Course Description

本科目は、様々なトピックを題材として、将来、英語をコミュニケーションの道具として用いる際に必要となる、基本的な英語のリスニング力とスピーキング力を養成する。特に、映画やアニメーション、ドラマなど多種多様な教材を用い、日常的な会話を題材として大量の英語のインプットを行い、英語のリスニング力を徹底的に鍛えるとともに、状況に応じてコミュニケーションの目的を把握し、自分の身の周りのことについて、簡単な英語を用いて会話ができる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『World English Intro: Split-edition A』, Cengage, ¥2,210

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション
- 2.Unit 1 Friends and Family: (pp. 2-9)
- 3.Unit 1 Friends and Family: Present your family (pp. 10-12)
- 4.Unit 1 Friends and Family: Animal Families (p. 13)
- 5.Unit 2 Jobs around the World: Talk about jobs and countries (pp. 14-21)
- 6.Unit 2 Jobs around the World: Compare Jobs in Different Countries (pp.22-24)
- 7.Unit 2 Jobs around the World: A job for children (p. 25)
- 8.Unit 3 Houses and Apartments: Describe houses (pp. 26-33)
- 9.Unit 3 Houses and Apartments: Compare houses (pp. 34-36)
- 10.Unit 3 Houses and Apartments: A very special village (pp. 37)
- 11.TED Talks: Brilliant designs to fit more people in every city (pp38-41)
- 12.Unit 4 Possessions: Talk about other people's professions (pp. 42-49)
- 13.Unit 4 Possessions: Talk about special possessions (pp. 50-52)
- 14.Unit 4 Possessions: Uncovering the Past
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30%
課題 30%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

English Communication

(English Communication)

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Scientific R/W I

(Scientific R/W I)

担当者名 /Instructor 柿木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語のパラグラフ構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文章の基本構造を理解し、自分の考えを発信することができる。
		Scientific R/W I	ENG243F

授業の概要 /Course Description

科学技術を中心とした分野の平易な文章を通して、基本的な文型や表現を学習するとともに、基本的な語彙を学習し習得する。また科学技術の分野においてよく用いられるパラグラフの構成方法を学び、将来、自分の専門分野に関するアカデミックな文章を読む際に必要とされる基本的なリーディングストラテジーを身に付けるとともに、辞書やインターネット等のリソースを活用してやや難解な文章も自分の力で読めるようにする。同時に基本的な概念を表現できる方略とスキルも身につける。

教科書 /Textbooks

Writing Points ISBN4-7647-3939-0 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバスと概要説明
- 2回 Unit 1 Overcoming Disasters (読解)
- 3回 Unit 1 Overcoming Disasters (文法と表現)
- 4回 Unit 4 Ping-pong Hero (読解)
- 5回 Unit 4 Ping-pong Hero (文法と表現)
- 6回 Unit 6 Remember Not to Forget! (読解)
- 7回 Unit 6 Remember Not to Forget! (文法と表現)
- 8回 まとめと復習
- 9回 Unit 9 Society Service (読解)
- 10回 Unit 9 Society Service (文法と表現)
- 11回 Unit 11 Homesick for Earth (読解)
- 12回 Unit 11 Homesick for Earth (文法と表現)
- 13回 Unit 14 Individual Appeal (読解)
- 14回 Unit 14 Individual Appeal (文法と表現)
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業参加度...10%
- 課題...30%
- 小テスト...20%
- 試験...40%

Scientific R/W I

(Scientific R/W I)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各課の予習としてユニットごとに内容理解を課題として課すので、単語熟語の下調べと段落ごとの概要をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Basic R/W II

(Basic R/W II)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語のパラグラフ構造を理解して英文を読むことができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	自分の考えを論理的に英語で表現し、パラグラフを作成することができる。
		Basic R/W II	ENG213F

授業の概要 /Course Description

論理的かつ英語らしい文章を書くためには、英文法・語彙について正確な知識を身につけていると共に、パラグラフの構成を正しく理解して書く必要がある。本科目では、自分の身の回りのトピックに関して、論理的かつ明快な英語の文章が書けるように、英語で文章を書く際によく用いられる表現や文法・語彙について学ぶとともに、英語による文章作成手法を学ぶ。授業で学んだスキルを活用して、授業終了時まで、目的に応じた文章が書けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

English Composition Workbook, Second Edition
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE ISBN978-4-7773-6069-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバスと概要の説明
- 2回 Unit 2 My Family, My Friends Chapter (名詞の単数・複数, 冠詞, 形容詞)
- 3回 Unit 4 Everyday Activities (現在形・現在進行形)
- 4回 Unit 5 Recipes (他動詞・自動詞)
- 5回 Unit 6 Introducing My Town (副詞・比較級・最上級)
- 6回 Unit 7 Asking Questions (wh疑問文)
- 7回 Unit 8 Diary (5文型・過去形)
- 8回 課題作成 1
- 9回 Unit 10 Writing a Postcard (受動態)
- 10回 Unit 12 Writing a letter (to不定詞)
- 11回 Unit 15 Notice (使役)
- 12回 Unit 16 My History (完了形)
- 13回 Unit 19 Expressing Your Opinion (考えを伝える)
- 14回 Unit 20 Directions (接続詞)
- 15回 課題作成 2 及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...10%
課題...30%
小テスト...20%
試験...40%

Basic R/W II

(Basic R/W II)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Presentation

(English Presentation)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	明確かつ適確な英語表現を用い、自分の意見や考えを主張することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	データや情報を活用し、自分の意見の根拠を説明することができる。
		English Presentation	ENG214F

授業の概要 /Course Description

ものの比較を出発点とし、英語で自身の意見を述べる発表の仕方を学習する。様々なテーマにわたり、内容をきちんと理解した上で説得力のある発表を行うことで、高度な英語プレゼンテーション能力を身につける。なお、聞き手を説得するために有効な英語レトリックの論理的構成を解析するとともに、質疑応答で利用できるストラテジーまで学ぶ。

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple
Paulette Dale and James C. Wolf
Pearson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各担当教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Developing Self-Confidence in Presentations
- 第3回 Presentation Practice and Development
- 第4回 Delivering Your Message
- 第5回 Presentation Practice--Prewriting and Preparation
- 第6回 Structure and Development
- 第7回 Presentation Practice and Peer Review
- 第8回 Persuasive Presentation--Choosing a Topic
- 第9回 Persuasive Presentation--Determining Purpose
- 第10回 Persuasive Presentation--Structure and Organization
- 第11回 Persuasive Presentation #1 Daily Life
- 第12回 Persuasive Presentation #2 Social Issues
- 第13回 Review
- 第14回 Final Presentation Preparation
- 第15回 Final Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスでのプレゼンテーション: 30%
課題と小テスト: 30%
期末プレゼンテーション: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

English Presentation

(English Presentation)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Extensive Reading

(Extensive Reading)

担当者名 /Instructor 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	様々なジャンルの文章を読み、読解力を向上させる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で文章をまとめ、内容に対して意見を述べることができる。
		Extensive Reading	
		ENG215F	

授業の概要 /Course Description

外国語学習において、その言語がどのような言語か、またどのように使われているのかを知るために、大量にその言語に触れること（インプット）は必要不可欠である。本科目では、多読という手法を用いて、平易な英語で書かれた読み物（多読用図書）を日本語を解さずに理解する力をつける。大量のインプットを処理するために必要な読書速度の向上と基本語彙の習得も目指すとともに、自律的に英語を学習するためのストラテジーを身につける。また、多読での読書をまとめ、簡単な英語を用いて、口頭もしくは文書で表現できる力を養う。本科目の到達目標は以下の通りとする。

- (1) 多読用図書を大量に読む（聞く）ことで、英語のインプット量を補う。
- (2) 日本語に逐一訳さずに内容理解ができる。
- (3) 適切な速度で読んで（聞いて）大意の把握ができる。
- (4) 多読用図書で繰り返し使われる基本語彙を習得する。

教科書 /Textbooks

主に学術情報センター図書館（専門図書室）蔵書の多読用図書を利用する。他にプリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○古川昭夫他編著『英語多読完全ブックガイド』改訂第3版（コスモピア）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の中心は各自の英語力に応じて多読用図書を読む多読・多聴である。加えて、各週に以下の活動を行う。

- 第1週：多読・多聴オリエンテーション、プレテスト（EPER）
- 第2週：プレテスト（語彙）
- 第3週：講義「サイトポキャブラリー」
- 第4週：小テスト（サイトポキャブラリー）
- 第5週：ブックトークオリエンテーション
- 第6週：講義「英語学習ストラテジー」
- 第7週：ブックトーク（日本語）（前半）
- 第8週：ブックトーク（日本語）（後半）
- 第9週：小テスト（英語学習ストラテジー）
- 第10週：講義「読書速度」
- 第11週：ブックトーク2（英語）（前半）
- 第12週：ブックトーク2（英語）（後半）
- 第13週：小テスト（読書速度）
- 第14週：ポストテスト（語彙）
- 第15週：ポストテスト（EPER）

Extensive Reading

(Extensive Reading)

成績評価の方法 /Assessment Method

多読課題 (40%)、ジャーナル (20%)、ブックトーク (20%)、小テスト (20%)
なお、プレテスト・ポストテストの点数は成績評価の対象外とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 授業で学術情報センター図書館 (専門図書室) の図書を利用するため、利用者証を毎時間持参すること。また、図書の延滞や紛失が無いように十分留意すること。
2. パソコンを毎時間利用するので、学術情報センターと大学 (Moodle) 両方のユーザー名・パスワードを確認しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自明のことであるが、英語を読む力を付けるためには英語を読むしかない。授業期間内に高校の英語リーディング教科書10冊分に相当する量の図書を読むため、学習者の自律的・計画的な学習を求める。

キーワード /Keywords

extensive reading, extensive listening

Scientific R/W II

(Scientific R/W II)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	文章の論理構造を理解し、内容をまとめることができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	自分の考えを論理的に発信することができる。
		Scientific R/W II	ENG244F

授業の概要 /Course Description

科学技術の分野に関する平易な文章を通して、科学技術の分野で用いられる基本的な文型や表現を学習するとともに、基本的な語彙を学習し習得する。また「Scientific R/W I」で学習したパラグラフ構成方法や表現・語彙を活用し、自分の考えを、パラグラフの構成方法を意識しながら、論理的かつ明快な文章にまとめることができる力を養成する。授業修了時まで複数のパラグラフで構成される文章を書く事ができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

Writing Points ISBN4-7647-3939-0 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバスと概要の説明
- 2回 Chapter 16 Social Networking (読解)
- 3回 Chapter 16 Social Networking (文法と表現)
- 4回 Chapter 17 Bob and Annie (読解)
- 5回 Chapter 17 Bob and Annie (文法と表現)
- 6回 Chapter 18 Paying with Plastic (読解)
- 7回 Chapter 18 Paying with Plastic (文法と表現)
- 8回 まとめと復習
- 9回 Chapter 19 CCTV (読解)
- 10回 Chapter 19 CCTV (文法と表現)
- 11回 Chapter 21 Finding and Finishing Employment (読解)
- 12回 Chapter 21 Finding and Finishing Employment (文法と表現)
- 13回 Chapter 23 Impatience! (読解)
- 14回 Chapter 23 Impatience! (文法と表現)
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...10%
課題...30%
小テスト...20%
試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Scientific R/W II

(Scientific R/W II)

履修上の注意 /Remarks

各課の予習としてユニットごとに内容理解を課題として課すので、単語熟語の下調べと段落ごとの概要をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Academic Writing

(Academic Writing)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル		
	英語力	●	英語で書かれた学術的な文章の構造を理解し、その構造を利用して自分の考えを英語で述べることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	学術的なコンテキストにおいて、自分の考えを論理的に表現することができる。
		Academic Writing	ENG303F

授業の概要 /Course Description

本コースでは、英語論文の構成要素であるパラグラフをはじめ、英語の小論文 (Five Paragraph Essay) の書き方を学習する。前半では、各種のパラグラフの特徴や違いについて学び、後半では、"Five Paragraph Essay"を書くために、問題提起の書き方と英語長文の論理的な構成などを学習しながら、自ら英語の小論文に挑戦する。

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 3: Paragraph to Essays (Fourth Edition), by Alice Oshima and Ann Hogue (Pearson) ¥3,477

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、担当者より指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Chapter 3 Basic Paragraph Structure
- Week 3 Chapter 4 Unity and Coherence
- Week 4 Chapter 6 Definition Paragraphs
- Week 5 Chapter 6 Writing a Defining Paragraph
- Week 6 Chapter 7 Cause and Effect Paragraphs
- Week 7 Chapter 7 Writing a Cause and Effect Paragraph
- Week 8 Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs
- Week 9 Chapter 8 Writing a Comparison and Contrast Paragraph
- Week 10 Chapters 9&10 Essay Organization
- Week 11 Chapters 9&10 The Introduction
- Week 12 Chapters 9&10 Body Paragraphs
- Week 13 Chapters 9&10 Concluding an Essay
- Week 14 Chapters 9&10 Putting the Essay Together
- Week 15 Chapters 9&10 Polishing up the Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト：50%
期末小論文：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Academic Writing

(Academic Writing)

履修上の注意 /Remarks

科学技術英語IIを履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一学期を通して、英語の小論文を書いていきますので、毎週出される宿題をきちんとこなすことが大事です。

キーワード /Keywords

Topic Studies A

(Topic Studies A)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	メディアを通して英語を聞き取り、ロジックを理解し応答することができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	種々の使用目的に応じた形で簡単な英語を用いて、自分の考えを適切に書き表すことができる。
		Topic Studies A	ENG313F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、各メディア（ニュース、映画、音楽）で使われている表現や単語を通じて英語表現やロジックを学ぶことである。英語で各ジャンルに応じた特徴を学び、それに応じたアウトプットを練習していく。また日本語と英語のロジックがどのように異なるのかを対照言語学的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業概要説明
- 2回 洋画叙述文聞き取り・説明1回目（第1シーン）
- 3回 洋画叙述文聞き取り・説明2回目（第2シーン）
- 4回 洋画叙述文聞き取り・説明3回目（第3シーン）
- 5回 ディクトグロス（グループ）1回目（単文）
- 6回 ディクトグロス（グループ）2回目（物語）
- 7回 ニュース英語1回目（ペア、聞き取り）（時事関連）
- 8回 ニュース英語2回目（ペア、聞き取り）（生活関連）
- 9回 ニュース英語コーパス学習1回目（機能語）
- 10回 ニュース英語コーパス学習2回目（内容語）
- 11回 ニュース英語のopinionに対する意見作成（ブレインストーム）
- 12回 ニュース英語のopinionに対する意見作成（推敲）
- 13回 ポップス聞き取り1回目（90年代）
- 14回 ポップス聞き取り2回目（2000年以降）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度20%、課題50%、小テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Topic Studies A

(Topic Studies A)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Topic Studies B

(Topic Studies B)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル		
	英語力	●	興味のある分野について英語で書かれた文章を正しく理解し、その特徴を分析することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	興味のある分野について、自分の考えを適切に発信することができる。
		Topic Studies B	ENG314F

授業の概要 /Course Description

卒業後、国際的に活躍するエンジニアや専門家・研究者となるためには、コミュニケーションの道具として英語を自由に使えることが必要不可欠である。本科目はTOEICスピーキングテスト/ライティングテストを題材として、国際的な職場環境において、効果的に英語でコミュニケーションを取ることができる能力を育成する。この授業を通して、特に次のようなことができるよう、様々なアプローチから英語を学習する。

<スピーキング>

- ・ 英語のネイティブスピーカーや英語に堪能なノンネイティブスピーカーに理解しやすい言葉で話すことができる
- ・ 仕事上、必要なやり取りを行うために適切な言葉を選択肢使用することができる
- ・ 一般的な職場において、筋道の通った継続的なやり取りができる

<ライティング>

- ・ 適切な語彙および文法を使用し、文法的に正しい文が書ける
- ・ 簡単な情報、質問、指示、話を伝えるために適切な文章を作成することができる
- ・ 状況に応じて、理由、根拠、詳しい説明などを述べながら複数の段落から構成される文章を作成することができる

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Speaking and Writing Tests by Grant Trew (Oxford University Press) ￥3,963
※ 希望者には学期中、テキストを貸与します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

Topic Studies B

(Topic Studies B)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション，スピーキング練習テスト
- 第2回 音読問題：発音・ストレス・イントネーション
- 第3回 写真描写問題：写真から情報を読み取る，語彙のブレインストーミング
- 第4回 応答問題：身近な問題についてインタビューに答える
- 第5回 応答問題：提示された情報に基づいて質問に答える
- 第6回 解決策を提案：クレームに対応する，リクエストに応える
- 第7回 意見を述べる：与えられたテーマについて自分の意見とその理由を述べる
- 第8回 まとめ（スピーキング・セクション）
- 第9回 ライティング練習テスト
- 第10回 写真描写問題：適切な語彙・時制を使用する
- 第11回 写真描写問題：複雑な構文を使用する
- 第12回 Eメール作成問題：相手に何かを要求する
- 第13回 Eメール作成問題：相手に何かを説明する
- 第14回 エッセイ作成問題：エッセイの構成手順
- 第15回 エッセイ作成問題：効果的なエッセイの作成

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業参加度 10%
- 課題（スピーキング） 10%
- 課題（Eメール） 10%
- 課題（エッセイ） 10%
- 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

期末試験としてTOEIC Speaking/WritingのIPテストを受験してもらう予定である（受験料の学生負担はなし）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキングとライティングの授業となるため、TOEIC 400点相当以上の英語力があることが望ましい。

キーワード /Keywords

物理実験基礎

(Fundamentals of Experiments in Physics)

担当者名 /Instructor 董 青 / Qing DONG / 情報メディア工学科, 村上 洋 / Hiroshi MURAKAMI / 機械システム工学科 (19~)
仲尾 晋一郎 / Shinichiro NAKAO / 機械システム工学科 (19~), 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~), 古閑 宏幸 / Hiroyuki KOGA / 情報システム工学科 (19~)
高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~)
加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 実験・実習 /Experiment and Practice クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習物理の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物理現象の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	技術者として必要な基本的な実験技術、解析技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験データの解析方法、物理現象に関する考察の進め方を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス及び結論を適切な方法で表現する手法を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	自分の考えを相手に効果的に伝え、討論できる能力を身につける。

※学科により、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物理実験基礎

PHY101M

授業の概要 /Course Description

高度に細分化した工学の分野において理解を深めるには、基礎的な物理現象を把握することが何より不可欠である。本授業では、各種物理実験を体験し、測定を主体とする実験法の実習の解析手法を学習する。工学分野の基礎となる物理量の測定を通して様々な計測装置に触れるとともに、測定の進め方、測定データの解析方法、物理現象に対する考察の進め方、レポートの作成方法を習得する。

教科書 /Textbooks

初回のガイダンスの時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校の物理の教科書や参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目： ガイダンス (履修上の諸注意)

2回目以降： 以下の実験項目より、指定された数種を行う。なお、レポート作成後は指定された日に査読を受けること。修正の指摘に応じレポートを再提出すること。

- ・ 密度測定
- ・ ボルダの振り子
- ・ 熱起電力
- ・ 金属の電気抵抗の温度係数測定
- ・ Planck定数の測定
- ・ 強磁性体の磁化特性
- ・ ダイオードとトランジスタのIV特性

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・52% レポート・・・48%
(レポート未提出者は、単位を認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

物理実験基礎

(Fundamentals of Experiments in Physics)

履修上の注意 /Remarks

実験を行う前に実験テキストに目を通しておくこと。
指定された日に必ず実験を行い、自分の力でレポートを仕上げる事。他人のレポートや著作物を丸写し（引き写しともいう）して作成したレポートを提出した場合は単位を認めない。詳しくは初回のガイダンス時に指示があるので、聞き漏らすことのないように注意する事。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在行われている最先端の実験の多くは、これら基本的な測定法の積み重ねといえます。そこで人任せにしたりせず、自分の経験とするよう心がけましょう。この授業での発見と感動が、やがて偉大な大発明へとつながるかも知れないのですから。

キーワード /Keywords

物理，力学，重力加速度，電磁気，電流，電圧，温度，科学，密度，振り子，熱起電力，電気抵抗，Planck定数，磁気，ダイオード，トランジスタ

微分・積分

(Calculus)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~), 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習数学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	関数としての微分、積分の基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	化学・生物化学の分野でよく使用する微分、積分のスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

微分・積分

MTH102M

授業の概要 /Course Description

本講義は、化学及び環境工学を学ぶなかで使用される数学について講義します。微分・積分を含む数学を習得することにより、化学・環境分野の問題を理論的・定量的に解くための能力を育成することを目標としています。

教科書 /Textbooks

ピーター・テビット 「化学を学ぶ人の基礎数学」 化学同人 1997年 ¥3,675

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川 末 「環境のための数学」 朝倉書店 2005年 ¥3,045
石村 園子 「大学新入生のための微分積分入門」 共立出版 2004年 ¥2,100
石村 園子 「やさしく学べる微分積分」 共立出版 1999年 ¥2,100

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 履修の注意説明：前半
特殊関数 - 1) 変数と関数の一般形
- 2 特殊関数 - 2) 指数関数・対数関数
- 3 特殊関数 - 3) 三角関数
- 4 微分 - 1) 導関数と還元公式
- 5 微分 - 2) 様々な関数の微分
- 6 微分 - 3) 二次導関数とその応用：気体の状態方程式
- 7 微分 - 4) 偏微分とその応用：化学熱力学の法則
- 8 前半まとめ
- 9 履修の注意説明：後半
積分 - 1) 微分の復習と微分と積分の関係
- 10 積分 - 2) 基本関数の積分・置換積分
- 11 積分 - 3) 部分積分
- 12 積分 - 4) 三角関数の積分
- 13 積分 - 5) 定積分
- 14 積分 - 6) 重積分
- 15 積分 - 7) 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

微分・積分

(Calculus)

履修上の注意 /Remarks

判らない点があれば、授業の後やオフィスアワーを利用して質問して下さい。それ以外の時間も可能な範囲で対応します。
講義の前半・後半それぞれの初回に担当教員から履修上の注意を説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

一般化学

(General Chemistry)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 機械システム工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	化学分野の専門科目の理解に必要な基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

一般化学

CHM100M

授業の概要 /Course Description

化学の基礎を学ぶために、身近な物質を題材として構造や性質を化学および物理の原理に基づいて学ぶ。まず、身近な有機・無機材料の構造や性質について学習する。いくつかの例についてはどのようにして工業的に製造されるかを学ぶ。また、暮らしの中の先端材料について学び、化学物質、材料について関心を持つ。これらの内容を通じて、複雑そうに見える物質や材料あるいは化学現象でも周期表の見方と化学結合の基礎に立てば、比較的単純な物理や化学の法則を用いて理解できることを学ぶ。

教科書 /Textbooks

一般化学(芝原寛泰、斉藤正治) 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

現代有機化学(上)第4版(K. ピーター C. ヴォルハルト / ニール E. ショアー) 化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 原子と分子の構造・物質とは
- 2 気体の特徴、気体分子運動論
- 3 化学結合の形成と性質
- 4 固体、液体
- 5 化学反応速度
- 6 化学変化とエネルギー
- 7 反応速度と化学平衡
- 8 酸と塩基
- 9 酸化と還元
- 10 電解質と電気化学
- 11 有機化学(1)有機化合物とは
- 12 有機化学(2)炭化水素化合物の命名法
- 13 有機化学(3)官能基をもつ有機化合物の命名法
- 14 有機化学(4)有機化合物の構造の特徴
- 15 有機化学(5)有機化合物の結合

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%
レポート 20%
試験 50% (小試験および講義全体を範囲とした期末試験)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

一般化学

(General Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

高校での化学1および化学2について十分復習する。
授業は導入が主体であるので、与えられた教科書により十分復習することが必要である。
特に、エネルギー循環化学科、環境生命工学科の学生については、今後の大学における化学系科目を履修する上で大前提となる科目なので、十分な学習が必要である。
第2学期開講の基礎有機化学(エネルギー循環化学科、環境生命工学科必修科目)では、ここでの有機化学の内容が修得されているものとして講義が進められますので、履修予定の学生はよく理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考えるとき、物質の化学的変化への認識は避けられません。我々の生活やその他の生命活動、資源の利用などの根本が物質の真の変化に基いていることを理解しましょう。また、化学は本当は単純で理解し易いものです。複雑な化学式を理解しなくても化学は分かるのです。

キーワード /Keywords

化学実験基礎

(Basic Chemistry Experiments)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習化学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル	●	化学実験の基礎技術を学習し、薬品、器具類の正しい使用法を身につける。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験結果の分析や解釈の方法を学び、正しく評価する能力を修得する。	
	プレゼンテーション力	●	実験の目的、方法、結果及び結果の解釈や考察をレポートとしてまとめるための基礎的な能力を修得する。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実験手順や作業の意味を考え理解するとともに、よりよい方法を考えて実践する力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	化学物質や実験器具の操作に対する危険性を把握し、常に安全を意識する姿勢を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	チームで行う共同実験を通じてメンバー間のコミュニケーションをはかり、さらに実験指導の教員、EA、TAとの会話能力を身につける。	
			化学実験基礎	CHM101M

授業の概要 /Course Description

化学実験に関する基本的な知識、考え方、技術などを習得する。

教科書 /Textbooks

「実験テキスト」、「化学のレポートと論文の書き方」（監修：小川雅彌ら、化学同人）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス・安全講習・レポートの書き方講座
- 実験器具・試薬の取り扱い方
- 重量測定・容量測定 1日目
- 重量測定・容量測定 2日目
- レポート指導
- 温度・熱量測定 1日目
- 温度・熱量測定 2日目
- 中和滴定 1日目
- 中和滴定 2日目
- レポート指導・実技試験 1日目
- レポート指導・実技試験 2日目
- レポート指導・実技試験 3日目
- 酸化還元滴定 1日目
- 酸化還元滴定 2日目
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実験の実施 50%
レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学実験基礎

(Basic Chemistry Experiments)

履修上の注意 /Remarks

事前に実験テキストを熟読し、目的や方法などを各自でまとめて実験に臨むこと。
本実験を通して習得する基礎知識、考え方、取り扱い方、まとめ方などは、2年次以降で行われる各種専門実験や卒業研究の基礎となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学は実験によって進歩してきた学問です。高等学校ではほとんど化学実験が行われなくなっている今、実験がいかに大切で難しいかを体験してもらいたいと思います。

キーワード /Keywords

微分方程式

(Theory of Differential Equations)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	微分方程式の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	修得した微分方程式の基礎知識を演習により実践し、技術開発に活用する技能を身につけている。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力		
			微分方程式 MTH106M

授業の概要 /Course Description

本講義では2年生から本格的に専門の講義が開始されるのに先立ち、化学と関係の深い数学分野につき基礎的学力を養うことを目的とする。具体的には、微積分の基礎の復習から入り、線形微分方程式の解法と、近似解の求め方へと学習を進める。

教科書 /Textbooks

「やさしく学べる微分方程式」(共立出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「化学を学ぶ人の基礎数学」(化学同人)、「工業数学上・下」(ブレイン図書出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、微分方程式とは
- 2 微分方程式と解
- 3 微分方程式を解く前に 微分の復習を兼ねて
- 4 微分方程式を解く前に 積分の復習を兼ねて
- 5 変数分離形の微分方程式
- 6 変数分離形に直せる微分方程式
- 7 1階線形微分方程式
- 8 演習
- 9 線形微分方程式の解
- 10 2階定係数線形同時微分方程式
- 11 2階定係数線形非同時微分方程式 未定係数法
- 12 2階定係数線形非同時微分方程式 定数変化法
- 13 高階線形微分方程式
- 14 近似解
- 15 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 20%
期末テスト 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校の理系の数学(微分・積分を含む)を習得しておくこと。

微分方程式

(Theory of Differential Equations)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者・技術者は、現象を理解するだけでなく、それをモデル化し、定量的に解析することも要求される。そのために必要とされる数学的素養をしっかりと身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

基礎有機化学

(Basic Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	有機化合物の構造、結合、反応に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	本講義で修得する知識を組み合わせ、有機化学に関する諸問題を解決するための論理的思考力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			基礎有機化学
			CHM120M

授業の概要 /Course Description

有機化学は、化学の中で物理化学や無機化学などと並んで極めて重要な学問領域である。本講義では、有機化合物の構造や反応性について理解し、有機化学の基礎を修得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

現代有機化学(上)第4版(K. ピーター C. ヴォルハルト / ニール E. ショアー) 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 有機分子の構造と結合(1) オクテット則、形式電荷、Lewis構造式
- 2 有機分子の構造と結合(2) 混成軌道、極性結合
- 3 共鳴構造 (1) 共鳴理論
- 4 共鳴構造 (2) 共鳴構造の相対的重要性、共鳴極限構造からわかること
- 5 構造と反応性 (1) 化学反応の速度論と熱力学、酸・塩基
- 6 構造と反応性 (2) 酸・塩基の反応
- 7 構造と反応性 (3) Lewis酸・塩基
- 8 中間まとめ
- 9 アルカンの構造・立体配座
- 10 アルカンの反応、シクロアルカン
- 11 立体異性体 (1) キラルな分子、光学活性
- 12 立体異性体 (2) 絶対配置、複数の立体中心を持つ分子
- 13 ハロアルカンの性質と反応 (1) ハロアルカンの性質、求核置換反応
- 14 ハロアルカンの性質と反応 (2) 求核置換反応の反応機構と反応性に影響を与える因子
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 40% 第1〜7回までの範囲にわたり出題
期末テスト 60% 全範囲にわたり網羅的に出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基礎有機化学

(Basic Organic Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

1年次1学期に開講される一般化学の内容が理解されていることを前提として講義を行います。十分に復習しておくこと。
テキストをよく読み、演習問題を解くこと。
2年次で開講される有機化学I、有機化学IIおよび有機化学実験の基礎となる科目であるので十分に予復習を行い、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストに出てくる専門用語や記述の仕方になれることが大事です。そのためによく予習、復習を行うようにしてください。

キーワード /Keywords

基礎無機化学

(Basic Inorganic Chemistry)

担当者名 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	元素の性質を決定付けている電子軌道の概略と各元素特性についての基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各族ごとに有する特性を理解し、環境に関する諸問題を解決するための論理的思考力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

基礎無機化学	CHM130M
--------	---------

授業の概要 /Course Description

環境問題を解決するためには多くの化学製品が活躍しているが、耐久性の観点からその多くは無機物質にてまかなわれている。環境化学材料の基礎となる無機化学のうち、本講義では原子の姿、元素分類、化学結合などについて講義する。反応に関与する基礎的な電子状態についての理解と、各元素各論の学習を目標としている。

教科書 /Textbooks

基礎無機化学-構造と結合を理論から学ぶ- 山田康洋・秋津貴城著(化学同人)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

アトキンス 物理化学〈上〉〈下〉アトキンス(著), Julio de Paula(著), Peter Atkins(原著), 千原 秀昭(翻訳), 中村 亘男(翻訳), 東京化学同人; 第8版

シュライバー・アトキンス 無機化学〈上〉〈下〉 Peter Atkins(著), Jonathan Rourke(著), Mark Weller(著), Fraser Armstrong(著), Tina Overton(著), 田中 勝久(翻訳), 平尾 一之(翻訳), 北川 進(翻訳), 東京化学同人; 第4版

Rock and GEM, Ronald Louis Bonowitz, DK Publishing

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 原子の構造、原子核と同位体
3. 原子スペクトル、電子の粒子性と波動性
4. シュレーディンガー波動方程式
5. 波動関数
6. 量子数と原子軌道
7. 多電子原子の電子配置
8. 前半まとめ演習
9. 演習の解説
10. 原子半径と化学結合
11. 共有結合と分子軌道法
12. 結合の性格を決めるものおよび混成軌道
13. 配位結合と錯体基礎
14. 多重結合と電子欠損
15. 原子力発電と放射能

成績評価の方法 /Assessment Method

前半のまとめ演習 40%
期末試験 60%

基礎無機化学

(Basic Inorganic Chemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前半のまとめ演習、演習の解説の2回は関数電卓を持参すること。
講義は教科書の図・式の解説を板書中心に行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学の基礎は、原子周囲を取り巻く電子軌道の理解から始まります。波動方程式なども少しだけ扱いますが、式の変形や解き方はあまり本講義では扱いません。それよりも式の各項の持つ意味や、電子軌道の概形/特性の大きな理解、個別元素の特性理解を目的に講義を行います。二年次で開講される無機化学・演習に内容が繋がっていますから、最初で躓かぬよう頑張ってください。

キーワード /Keywords

力学基礎

(Dynamics)

担当者名 /Instructor 岡田 伸廣 / Nobuhiro OKADA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 力学に関する基礎学力を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力	

※機械システム工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

力学基礎

PHY140M

授業の概要 /Course Description

本講義では、物体の運動を説明・予測する力学の基礎を学びます。力学は物理学の基本で、現象を数式でモデル化することで説明し、数式を解くことで現象を予測するという、理工学で必要な論理的思考法に慣れ親しむのに有効です。本講義の目的は、力と物体の運動の関連を理解し、さらに工学系専門科目で必須となる数式を用いて現象を表現することを学ぶことです。

教科書 /Textbooks

「グラフィック講義 力学の基礎」, 和田純夫, サイエンス社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 物理量と単位
- 第2回 速度と位置 (微分積分の関係)
- 第3回 加速度
- 第4回 等加速度運動
- 第5回 運動方程式と力
- 第6回 色々な力 (抗力, 張力, 摩擦力, 抵抗力)
- 第7回 等速円運動
- 第8回 演習
- 第9回 エネルギーと運動量
- 第10回 エネルギー保存の法則
- 第11回 運動量保存の法則
- 第12回 単振動
- 第13回 回転運動の方程式, 剛体の慣性モーメント
- 第14回 角運動量とその保存則
- 第15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 60%, 演習 (2回): 40%. 欠席は減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で物理学, 数学の微積分を履修していることが望ましいです。予習・復習を十分に行ってください。

力学基礎

(Dynamics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義を通して、数学が現象を表現し、予測するのに強力なツールであることを学んでほしいと思います。また、力学の理工学への応用についても興味を持ってもらえることを期待します。

キーワード /Keywords

力, 位置, 速度, 加速度, 運動方程式, エネルギー保存の法則

確率論

(Probability Theory)

担当者名 /Instructor 高島 康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 情報メディア工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 確率・統計に関する基礎理論及び基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力	

※情報メディア工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

確率論

MTH101M

授業の概要 /Course Description

一見、何の関係も無く発生している様々な事象が、ある一つの枠組みとして議論できることがある。この議論の中心が確率である。本講義では、確率について離散、連続のそれぞれの場合について、講義する。また、適宜演習を行なうことにより、確率の様々な性質を実感として触れるよう工夫する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス，確率とは
- 2 離散確率の基本性質
- 3 条件付き確率
- 4 演習1
- 5 確率変数(離散)
- 6 確率変数(連続)
- 7 モーメント
- 8 多次元確率
- 9 2項分布，大数の法則
- 10 演習2
- 11 正規分布
- 12 その他の分布
- 13 相関
- 14 モンテカルロ法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%
講義中の課題：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

離散数学の内容を理解しておくこと。また講義では、微分積分/解析学の内容を利用することがあるので、適宜復習すること。

確率論

(Probability Theory)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代では、物事の傾向を「確率」という道具で捉えることが非常に多くなっています。本講義を通じて、この道具を身につけるよう取り組んで下さい。

キーワード /Keywords

条件付き確率，分布，モーメント

一般物理学

(General Physics)

担当者名 岡本 良治 / Ryoji OKAMOTO / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 一般物理学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 力学、熱力学、電磁気学など物理の基本的な演算と応用方法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	
		一般物理学
		PHY100M

授業の概要 /Course Description

身近な世界から宇宙に至る自然を理解し、生活と産業の中の科学と技術の応用を考えていくには、物理学の基本的理解が必要である。生物の現象や機能も、つきつめるとすべて物理学の法則に従っている。

また、交通事故防止や、危機管理としても物理学の知識とそれにもとづく判断と行動は重要である。自動車運転中や高速船の運航中は必ずシートベルト着用の理由など、約250人が死亡または行方不明になった韓国、チンド（珍島）付近での旅客船セウォル号転覆事故（2014年4月16日）のように、「責任者」、「専門家」といっても危機対応を間違える場合がある。死活的な情報の把握と注意深い準備の上に、適切な瞬間を見極めた、果敢な行動の有無が生死を分ける場合がある。指示待ち症候群ではいけないし、「指示」を鵜呑みにしてもいけない。人間は誤りをすることもあるので、類似の事態の発生に備えることが必要かもしれない。

まず、近代物理学の典型としての力学の基礎からはじめ、現実の現象のモデル化、数理的方法の基本を学ぶ。

その際、現代科学の自然観、物理量の表わし方、有効数値、次元解析なども紹介する。

次に、現実の物体に近いモデルとして、質点系、剛体、そして流体と弾性体の物理的性質を学ぶ。

そして、熱現象とその背後の法則を学ぶ。そこでは考察の対象とするシステムとその外界を意識した思考の重要性にも触れる。さらに、電気現象とその背後の電磁場の考え方と、光を中心とした波動の基本的性質を学ぶ。

以上の内容は関連する専門科目への準備、前提となると思われる。

教科書 /Textbooks

潮 秀樹、上村 洸
「やさしい基礎物理（第2版）」
森北出版社
2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1.G.ヘルマンズ, W.ドレンカン「物理の頭で考えよう！」講談社ブルーバックス, 2014年。
2. K.スワルツ「物理がわかる実例計算101例」講談社ブルーバックス, 2014年。
3. L.M.クラウス「物理学者はマルがお好き」早川書房, 2004年。
4. 木下紀生「大学の物理-基礎と応用」裳華房, 2003年。流体, 弾性体についての記述もある。
5. 原康夫「基礎物理学(第4版)」学術図書出版社, 2012年。ただし, 流体, 弾性体についての記述はない。
6. ハリテイ他「物理学の基礎[1]力学」培風館, 2003年。アメリカの大学1, 2年向け教科書。説明の仕方は丁寧で面白い。
7. ハリテイ他「物理学の基礎[2]波・熱」培風館, 2003年。流体についての記述もわかりやすい。
8. ハリテイ他「物理学の基礎[3]電磁気学」培風館, 2003年。
9. 和田 忠「航海応用力学」成山堂書店, 2011年。力学の内容と重なり多く, 船の浮力と安定性について実的な説明は有用。

一般物理学

(General Physics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 力学基礎 1 : 速度と加速度
- 2 力学基礎 2 : 運動の法則とその応用
- 3 力学基礎 3 : 運動量, 仕事とエネルギー, 角運動量
- 4 質点系と剛体(大きさを持つ理想物体)
- 5 剛体の慣性モーメントと回転運動
- 6 流体, 弾性体
- 7 中間試験
- 8 熱伝達と分子運動論
- 9 熱力学第一法則とその応用
- 10 熱力学第二法則とその応用
- 11 電荷, クーロンの法則, 電場, 電位
- 12 電流と電気回路
- 13 電流と磁場, 電磁誘導
- 14 波動とその重ね合わせの原理
- 15 光の直進, 反射, 干渉, 偏光

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%, 期末試験 40%, レポート30%の割合で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生きた知識と判断力を修得すること。すなわち、現象と関連する概念を理解するだけでなく、微積分を用いた物理量と物理法則、ベクトル表現とその計算法、初等的な微分方程式とその解法にも習熟してほしい。必要な場合には思い出して使えるように、体で、特に手(指)を使って覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業のホームページを以下のように開設している。
<http://rokamoto.sakura.ne.jp/education/general-physics/general-physics.html>

授業内容に関連した例題, 補足説明, 情報の提供を行うので, 受講学生諸君が活用することを希望する。

キーワード /Keywords

複雑な現象のモデル化, 数理的方法, 有効性と限界。

線形代数

(Linear Algebra)

担当者名 /Instructor 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	線形代数学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	行列、行列式、ベクトル空間、固有値、対角化など線形代数の基本的な演算と応用方法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

線形代数	MTH110M
------	---------

授業の概要 /Course Description

線形代数は行列やベクトルを扱う数学で、もともとは連立1次方程式の解法として発達した理論である。近年、コンピュータの発達とともに航空機の構造計算や分子の電子論計算などの理工学シミュレーションや3次元CGなどゲームや映像の世界、経済予想やマーケティングのための統計解析など社会科学分野においても極めて重要な手段となっている。実社会で最も有用な数学といっても過言ではない。本授業では、四則演算だけを前提知識としてベクトルや行列の基本的な演算や応用方法を演習を交えて丁寧に教える。逆行列、行列式、線形空間（ベクトル空間）、固有値・固有ベクトル、対角化、最小二乗法までの線形代数学の基礎を習得する。

教科書 /Textbooks

佐藤和也、只野裕一、下本陽一「はじめての線形代数学」講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業で別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01 線形代数学とは（線形代数学とはじめ、線形代数学の応用先）
- 02 ベクトルによる表現（ベクトルとは、ベクトルを用いた平面上の直線の表現）
- 03 行列、ベクトルの演算（行列とは、行列、ベクトルの演算）
- 04 ささまざまな行列（転置とは、正方行列、対角行列、単位行列、対称行列、三角行列、行列のベキ）
- 05 逆行列と行列式（連立1次方程式と行列、2次正方行列と逆行列、余因子展開・余因子行列）
- 06 連立1次方程式1（逆行列を用いた連立1次方程式の解法、クラメールの公式、ガウスの消去法）
- 07 連立1次方程式2（同次連立1次方程式、連立1次方程式の解の性質、1次独立と1次従属、行列のランク）
- 08 中間試験
- 09 線形変換と行列の関係（線形写像と線形変換、行列による回転、合成変換、逆変換）
- 10 固有値と固有ベクトル（固有値と固有ベクトルの幾何学的な意味、行列の対角化、ケイリー・ハミルトンの定理）
- 11 工学問題における固有値と固有ベクトル（微分方程式、連立微分方程式の行列による表現、振動問題）
- 12 ベクトルによる演算（ベクトル、行列の微分・積分、内積によるさまざまな表現、正射影ベクトル、ベクトルの外積）
- 13 ベクトル空間・基底ベクトル（次元と基底ベクトル、正規直交基底、基底ベクトルの変換）
- 14 対称行列の性質・対角化（対称行列とは、対称行列の性質、直交行列、対称行列の対角化）
- 15 2次形式・最小二乗法（2次形式とその符号、最小二乗法）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習・宿題	30%
中間試験	30%
期末試験	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

線形代数

(Linear Algebra)

履修上の注意 /Remarks

教科書は図が多くて分かりやすく演習も豊富なので自習にも最適です。予習復習、特に復習を何度も行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

線形代数を難しいと感じる学生は多いですが、四則演算の機能しかないコンピュータすなわち小学生高学年でも計算できる算術です。こうした数学的トレーニングを積むことは、就職試験でも重要な論理的思考を養うには最適です。必ず自分の手を動かし、自分の頭で考え、どうしても分からなければ自分から質問する、この訓練が社会人力を高めていきます。トレーニングに近道はありません。

キーワード /Keywords

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

担当者名 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	熱力学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	熱力学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に対応して利用できる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	実際の熱化学現象に対して、熱力学的考察の進め方を提示することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

化学熱力学

CHM110M

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶものにとっては必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の基礎として極めて重要な熱力学について講義する。

教科書 /Textbooks

アトキンス 物理化学(上) 第8版 東京化学同人 (ISBN978-4-8079-0695-6)
ビギナーズ化学熱力学 共立出版、上江洲一也、後藤宗治著 (2015年9月出版予定)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学熱力学(物理化学入門シリーズ) 裳華房 (ISBN978-4-7853-3418-5)
基礎 物理化学II—物質のエネルギー論— サイエンス社 (ISBN978-4-7819-1072-6)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 有効数字、次元、単位
- 気体の性質 完全気体の法則
- 気体の性質 完全気体の状態方程式
- 気体の性質 実在気体の状態方程式
- 熱力学第1法則 仕事と熱、内部エネルギー
- 熱力学第1法則 エンタルピー
- 熱力学第1法則 状態関数、熱容量
- 前半のまとめ
- 熱力学第2法則と第3法則 カルノーサイクルと熱効率
- 熱力学第2法則と第3法則 エントロピー
- 熱力学第2法則と第3法則 標準反応エントロピー
- 熱力学第2法則と第3法則 いろいろな過程のエントロピー変化
- 自由エネルギー ギブズエネルギー
- 自由エネルギー 熱力学の基本式、マクスウェルの関係式
- 自由エネルギー いろいろな過程のギブズエネルギー変化

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小テスト等) 20%
中間テスト 20%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読んでくること。小テストの復習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算にも慣れてください。

キーワード /Keywords

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者名 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 生化学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎生物化学

BI0110M

授業の概要 /Course Description

生物内では膨大な化学反応が効率的に営まれ、生命活動を維持している。本講義では、生命活動の基本となる生体分子（アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸）の化学、および生体膜の特徴と酵素反応を学ぶことによって、生物化学の基礎知識を習得する。

教科書 /Textbooks

田宮信雄・村松正實・八木達彦・遠藤斗志也 訳 「ヴォート基礎生化学第3版」 東京化学同人 2010年 ￥7,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入（生物化学の重要性）
2. 生体分子と水
3. アミノ酸 1（構造と分類）
4. アミノ酸 2（性質）
5. タンパク質 1（構造）
6. タンパク質 2（性質）
7. タンパク質 3（解析）
8. 糖質
9. 前半の復習、確認テスト
10. 核酸 1（構造）
11. 核酸 2（性質）
12. 脂質
13. 生体膜
14. 酵素
15. 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず復習すること。

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、我々の体の中で起こっている現象を理解するための学問です。また、環境と生体は密接な関係にあり、環境技術を学ぶ中で生命現象を理解しておくことは非常に重要です。

キーワード /Keywords

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 化学工学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 化学工学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に対応して利用できる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 工業プロセスに対して、化学工学的考察の進め方を提示することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎化学工学

CHM260M

授業の概要 /Course Description

化学工学の目的とその学問体系について概説する。また、化学工学を習得するために不可欠な物質収支・エネルギー収支などの工学計算を、単位系（SI単位）を意識して行えるようにする。さらに、化学装置内の流れを理解するために、流体の分類、流動状態、および流体の圧力損失などについて学習する。

教科書 /Textbooks

基礎化学工学（化学工学会編） 培風館（ISBN 978-4-5630-4555-5）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

化学工学 改訂第3版 一解説と演習一 朝倉書店 (ISBN 978-4-2542-5033-6)
 化学工学の計算法 (化学計算法シリーズ) 東京電機大学出版局 (ISBN 978-4-5016-1690-8)
 ベーシック化学工学 化学同人 (ISBN 978-4-7598-1067-7)
 はじめて学ぶ化学工学 工業調査会 (ISBN 978-4-7693-4202-1)
 化学工学便覧 改訂六版 丸善 (ISBN 978-4-6210-4535-0)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、化学工学の目的とその学問体系
- 2 単位換算
- 3 物質収支 (1) 基礎式
- 4 物質収支 (2) 反応操作の物質収支
- 5 エネルギー収支 (1) エンタルピー収支式
- 6 エネルギー収支 (2) 物理的過程のエンタルピー変化
- 7 前半の復習、確認テスト 1
- 8 流体の圧縮性と粘性
- 9 円管内の流れ (1) Reynolds数、層流と乱流
- 10 円管内の流れ (2) 摩擦係数とFanningの式
- 11 充填層の流れ
- 12 流れ系のエネルギー収支 (1) 機械的エネルギー保存の法則
- 13 流れ系のエネルギー収支 (2) 配管内流れのエネルギー損失
- 14 流体輸送と流体混合
- 15 後半の復習、確認テスト 2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業態度、小テスト等）30%
 確認テスト 20%
 期末テスト 50%

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

用語・公式・定義などが多いので、確実な理解のために復習して講義に臨むこと。
計算問題は、基本的に手計算。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工業においてプラントを設計・制御するためには、化学工学の素養が不可欠です。将来、化学分野の技術者を目指している学生は、化学工学の目的とその体系を理解した上で、工学計算が苦もなくできるように努力してください。

キーワード /Keywords

物質収支、エネルギー収支、化学装置内の流れ、工学計算

環境統計学

(Statistics for Environmental Engineering and Planning)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year
単位 /Credits 2単位 /2 Credits
学期 /Semester 1学期 /1st Semester
授業形態 /Class Format 講義 /Lecture
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 基本的な分布、母集団の平均値の比較など、データの統計解析の基礎となる事項を実際に使える形で身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境統計学

ENW210M

授業の概要 /Course Description

環境問題の考察においては、ある事象と別の事象との間に明らかな差があるかどうか判定が必要となるケースが多い。たとえば、「自動車のアイドリングをストップすると本当に二酸化炭素排出量を減らすことができるか」という疑問に答えるためには、測定データを統計的に解析して、ストップの有無における有意差を判定することになる。一方、実験や調査で得られる測定データにはさまざまな誤差が含まれているため、科学的な結論を得るには、統計の技法で誤差を適切に処理する必要がある。環境統計学では、これらの基本的な技法を学ぶ。また、演習問題として環境問題の解析事例を取り上げ、解析のポイントと直感力を養う。これら技法学習と事例演習の組み合わせにより、基礎学問の数学を実践的に活用していくことができるようになる。

教科書 /Textbooks

石村園子(2006)「やさしく学べる統計学」 共立出版、2160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 母集団と標本、確率の表現1 (例: ポワソン分布)
- 母集団と標本、確率の表現2 (例: 二項分布)
- データの特徴を捉える1 (ヒストグラム、スタージェスの公式)
- 確率分布の整理、中間演習(1)
- データの特徴を捉える2 (正規確率紙による可視化)
- 母集団と標本、確率の表現3 (例: 正規分布、確率密度関数)
- 母集団と標本、確率の表現4 (例: 指数分布、確率密度関数)
- 確率密度関数の整理、中間演習(2)
- 最小二乗法と回帰直線
- 統計的推定 (よい推定量とは、点推定と区間推定)
- 統計的検定1 (母平均は狙った値か: 正規分布による検定)
- 統計的検定2 (母平均は狙った値か: t分布による検定)
- 統計的検定3 (母平均は狙った値か: t分布による検定つづき)、中間演習(3)
- 統計的検定4 (2つの母平均は等しいか: t分布による検定)
- 統計的検定5 (発展的問題)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・レポート 20%
中間演習 40%
期末テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境統計学

(Statistics for Environmental Engineering and Planning)

履修上の注意 /Remarks

ポワソン分布、二項分布、指数分布、正規分布等について予習しておくこと。
関数電卓、定規、方眼紙を持参すること。
知識を身につけるために原則として毎回課題（小テスト、レポート、中間演習等）をだす。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境研究や実験データ分析に不可欠な統計学の基本を学ぶ。統計的思考法に慣れてほしい。

キーワード /Keywords

物理化学実験

(Experiments in Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)
木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

対象学科 /Department **【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科**

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	物質の物理化学的性質を測定する実験技術や、実験結果の理論的な解析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験を通して物理化学的な思考力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	レポートの作成訓練を通して、プレゼンテーション力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実験技能の訓練を通して、実践に役立つ能力を修得する。
	社会的責任・倫理観	●	実験の計画、安全確保、適正な破棄物の処理などの訓練を通して社会的責任・倫理観を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	グループのメンバーと協力しながら実験を進めていくためのコミュニケーション力を修得する。
		物理化学実験	
		CHM280M	

授業の概要 /Course Description

物理化学の各種測定技術や、実験結果の理論的な解析手法を習得し、それを通じて物理化学的な思考ができるよう訓練する。

教科書 /Textbooks

実験テキスト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

物理化学実験のてびき (化学同人) など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 粘度測定
3. 密度測定
4. pH測定
5. 反応速度
6. 酸解離定数
7. 凝固点降下
8. 分配係数
9. 相互溶解度
10. 粒子径分布
11. 流動状態観察
12. 表面電位
13. 表面積
14. 吸着
15. 演習

物理化学実験

(Experiments in Physical Chemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作・態度50%

レポート50%

ただし、すべての実験を行い、それぞれの実験に対するレポートを期限内に提出した者だけを評価の対象とする。なお、未完成のレポートの提出は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に実験テキストをよく読んでおくこと。実験に関連する内容について、物理化学の教科書や参考書などを通読しておくこと。スタッフの指示に従い、安全に十分注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実験を通して物理化学の講義で学んだことの理解を深めてください。

キーワード /Keywords

化学平衡と反応速度

(Chemical Equilibrium and Rate of Reaction)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物理化学の基礎をなす化学平衡、反応速度論に対する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	平衡計算、反応速度解析、予測法について、演習を通して実践に役立つ能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	化学反応で観察される現象を、物理化学的な観点から理論的に解釈、考察する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

化学平衡と反応速度

CHM211M

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探索する学問であり、化学を学ぶ人にとっては必要不可欠なものである。本講義では化学熱力学に引き続き、化学平衡および反応速度論について学習する。

教科書 /Textbooks

アトキンス物理化学 第8版 (上、下) (東京化学同人)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

アトキンス物理化学問題の解き方(学生版) 第8版 英語版 (東京化学同人)
「これならわかる熱力学」 鈴木孝臣著(三共出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、相図
- 2 相の安定性と相転移
- 3 混合物の熱力学的な記述
- 4 自発的な化学反応
- 5 平衡状態
- 6 平衡に対する圧力の影響
- 7 平衡の温度による変化
- 8 演習
- 9 反応速度
- 10 積分型速度式 1次反応
- 11 積分型速度式 2次反応
- 12 平衡に近い反応
- 13 反応速度の温度依存性
- 14 速度式の解釈
- 15 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 20%
期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学平衡と反応速度

(Chemical Equilibrium and Rate of Reaction)

履修上の注意 /Remarks

予習・復習および演習を十分に行うこと。授業には関数電卓を持参すること。
化学熱力学の履修を前提として講義を進める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要である。

キーワード /Keywords

有機化学 I

(Organic Chemistry I)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	有機化合物の官能基構造、反応性、合成の反応機構に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	有機化合物の反応性、反応機構を官能基や立体構造、電子移動の観点から考察する力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

有機化学 I

CHM221M

授業の概要 /Course Description

 基礎有機化学で学んだ分子構造や結合をベースに有機化学反応の反応機構および合成を学ぶ。特に、求核反応や脱離反応に対する反応機構と速度論、それに関連した官能基化合物（例えば、アルコール、アルケン、アルキン、 π 電子系）の反応と性質、合成について解説する。

教科書 /Textbooks

現代有機化学（上）第6版（K. ピーター・C. ヴォルハルト / ニール・E. ショアー） 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎有機化学（R. J. Fessenden/J. S. Fessenden）化学同人の他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 二分子求核置換反応(SN2)
- 一分子求核置換反応(SN1)
- ハロアルカンの脱離反応(E1とE2)
- アルコール性質、合成および合成戦略
- アルコールの反応
- エーテルの化学
- 中間まとめと例題演習
- アルケンの求電子付加反応
- アルケンの反応：ヒドロホウ素化 - 酸化の他
- アルキンの性質と結合
- アルキンの求電子付加反応
- 非局在化した π 電子系
- 共役ジエンの特性と反応
- 例題演習
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

 中間試験 35%
 レポート 20%
 期末試験 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

練習問題や章末問題は、講義内容を理解するのに役に立ちます。基礎有機化学で学んだ炭素結合や軌道論を復習しておくことを勧めます。

有機化学 I

(Organic Chemistry I)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今後、高級有機化学反応を学ぶ際の準備として、テキストに登場する新しい用語・人名反応をしっかりと覚えるとともに関連した例題を自分の力で解いてみる練習が必要です。

キーワード /Keywords

求核置換反応、脱離反応、アルコール、エーテル、アルケン、アルキン、非局在化

無機化学

(Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原子の特性に基づいた分子の性質に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	物質が示す特性を原子・分子の性質に立脚して論理的に考察する能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			無機化学
			CHM231M

授業の概要 /Course Description

原子の性質は電子の存在状態に依存し、原子と原子の結合にも電子の状態が大きく影響を与える。本講義では、原子中における電子の配置や挙動に基づいて、原子間に形成される結合状態や分子の性質・構造について解説する。
本講義を通して、原子中の電子状態と原子同士の結合の仕組みや結合の種類との関連性についての基礎知識を身に付け、分子の性質・構造を電子状態から理解する能力を養う。

教科書 /Textbooks

『基礎無機化学』 佐々木義典、服部豪夫、小松優、掛川一幸、岩館泰彦著 朝倉書店出版 1997年 3,780円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『化学結合と分子の構造』 三吉克彦(著) 講談社 2006年 4,104円
○『シュライバー・アトキンス無機化学第4版(上・下)』 田中勝久・平尾一之・北川進(訳) 東京化学同人 2008年 7,020円(上)、6,912円(下) (他の版も図書館蔵書)
『基礎無機化学-構造と結合を理論から学ぶ』 山田康洋・秋津貴城(著) 化学同人 2013年 2,592円
○『フレッシュマンのための化学結合論』 西本吉助(著) 化学同人 1996年 2,376円
『化学結合の見方・考え方』 藤谷正一・石原武司・木野邑恭三・三吉克彦(著) オーム社 1987年 3,672円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 原子と電子
2. 電子の軌道
3. 多電子原子の軌道
4. イオン結合【イオン化】
5. イオン結合【結晶状態】
6. 共有結合【電子配置】
7. 演習I
8. 共有結合【原子価結合法】
9. 共有結合【分子軌道法】
10. 共有結合【分子軌道法・単純系】
11. 共有結合【分子軌道法・複雑系】
12. 演習II
13. 配位結合
14. 水素結合
15. 金属結合と固体の構造

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

無機化学

(Inorganic Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

「基礎無機化学」で学習した内容、特に量子化学の箇所を理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初学者には難度が高い内容になるので、集中して取り組むこと

キーワード /Keywords

原子構造、分子構造、結晶構造、電子状態

化学産業技術論

(Technology in the Chemical Industry)

担当者名 飯田 汎 / Hiroshi IIDA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	化学産業により社会の持続的発展を維持する意欲を養う。
	社会的責任・倫理観	●	化学産業の役割、及び化学技術者の使命を身につける。
	生涯学習力	●	現代社会が抱える問題に関心を持ち、化学技術者として取り組むべき課題を見出す意欲を身につける。
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

化学産業技術論

CHM290M

授業の概要 /Course Description

- 21世紀の地球社会を持続発展的に営むために、化学産業はどうあるべきか。
 - 21世紀社会の展望と、産業の役割について、また、技術者の使命感について語ります。
 - 化学産業に、資源・エネルギー、材料、生命工学、環境など広義の化学産業技術を含みます。
- 未来の展望を欠いたままで、若い技術者に、技術進歩だけを語ることはできません。現代社会がかかえる様々な問題を理解し、多くの課題を超えたくうえで、技術者のリーダーシップを発揮し、新しい社会を作り出すために取り組むべき課題を具体的に提示します。
- 15回の講義を通して、最後に以下の質問に答えられるような課題の提示を示します。
 - 技術者としての動機づけはできたか
 - 社会と技術は密接不可分の関係にあることを理解できたか
 - 上昇志向で物事に取り組むことのキッカケが育まれたか

教科書 /Textbooks

飯田汎『岐路に立つ日本の行方 -再び開拓・創造の躍動感を-』丸善プラネット(2010)※必携

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 飯田汎『ニッポン技術者の使命』丸善(2005)
- 東千秋・飯田汎・雀部博之『技術革新を支える物質の科学』放送大学教育振興会(2008)
- 田島慶三『現代化学産業論への道』化学工業日報社(2008)

化学産業技術論

(Technology in the Chemical Industry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (1) 6回目の危機にある日本の行方 <日本のビジョン>
"文化・知識・環境融合社会"の創造
- 【第2回】1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (2) 社会と産業をめぐる5つの潮流 <技術者のミッション>
- 【第3回】2.人間社会と化学の役割
化学産業の役割と化学技術の使命 ①資源・エネルギーと化学 ②食料問題と化学
- 【第4回】2.人間社会と化学の役割
化学産業の役割と化学技術の使命 ③健康と化学 ④生活と化学
- 【第5回】3.産業構造の変革にむけた化学産業の役割
化学産業の歴史と特徴 ①近代化学工業発展の足跡 ②わが国の化学産業の現状
- 【第6回】3.産業構造の変革にむけた化学産業の役割
化学産業の歴史と特徴 ③化学産業の特徴 ④戦後の経済を支えた化学工業
- 【第7回】4.イノベーションとパラダイムの転換 の意義
(1) 科学技術とイノベーション (2) 成功度仮説とその検証 (3) グローバル化の課題
- 【第8回】5.現代社会とイノベーション
文化・知識・環境融合社会の形成にむけた課題(事例)
(1) 知識社会とイノベーション
①記録・記憶技術 ②バイオ・ゲノム科学 ③ ナノテクノロジー
- 【第9回】5.現代社会とイノベーション
(2) 環境調和社会とイノベーション
①物質の循環とプロセス・イノベーション
②未来のエネルギー資源とその利用
- 【第10回】5.現代社会とイノベーション
(3) 生活文化社会とイノベーション
①高分子材料の高性能・高機能化
②金属・無機材料の高性能化・高機能化
- 【第11回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (1) グローバル世界の国々と日本
- 【第12回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (2) 日本人の心 Jマインド
- 【第13回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (3) 日本の伝統文化と化学技術
- 【第14回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (4) 21世紀産業の開拓と化学技術
- 【第15回】まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト、自由記述	40%
最終テスト	60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講前に、一瞬、以下のことを考えて、受講に臨んでください。

- * 技術者としての動機づけ * 現代社会の姿に対する認識 * 上昇志向をもった取り組み姿勢

4~7月の毎月、2日間にわたって4コマの講義を行います。

開講日時については時間割を参照して下さい。

- 4月 4コマ 岐路に立つ日本と技術者の使命(1、2回)
人間社会と化学の役割(3、4回)
- 5月 4コマ 産業構造の変革にむけた化学産業の役割(5、6回)
イノベーションとパラダイムの転換 の意義(7回)
現代社会とイノベーション(8回)
- 6月 4コマ 現代社会とイノベーション(9、10回)
創造改革で世界のイニシアティブを (11、12回)
- 7月 3コマ 創造革命で世界のイニシアティブを(13、14回)
まとめ (15回)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会と技術は密接不可分な関係にあります。そのために、現代社会の姿についての理解が不可欠です。

こうした認識を深めるためにも、できるだけ多くの、仲間とともに参加してみてください。

本講義を受講することで、さまざまな知識とともに、社会人としての人格の大切さを身につけられるよう、一緒に考えたいと思います。

キーワード /Keywords

化学産業、化学技術、文化・知識・環境融合社会、イノベーション、パラダイム転換、グローバル教育、

化学産業技術論

(Technology in the Chemical Industry)

キーワード /Keywords

日本人の心、Jマインド、成功度仮説、化学、物質、エネルギー、生命工学、環境

有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~), 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~), 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	有機反応・合成を実践する際に必要な基本的なスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験の結果を詳細に分析し、その結果が得られた原因を解き明かす能力を修得する。
	プレゼンテーション力	●	実験の成果をまとめて他人に分かるように報告する能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	座学で得られる知識をより確かなものにするために、化学では実験が必要不可欠であることを確認する。
	社会的責任・倫理観	●	有機化合物が社会に対してどのような影響を与えるのかを理解し、正しく取り扱う倫理観を養う。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	グループのメンバーと協力しながら実験を進めていくためのコミュニケーション力を修得する。
			有機化学実験
			CHM281M

授業の概要 /Course Description

有機化学実験の基礎技術を修得し、それらを組み合わせた応用実験へと展開できる能力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

独自に作成したものを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1週目 安全講習、レポートの書き方、前半の実験内容に関する講義
- 2週目 合成・反応実験(1) Diels-Alder反応
- 3週目 合成・反応実験(2) Grignard試薬の合成
- 4週目 合成・反応実験(3) アルコールの酸化
- 5週目 合成・反応実験(4) ケトンの還元
- 6週目 合成・反応実験(5) ルミノールの合成と化学発光
- 7週目 合成・反応実験(6) スペクトル解析
- 8週目 後半の実験内容に関する講義
- 9週目 合成・反応実験(7) 求核置換反応
- 10週目 合成・反応実験(8) 求核置換反応
- 11週目 合成・反応実験(9) 芳香族求電子置換反応
- 12週目 合成・反応実験(10) 芳香族求電子置換反応
- 13週目 合成・反応実験(11) 反応速度論
- 14週目 合成・反応実験(12) 反応速度論
- 15週目 総括

有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

すべて出席し、実験を行ったものに対して、レポート(試験・口述諮問に代替する場合あり)で評価する。
レポートの評価基準は下記の通りである。

1. 実験内容の理解度・論理性 60%
2. 実験操作に対する理解度 30%
3. 書式・体裁 10%

ただし、締切期限を過ぎて提出されたレポートは評価されない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず、実験の予習を行ってこよう。予習内容は、実験で取り扱う反応、操作の原理、操作のフローチャートの作成です。
また、基礎有機化学、有機化学I、有機化学IIの内容と関連しているので、講義内容に十分に学習し、実験操作や結果の意味がすぐに理解できるようにしておくこと。
実験ですので、出席して実験を行うことが何よりも必要です。したがって、出席が重視されますので、必ず出席し、実験を行ってください。遅刻も厳禁です。欠席1回で単位はつきません。遅刻は3回で欠席1回とみなします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学実験は、正しく行えば安全で楽しいものです。しかし、僅かな誤操作が大きな事故につながる危険性を持っています。きっちりと予習をし、安全に実験を行うことを心がけてください。

キーワード /Keywords

Diels-Alder反応、Grignard反応、酸化と還元、化学発光、求核置換反応、求電子置換反応、反応速度論

分析化学

(Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	分析化学、溶液化学を理解するための基礎知識と計算力を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	環境分析、材料分析に必要な基礎知識と問題解決能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			分析化学【化学】
			CHM241M

授業の概要 /Course Description

分析化学は、物質をプローブとして物質系からその情報を取り出す方法論に関わる学問であり、自然科学とその応用技術分野を結びつける重要な役割を果たしている。また、環境指標の評価においても不可欠な基礎的学問である。この講義では、物質の分析法の基礎となっている溶液内化学反応について解説し、これを応用した定性的及び定量的な分析法について具体的事例を示しながら講義する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学（合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 溶液化学基礎 - 化学平衡、活量、イオン強度、活量係数 -
- 2 酸塩基平衡 - 質量作用則、物質収支、電荷収支 -
- 3 酸塩基平衡 - 弱酸の平衡 -
- 4 酸塩基平衡 - 弱塩基の平衡 -
- 5 酸塩基平衡 - 強酸・強塩基、多塩基酸・多酸塩基の平衡 -
- 6 酸塩基平衡 - 両性電解質の平衡 -
- 7 演習問題解答会
- 8 前半総括
- 9 錯生成平衡 - 錯体と錯イオン、錯生成反応 -
- 10 錯生成平衡 - 錯生成定数、安定度定数 -
- 11 沈殿生成平衡 - 沈殿生成反応、溶解度積 -
- 12 沈殿生成平衡 - 共通イオン効果、異種イオン効果、pHの影響、錯形成の影響 -
- 13 酸化還元平衡 - 酸化還元反応、ネルンスト式 -
- 14 酸化還元平衡 - 電池と起電力、平衡定数 -
- 15 演習問題解答会

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験：40%

期末試験：40%

演習問題解答など日頃の講義への取組：20%

※再試験の受験資格は、中間試験と期末試験を受験しており、かつ、出席が2/3以上、かつ、総合評価で合格する可能性のある者

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分析化学

(Analytical Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

中間試験について： 溶液化学基礎、酸塩基平衡について勉強しておくこと。
期末試験について： 錯生成平衡、沈殿生成平衡、酸化還元平衡について勉強しておくこと。
講義は教科書の他、演習問題などのプリントを配布して行う。
この講義はエネルギー循環化学科の学生対象であり、環境生命工学科の学生は再履修や再試験を含めて環境生命工学科用の分析化学を履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境指標を定性的あるいは定量的に評価するための分析化学について、その基礎となる理論から応用までをしっかりと理解して欲しい。
この講義は3年の環境分析実習と直結しているので、操作法や技術は実践で身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

溶液化学基礎、酸塩基平衡、錯形成平衡、沈殿生成平衡、酸化還元平衡

化学工学

(Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	流体中の粒子の運動や伝熱に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	流体中の粒子の運動や伝熱の状態に関する問題解決能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で扱う化学プロセスの状態を、計算した数値に基づいて定量的に判断する能力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

化学工学

CHM261M

授業の概要 /Course Description

本講義では、化学工学のうち「流体と粒子の分離」、「エネルギーと伝熱」について学習する。これらの操作が実際の工業プロセスでどのように使われているかを意識しながら、講義と演習により授業を進める。本講義の到達目標は、

- ・ 流体中の粒子の運動方程式を立式し、終末速度を導くことができる
- ・ 粒子がどのような運動領域にあるかを判断し、正しい数値解を求めることができる
- ・ 伝熱の様式の違いを理解し、それぞれの様式における伝熱量を正しく計算することができる
- ・ 熱交換器の熱移動量に関する理論を理解し、伝熱量を正しく計算することができる

である。

教科書 /Textbooks

化学工学会編 『基礎化学工学』 培風館 1999年 ¥2,800 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション -工業プロセスと化学工学-
- 2 流れとレイノルズ数
- 3 流体中の単一粒子の運動(1) - 運動方程式と終末速度 -
- 4 流体中の単一粒子の運動(2) - Stokes域、Allen域、Newton域 -
- 5 流体からの粒子の分離(1) - 重力分離装置 -
- 6 流体からの粒子の分離(2) - ろ過 -
- 7 粒子系の評価 -分布と平均-
- 8 前半の演習
- 9 伝熱(1) -伝導-
- 10 伝熱(2) -対流-
- 11 伝熱(3) -熱抵抗と総括伝熱係数-
- 12 伝熱(4) -放射-
- 13 伝熱(5) -演習-
- 14 熱交換器
- 15 総合演習

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的な参加 40%

期末試験 60%

※「講義への積極的な参加」は、講義での態度や発言、演習問題や質問に対する解答、提出物の内容などを意味するものであり、単純な出席点ではない。

※再履修登録者は講義に出席しなければならない。再試験登録者は必ずしも出席しなくても良いが、その場合は期末試験100%で評価する。

化学工学

(Chemical Engineering)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2年次・第1学期に開講される「基礎化学工学」の内容をよく理解しておくこと。
毎回、関数電卓必携。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工学を理解するには授業を聞くだけでは不十分です。授業の前に予習を行い、授業で演習問題を自分の手で解いていく課程で理解が深まりますので、授業には積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19~), 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	基本的な実験技術、正確なデータ整理、科学的に正確な解析能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自ら得たデータや解析結果を論理的な思考・判断によって、問題解決法を生み出す応用力を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス、結論を適切な方法で表現することができ、客観的な視点に立って議論する能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	環境・エネルギー問題を解決する意欲と行動力を修得する。
	社会的責任・倫理観	●	化学技術者としての社会的責任感と倫理観を修得する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して、問題解決に向けて行動できる能力を修得する。
		環境分析実習【化学】	
		CHM180M	

授業の概要 /Course Description

環境分析の必須項目である一般項目（SS、TOC、ガス分析など）分析から、金属成分および有機物成分の分析（原子吸光分析、ガスクロ分析、HPLC分析、イオンクロマト分析など）に至るまで、水質、大気および土壌の環境指標項目の定性及び定量分析の実習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。実験書を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。また、実験室に参考書を配備している。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 実験説明会、安全指導、実験準備、データの統計的取扱い
- 2 金属イオンのイオン交換分離と原子吸光法による定量分析
- 3 キレート滴定法による金属イオンの定量分析
- 4 ゼオライトの合成と水の硬度測定
- 5 金属含有廃水の処理
- 6 ガスクロマトグラフィー
- 7 室内汚染物質（ベンゼン・アルデヒド類）の定量分析
- 8 粒子状物質の定量分析
- 9 浮遊物質（SS）、n-ヘキサン抽出物質測定
- 10 全有機炭素量（TOC）、全窒素量（TN）測定
- 11 窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）の定量分析
- 12 三成分液平衡
- 13 土壌分析 1週目
- 14 土壌分析 2週目
- 15 総括（実験室清掃、後かたづけを含む）

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作の実施：60%
レポート：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

履修上の注意 /Remarks

必ず、事前に実験書の予習を行うこと。実験を始める前までに、実験操作の手順等を実験ノートに書いておくこと。
全ての実験について出席した者で、かつ、全てのレポートを提出した者のみ、成績評価対象となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境分析は、水質、大気、土壌(底質)、騒音の分析から成り立っている。このうち、環境分析実習では、主として水質、大気、土壌分析について様々な分析手法を用いて行う。これらを実習すれば、環境分析のエキスパートとなることができるので、全ての項目についてしっかり学習して欲しい。

キーワード /Keywords

環境分析、定性分析、定量分析、機器分析、水質分析、大気分析、土壌分析

物理化学演習

(Exercises in Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 /Semester 1単位 /Class Format 演習 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	物理化学の基本的な原理・原則を理解し、与えられた問題に対して数値、単位等、正確な答えを導出する能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	演習で取り扱った公式、定理などについて、どのような問題がそれに当てはまるかを発見、分析し、問題を解決する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	●	問題解決の方針や手順を説得力のある方法で表現する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		物理化学演習	CHM312M

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶものにとっては必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の基礎として極めて重要な熱力学、統計熱力学、化学平衡、および反応速度についての問題演習をおこなう。

教科書 /Textbooks

アトキンス 物理化学 (上、下) 第8版 東京化学同人
適宜、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス、熱とエネルギー
- 熱力学第一法則
- 熱容量
- 熱力学第二法則
- エントロピー
- 統計力学的エントロピー
- 自由エネルギー
- 中間試験
- 微分型速度式
- 積分型速度式
- 平衡に近い反応
- 温度依存性
- 素反応
- 逐次素反応
- 総合演習

成績評価の方法 /Assessment Method

前半50% (問題演習と中間試験)
後半50% (問題演習と期末試験)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

物理化学演習

(Exercises in Physical Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

予習・復習を十分に行うこと。
授業には関数電卓を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学の原理を理解し、それを使って正確な値を導けることが重要です。

キーワード /Keywords

内部エネルギー、エンタルピー、カルノーサイクル、エントロピー、ボルツマン分布、自由エネルギー、化学ポテンシャル、平衡定数、化学平衡、相平衡、反応速度式、速度定数、アレニウスの式

有機化学演習

(Exercises in Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~), 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科

/Department

 授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	有機化学の基本的な原理・原則を理解し、与えられた問題に対して正しく解答を導き出す能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自ら新しい問題を見つけ出し、論理的な思考に基づいて問題解決のための適切な方法を考案し、問題を解決する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	●	問題解決のプロセスや結果を適切な方法で表現することができ、客観的な視点に立って議論する能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			有機化学演習
			CHM320M

授業の概要 /Course Description

有機化学の演習を通して、基礎有機化学、有機化学I、有機化学IIで学んできた内容に関する理解を深める。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ボルハルト / ショアー 現代有機化学

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 基礎有機化学演習 (1) 構造と性質
- 2 基礎有機化学演習 (2) 立体化学
- 3 基礎有機化学演習 (3) 置換反応
- 4 基礎有機化学演習 (4) 付加反応
- 5 基礎有機化学演習 (5) 芳香族と共役
- 6 第1~6回までのまとめ
- 7 有機反応化学演習 (1) 求核反応
- 8 有機反応化学演習 (2) 求電子反応
- 9 有機反応化学演習 (3) 縮合
- 10 有機反応化学演習 (4) 特殊な反応
- 11 第7~10回までのまとめ
- 12 有機合成化学演習 (1) 炭化水素、アルコール
- 13 有機合成化学演習 (2) アルデヒドとケトン
- 14 有機合成化学演習 (3) アミン
- 15 総合演習

成績評価の方法 /Assessment Method

 毎回の演習問題 50%
 レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回出される課題を必ず提出すること。

有機化学演習

(Exercises in Organic Chemistry)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

反応工学

(Chemical Reaction Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	反応速度や反応率、反応装置の設計法に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	反応速度や反応装置の解析能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	反応操作の最適条件を選定するスキルを修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

反応工学

CHM360M

授業の概要 /Course Description

反応工学は、反応装置を合理的に設計し、操作するための工学です。本講義では、反応速度や反応率、反応装置と設計法、反応操作の最適条件の選定について学習します。

教科書 /Textbooks

培風館 「改訂版 反応工学」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学同人 「ベーシック化学工学」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 化学反応の分類
2. 反応器の分類
3. 反応速度論の基礎
4. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法(定容系単一反応)
5. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法(定容系複合反応)
6. 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法(容積変化を伴う反応)・微分法・半減期法
7. 気相反応における全圧追跡法
8. 前半まとめ
9. 回分反応器の設計
10. 半回分反応器の設計
11. 流通式槽型反応器の設計
12. 回分反応器と流通式槽型反応器の比較
13. 直列流通式槽型反応器の設計
14. 管型反応器の設計
15. 管型反応器と流通式槽型反応器の比較

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。

反応工学

(Chemical Reaction Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、反応工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

キーワード /Keywords

回分式反応器、流通式槽型反応器、管型反応器、反応速度論

分離工学

(Separation Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	単位操作に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	各単位操作の解析能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物質収支と平衡の概念から単位操作の設計が可能であることを理解する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

分離工学

CHM361M

授業の概要 /Course Description

目的物質を混合物から分離する操作は、化学工業プロセスの中核をなす重要な操作である分離操作は、化学工業のみならず、製造業や環境保全においても不可欠である。この講義では分離法の中でも特に重要な、ガス吸収・蒸留・抽出・吸着について、化学工学的な観点から学習する。

教科書 /Textbooks

化学同人 「ベーシック化学工学」
培風館 「基礎化学工学」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

朝倉書店 「化学工学通論Ⅰ」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 物質の分離の原理と方法
2. ガス吸収 (Henryの法則、二重境膜説)
3. ガス吸収 (吸収装置、充填塔)
4. ガス吸収 (吸収塔の高さ)
5. 吸着 (吸着平衡)
6. 吸着 (速度、回分吸着)
7. 吸着 (固定層吸着)
8. 前半総括
9. 蒸留 (気液平衡、ラウールの法則)
10. 蒸留 (単蒸留、フラッシュ蒸留)
11. 蒸留 (精留)
12. 抽出 (液液平衡)
13. 抽出 (単抽出、多回抽出)
14. 抽出 (向流多段抽出)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。
本講義の理解のためには、基礎化学工学・化学工学を受講していることが望ましい。

分離工学

(Separation Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、分離工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

キーワード /Keywords

ガス吸収、吸着、蒸留、抽出

大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

担当者名 高倉 弘二 / Koji TAKAKURA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 大気汚染防止についての幅広い知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 大気環境の汚染を管理・防止する意欲を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

大気浄化工学

ENV332M

授業の概要 /Course Description

近年の環境意識の高まりから、社会は環境をキーワードとして動いていると言っても過言ではありません。この授業では、私たちの健康に直結する大気環境を取り上げ、特に工場などから排出される排ガス等を管理する大気汚染防止技術について講義します。ここでは、将来環境関連の業務に携わる事を想定して、大気汚染防止について幅広い知識を取得することができます。また、この知識を生かして環境関係の資格試験（大気関係公害防止管理者等）の受験に備えることができるように講義内容にも配慮しました。

教科書 /Textbooks

授業用の資料は毎回配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

深く学びたい方にはお薦めです。
公害防止管理者試験 大気関係標準テキスト 青山芳之、畑和子、新田武明著（オーム社）
新・公害防止の技術と法規 大気編（社団法人 産業環境管理協会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.大気汚染概論I(公害総論)
- 2.大気汚染概論I-2 (公害総論)
- 3.大気汚染概論II,III (大気概論)
- 4.燃焼と燃焼管理 (大気特論)
- 5.排ガス処理技術 (SOx処理)
- 6.排ガス処理技術 (NOx処理)
- 7.大気測定技術
- 8.前半のまとめ
- 9.排ガス処理技術 (総論)
- 10.排ガス処理技術 (実例)
- 11.排ガス処理技術 (集じん技術I)
- 12.排ガス処理技術 (集じん技術II)
- 13.排ガス処理技術(大気有害物質特論)
- 14.拡散等(大規模大気特論)
- 15.総括(演習問題により理解を深める)

理解度に応じて授業を進めていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(質疑応答等) : 30% (希望者によるプレゼンテーションも加点対象になります)
期末試験 : 70%
・ 選択マークシート
・ 選択記述

大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中講義のため集中力を高める工夫をして下さい。
例えば「十分な睡眠を取る」「前もって参考書を一読する」等
皆さんからの積極的な授業参加を考えており、また、授業の理解度を深めるため、希望者には提示するテーマに沿ってプレゼンテーション(3~5分間程度)する機会があります。これは成績評価の対象にもなり、積極的な参加を期待しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会は環境をキーワードに動いています。様々な環境情報を身に付けてください。

キーワード /Keywords

地球環境、大気汚染、排ガス、ばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物

構造化学

(Structural Chemistry)

担当者名 黎 晓红 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物質の構成単位である微視的な粒子の世界を支配する法則を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物質の構造や反応など、化学の基礎的な問題を理解する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

構造化学

CHM310M

授業の概要 /Course Description

物質の構成単位である微視的な粒子（原子・分子）について、量子化学の観点から解説する。微視的な粒子の世界を支配する法則について学び、物質の構造や反応といった、化学基礎となる問題を理解する能力を養う。

教科書 /Textbooks

物理化学、David W. Ball、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

物理化学、D.A.McQuarrie、J.D.Simon、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 原子スペクトル
- 2 原子構造
- 3 光電効果
- 4 量子論
- 5 水素原子についてのポールの理論
- 6 ドブロイの式
- 7 波動関数
- 8 不確定原理
- 9 シュレーディンガー方程式
- 10 箱の中の粒子
- 11 三次元の箱の中の粒子
- 12 水素原子のシュレーディンガー方程式
- 13 水素原子の波動関数
- 14 スピン、多電子原子
- 15 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加:20%
最終試験:80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

構造化学

(Structural Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

電卓を持参すること。
微視的粒子の運動は、一般の物理学で用いられるニュートン力学の法則に従わず、量子力学の法則に従う。本科目を勉強するとき、ニュートン力学の概念を捨て、量子力学の概念を受け入れることが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

微視的粒子の世界は我々が日常暮らしている世界（巨視的世界）とはまったく異なっている。このように物質の微視的世界では、量子の概念を用いて物質中の電子のエネルギー準位、元素の周期表を統一的に説明できる

キーワード /Keywords

先端材料工学

(Advanced Materials)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~), 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	先端材料の構造・機能制御に関する基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ナノレベルでの材料の構造と特性を理解するための分析・評価法を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	環境、エネルギー、医療分野などに関連した応用事例を通して、先端材料開発の近年の取り組みを間接的に経験する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

先端材料工学

CHM350M

授業の概要 /Course Description

大きな産業発展は材料に基づくことが多く、これまで様々な材料の開発により社会および生活環境が大きく変化している。その中でナノテクノロジーは、バイオ技術、情報通信技術に並んで、地球の未来を左右する環境・エネルギー問題と深く関わる核心技術である。本講義では、ナノテクノロジーの基盤となるナノ素材の合成、物性などについて解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『革新的な多孔質材料』 日本化学会編 化学同人 2010年 本体3,800円
- 『金属および半導体ナノ粒子の科学』 日本化学会編 化学同人 2012年 本体3,800円
- 『新しい触媒化学』 菊地英一・多田旭男・服部英・瀬川幸一・射水雄三 著 三共出版 2013年 本体2,800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンスとイントロダクション
- 2 工業技術の歴史
- 3 ナノ粒子触媒
- 4 グリーンケミストリー
- 5 多孔質材料
- 6 ゼオライトの構造と物性
- 7 ゼオライトの合成と応用
- 8 前半総括
- 9 材料の構造と機能：ナノ構造の制御Ⅰ
- 10 材料の構造と機能：ナノ構造の制御Ⅱ
- 11 材料の構造と機能：分子機能の制御Ⅰ
- 12 材料の構造と機能：分子機能の制御Ⅱ
- 13 自己組織化ナノ材料Ⅰ
- 14 自己組織化ナノ材料Ⅱ
- 15 後半総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

先端材料工学

(Advanced Materials)

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機器分析

(Instrumental Analysis)

担当者名 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~)
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● X線/電子線をはじめとした大型機器分析の原理を理解する。
技能	専門分野のスキル	● 大型機器分析における基礎的な計測法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 大型機器分析における主要な誤差要因を理解するとともに、適切な前処理法を選択できるようにする。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

機器分析

CHM342M

授業の概要 /Course Description

環境情報把握には、微量のサンプルを多数、高速分析する必要があり、分析機器を駆使する必要はますます高まっている。本講義では計測分析センターに設置してある分析機器群を中心に、各種分析機器の原理を解説し、前処理を含め分析技法の概略を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

機器分析のてびき 化学同人 泉美治他 監修

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

粉末X線解析の実際 中井 泉(編集), 泉 富士夫(編集) 朝倉書店
ベーシック機器分析化学 日本分析化学会 近畿支部編 化学同人
走査プローブ顕微鏡と局所分光 重川秀実、坂田亮、河津璋 裳華房
他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 蛍光X線
- 3 単結晶X線回折
- 4 粉末X線回折
- 5 粉末X線回折II
- 6 粉末X線回折III
- 7 電子顕微鏡、EPMA、AFM
- 8 FT-IRとラマン分光、UV-VIS
- 9 熱重量分析 (TG-DTA / DSC)
- 10 ESCA
- 11 ICPと原子吸光による金属分析法
- 12 NMR
- 13 比表面積測定と粒子径分析
- 14 電気化学測定法の基礎
- 15 最先端機器分析の紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

機器分析

(Instrumental Analysis)

履修上の注意 /Remarks

予習は特に要しない。授業で使用するpptファイルはひびきのe-learningシステム上または講座HPにて配付するので、復習などで必要であれば各自ダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文研究などで必要となる各種分析機器の原理、前処理、測定限界、精度などについて講義します。

キーワード /Keywords

環境分析化学

(Environmental Analysis)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 環境分析に関わる基礎的・専門的な知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 環境分析をツールとして、環境汚染の早期発見、原因究明と解決に科学的な視点から取り組む。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 環境の状態を科学的に把握し、その保全に貢献する意欲を身につける。
	コミュニケーション力	

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

環境分析化学

CHM341M

授業の概要 /Course Description

本教科では、分析化学を履修した学生を対象にして、法律に定められた分析法（公定法）を中心に環境汚染物質の分析法を教育する。環境試料中の様々な汚染物質の分析に使用される分析機器の原理、同じ物質でも大気、水質、土壌など試料毎に異なる前処理法を具体的に学ぶ。また、信頼できる分析値を得るために必要な分析精度管理を理解し、正しい測定値を得るために必要な知識だけでなく、分析依頼者として分析値を評価する知識とノウハウを習得する。

教科書 /Textbooks

授業時にテキストや参考資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 環境の化学分析, 日本分析化学会北海道支部, 三共出版, 1998
- 2) 環境と安全の科学 演習と実習, 及川紀久雄他, 三共出版, 2007
- 3) 環境分析技術手法, 日本環境測定分析協会, しらかば出版, 2001
- 4) Environmental Chemical Analysis, B.B.Kebbekus, S. Mitra, Chapman & Hall/CRC, 1998

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス, 基準項目と分析法 (調査の目的・意義, 調査計画, 調査項目, 調査地点, 調査時期)
- 2 調査目的, 計画とサンプリング (準備, 器具, 洗浄法, 容器, 採取・運搬・保存)
- 3 紫外・可視吸光度法, 原子吸光度法
- 4 クロマトグラフィー (GC)
- 5 クロマトグラフィー (HPLC, IC)
- 6 質量分析法 (GC/MS)
- 7 質量分析法 (LC/MS, ICP-MS)
- 8 前半のまとめ・中間試験
- 9 水質一般項目 (COD, BOD, SS, T-N, T-P, ECなど)
- 10 水質の有害項目前処理 (重金属, VOC, CNなど)
- 11 水質の有害項目前処理 (半揮発性化学物質)
- 12 大気の有害項目前処理
- 13 土壌, 底質, 生物の有害項目前処理
- 14 分析精度管理
- 15 検出値の評価・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテストおよびレポート: 50%, 中間試験: 20%, 期末試験: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境分析化学

(Environmental Analysis)

履修上の注意 /Remarks

ミニテスト： 上記の2～15回の授業で実施。1回前の授業内容から出題する。中間試験： 前半の授業内容から出題する。期末試験： 全15回の授業内容から出題する。

ミニテストの結果が良くなければ、再履修は不可避である。集中して聴講すると共に、配布したテキストや資料を用いて予習・復習（特に復習）を欠かさずに行うこと。

参加型授業・考える授業を目指し、授業中に質問するので、自分の考えを必ず発表すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境質を評価するための種々の分析について、実際に使用されている方法を中心に講義する。環境分野に就職を希望する学生だけでなく、環境測定値を評価するために必要不可欠な知識である。履修者はしっかりと勉強してほしい。

キーワード /Keywords

資源循環工学

(Sustainable Resource Engineering)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	有機物・無機物の処理における工学的原理を数式や化学の視点で理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	物質収支や反応速度に基づいて事象を整理するセンスを身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	排水・廃棄物の処理と資源化を科学的かつ論理的に考える習慣を身につける。
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

資源循環工学

ENV333M

授業の概要 /Course Description

豊かで住みよい生活を営み、様々な生産活動や社会活動を持続可能なものとするためには、環境への負荷を最小にして、有限の資源を最大限に活用する資源循環型社会を形成していくことが必要となる。このことを技術面から理解することを目標に、排水と有機性廃棄物の処理システムならびに金属とプラスチック廃棄物のリサイクルシステムについて、原理と基本的考え方を学ぶ。
排水と有機性廃棄物の分野では、私たちの社会で最も広く使われている生物学的処理システムに特に焦点を当てる。また、金属とプラスチック廃棄物のリサイクルにおいては、最も重要な技術である粉碎プロセスと分離プロセスを中心に説明する。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生物学的処理システムの化学1 (窒素除去)
- 2 生物学的処理システムの化学2 (有機物除去)
- 3 汚濁物質 (有機物・栄養塩類) を分解する微生物の種類と処理プロセス
- 4 微生物の増殖と汚濁物質分解の関係 (CODの考え方、汚泥の生成)
- 5 生物学的排水処理システムの計算方法1 (ケモスタット)
- 6 生物学的排水処理システムの計算方法2 (活性汚泥法)
- 7 排水・有機性廃棄物の資源化技術1 (完全混合とプラグフロー)
- 8 排水・有機性廃棄物の資源化技術2 (メタン発酵システム)
- 9 金属・プラスチック類のリサイクル技術概要
- 10 金属・プラスチック類のリサイクルに関する考え方
- 11 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術1 (粉碎)
- 12 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術2 (物理的分離1)
- 13 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術3 (物理的分離2)
- 14 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術4 (物理化学的分離)
- 15 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術5 (化学的分離)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 50%
試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資源循環工学

(Sustainable Resource Engineering)

履修上の注意 /Remarks

講義の要点をノートに必ずまとめること。また、これによって授業で学習した数式・反応等を理解すること
適宜、演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

資源のリサイクルに関する科目を予め受講しておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

エネルギー循環化学実習

(Experiments in Chemical Engineering, Energy and Environments)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~)
天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	実験技術、データ整理・解析及び報告書作成に必要なスキルを総合的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験結果から問題点を見つけ、その原因究明と解決力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	実験結果と考察をレポートに論理的かつ簡潔にまとめる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実験計画を立て、計画通りに進めていく実行力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	実験データの整理や解析を通じて化学技術者として必要な倫理観を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	チームで実験課題に取り組むことで、チームプレーに必要な力を身につける。
		エネルギー循環化学実習	CHM380M

授業の概要 /Course Description

エネルギー、資源循環等に関連する化学プロセスや物質合成の実験技術、環境保全に関する技術を習得する。

教科書 /Textbooks

下記(1)群のゼオライト触媒による芳香族炭化水素のアルキル化反応
下記(2)群のゼオライト合成とキャラクタリゼーション
下記(3)群の有機リン農薬分析
に関して、別途テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新しい触媒化学(新版) 菊池英一他 三共出版 2800円+税
- 粉末X線解析の実際(第2版) 中井泉、泉富士雄 朝倉書店 2009年 5800円+税
- 機器分析のてびき(第2版)(1)~(3)及びデータ集 化学同人 1996年 各1200円+税 (データ集 1000円+税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実験は大きく以下の3テーマからなり、学生は3グループに分かれて順次3テーマを行う。

(1)群： 固体酸触媒としてゼオライトを用いて、プロピレンをアルキル化剤としたトルエンのイソプロピル化反応を気相法で行う。固定床流通式反応装置を用いた固体触媒の性能評価方法を学び、分析機器や装置の使用法を身につけ、原料転化率や生成物収率を求める。結晶性アルミノケイ酸塩であるゼオライトの固体酸触媒機能について理解を深める。

(2)群： 複数の合成条件でゼオライトを水熱合成し、市販のZSM-5ゼオライトとの比較を行う。Na型を合成後、水素置換を行い、粉末X線回折測定にて構造同定、窒素ガス吸着法にて比表面積ならびに細孔分布測定、フィールドエミッション形走査型電子顕微鏡にて外形観察、誘導結合プラズマ発光分光分析計にて組成定量を行う。得られたデータを総合して性能を推察する。

(3)群： 有機リン系農薬のJIS法に準拠した分析法を学習する。水試料から対象物質の有機リン系農薬6種を固相抽出し、キャピラリーGC-FPDで測定する。実験内容は、検量線作成、添加回収試験および未知試料の分析などである。これらの実験を通して、微量化学物質分析およびGC測定の基礎、および精度管理を身につける。

以上のほか、化学または環境関連の企業や施設の見学を1日実施する。

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作の実施・取り組み態度、およびレポートにより行う。
実験操作の実施・取り組み態度： 60%
レポート： 40%

エネルギー循環化学実習

(Experiments in Chemical Engineering, Energy and Environments)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記(3)群の有機リン系農薬の分析に関しては、3年前期(1学期)の「環境分析化学」と本実験テキストを熟読した上で実験に臨むこと。単に実験テキストに従って操作するだけでは、真の技術が身につかず、応用も利かない。
実験である以上、出席し実験操作を行うことは履修の大前提である。基本的に就職活動等による欠席は認めていないので就職活動を行う学生はスケジュールリングに留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学科としての最後の実験である。これまでの学びの成果を活かして卒業研究につながる適切な実験及び熟考した考察を期待する。

キーワード /Keywords

無機・分析化学演習

(Exercises in Inorganic Chemistry and Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~), 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Tutorial クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	化学に関する理論や基礎知識を化学工業と関連づけて理解する能力を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	化学に関する理論に基づく正確なデータ整理、科学的に正確な解析能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	データや解析結果を論理的な思考・判断によって、問題解決法を生み出す応用力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

無機・分析化学演習

CHM331M

授業の概要 /Course Description

無機化学の演習では、原子中の電子の配置に基づいた物質の特性、ならびに電子の状態に基づいた化学結合論について、基礎的な演習を通して理解を深める。
分析化学の演習では、分析化学の講義で取り扱った酸塩基平衡、錯生成平衡および沈殿生成平衡に関する計算問題を解き、理解を深める。
両分野の演習では、高度な内容の演習も取り扱うことで、基礎的な理解を応用に繋げる能力を段階的に養っていく。

教科書 /Textbooks

『環境分析化学』 合原 真・岩永 達人・氏本 菊次郎・脇田 久伸・吉塚 和治・今任 稔彦(著) 三共出版 2004年 本体2,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『無機・分析化学演習』 竹田 満洲雄・棚瀬 知明・高橋 正・北沢 孝史(著) 東京化学同人 1998年 本体3,800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 原子の構造 【軌道と電子配置】
2. 原子の構造 【電子移動】
3. 分子の構造 【平面構造】
4. 分子の構造 【立体構造】
5. 分子の構造 【エネルギー準位】
6. 配位化学
7. 固体の構造
8. 酸と塩基
9. 前半総括
10. 酸塩基平衡 【弱酸と弱塩基】
11. 酸塩基平衡 【多価の酸塩基】
12. 錯生成平衡 【金属イオンと配位子の錯生成】
13. 錯生成平衡 【条件錯生成定数】
14. 沈殿生成平衡 【溶解度積】
15. 沈殿生成平衡 【条件溶解度積】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験：40%
期末試験：40%
演習問題解答など日頃の講義への取組：20%
※再試験は、「中間・期末試験を受験」かつ「出席が2/3以上」を資格とする。

無機・分析化学演習

(Exercises in Inorganic Chemistry and Analytical Chemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中間試験について： 無機化学分野についてしっかり勉強しておくこと。
期末試験について： 分析化学分野についてしっかり勉強しておくこと。
講義は教科書の他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無機化学と分析化学の基礎理論と応用分野について、各単元の数値計算などの演習問題を解きながら理解を深めてほしい。

キーワード /Keywords

原子構造、化学結合、溶液化学基礎、酸塩基平衡、錯形成平衡、沈殿生成平衡

化学工学演習

(Exercises in Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	工学的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	工学的な知識を使い、工学的な計算技能を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	与えられた課題に対する解決力の向上を行う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			化学工学演習
			CHM364M

授業の概要 /Course Description

これまでに学んできた化学工学の基本的な学問領域について、演習や実習を行うことにより一層理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 事業で使われる化学工学実習 (企業見学)
- 2 々
- 3 々
- 4 々
- 5 々
- 6 々
- 7 化学工学の実際
- 8 粒子の沈降
- 9 円管内の流れ
- 10 充填層の流れと滲過
- 11 気液平衡
- 12 蒸溜
- 13 伝熱の三態
- 14 熱交換器
- 15 総合演習

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の演習 60%
レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学工学演習

(Exercises in Chemical Engineering)

履修上の注意 /Remarks

9月中に企業訪問（1日全日）を行い、その内容をレポートにまとめる課題を課す。

講義中に配付した資料等により演習を行う。2年生までに履修した内容を復習しておくことが望ましい。
演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

電気化学

(Electrochemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~), 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	化学に関する理論や基礎知識を化学工業と関連づけて理解する能力を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	化学に関する理論に基づく正確なデータ整理、科学的に正確な解析能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

電気化学

CHM311M

授業の概要 /Course Description

酸化還元やイオンの移動現象に関連する電気化学反応は、電池やメッキなどの日常生活にも関連が深い。化学分析法としても広く利用されている。この講義では、溶液中の酸化還元反応について学習し、化学分析や電池反応を行う上で重要な電気化学反応の基礎について習得する。また、ポテンシオメトリ、pH電極、イオンセンサなど電気化学分析法や様々な電池、電気化学の応用技術について講義する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学（合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田 共著、三共出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎からわかる電気化学（泉、石川、片倉、青井、長尾 共著、森北出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 電気化学概論
- 2 酸化還元反応 - 電池の構成と起電力・ネルンスト式 -
- 3 酸化還元平衡 - 自由エネルギーと平衡定数 -
- 4 酸化還元反応・電位・平衡の演習
- 5 電気化学分析法 - 原理、種類 -
- 6 電気化学分析法 - 構成、応答特性 -
- 7 電気化学分析法の演習
- 8 前半のまとめ（中間試験）
- 9 電極と電解液界面の構造
- 10 電極反応の速度
- 11 二次電池
- 12 燃料電池1
- 13 燃料電池2
- 14 半導体電極（光電気化学）
- 15 電気化学応用分野の演習

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験：40%、期末試験：40%、演習問題解答：20%。

※再試験は、「中間試験・期末試験受験者」かつ「出席が2/3以上の者」かつ「合格の可能性のある者」を対象者（F評価）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

電気化学

(Electrochemistry)

履修上の注意 /Remarks

中間試験について：酸化還元反応・電位・平衡や電気化学分析法に関する演習問題を含めて、電気化学の基礎と応用について、しっかり勉強しておくこと。

期末試験について：電極反応や二次電池、燃料電池、光電気化学について、しっかり勉強しておくこと。
講義は教科書の他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

河川や廃水中などの環境モニタリングにおいて、特定の無機イオンや有機物を直接分析する場合に用いられるのがポテンシオメトリーやアンペロメトリーなどの電気化学分析法である。また、現在最も注目されている電気化学の応用技術にリチウムイオン二次電池や燃料電池、太陽電池などがある。このような種々の電気化学の基礎となる酸化還元反応・電位の理論から具体的な応用例までをしっかりと理解して欲しい。

キーワード /Keywords

酸化還元反応、酸化還元電位、酸化還元平衡、電気化学分析法、電気二重層、電極反応、二次電池、燃料電池、半導体電極、光触媒、電気めっき

触媒工学

(Catalysis Engineering)

担当者名 /Instructor 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物質変換や化学工業の理解に必要な触媒工学の基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境・エネルギー問題の本質を理解し、問題解決法を生み出すために、触媒工学の知識が適用可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			触媒工学 CHM362M

授業の概要 /Course Description

【概要】

触媒は化学工業において必要不可欠なものです。環境改善やグリーンケミストリーなどにも触媒技術は使用されており、その重要性はますます増大しています。この授業では、固体表面や金属錯体による触媒作用の原理について、触媒化学の基礎を学びます。また、化学原料・化学品の生産プロセスと触媒との関係や、それぞれの反応プロセスにおける触媒の役割について、触媒工学的な知識を身につけます。

【学習目標】

- ・ 触媒作用のメカニズムを理解する。
- ・ 実用触媒の考え方を知り、工業プロセスにおいて触媒に求められる役割を説明できる。
- ・ 代表的な触媒反応プロセスを知り、各プロセスにおける触媒の機能を説明できる。
- ・ 不均一系触媒反応の速度式を導出できる。

教科書 /Textbooks

新しい触媒化学 新版 (菊地英一・多田旭男・服部英・瀬川幸一・射水雄三 著) 三共出版 2,800円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 触媒化学 第2版 (御園生誠・斉藤泰和 著) 丸善出版 3,000円+税
- 触媒化学 (化学マスター講座) (江口浩一 編著) 丸善出版 3,400円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 触媒化学の概要
- 3 分子の活性化
- 4 触媒とプロセス開発
- 5 エネルギーと化学原料製造 1 【石油精製】
- 6 エネルギーと化学原料製造 2 【水素製造】
- 7 エネルギーと化学原料製造 3 【天然ガスの利用】
- 8 不均一系固体触媒反応 1 【水素化、酸化反応】
- 9 不均一系固体触媒反応 2 【酸触媒反応】
- 10 均一系触媒反応 1 【錯体触媒の基礎、オレフィン重合】
- 11 均一系触媒反応 2 【クロスカップリング反応、不斉合成】
- 12 環境関連触媒
- 13 吸着と不均一系触媒反応速度式
- 14 反応速度式の演習
- 15 まとめ

触媒工学

(Catalysis Engineering)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%
問題演習：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書「新しい触媒化学（三共出版）」を購入して持参すること。
熱力学、反応速度論、および有機化学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

触媒に対して興味をもってもらうことを第一に考えて講義を行います。
化学工業における資源の流れや触媒の役割を理解することは、触媒化学分野で研究開発をおこなうために必要です。

キーワード /Keywords

触媒機能、石油化学工業、石油精製、有機工業化学、化学品製造、固体触媒、錯体触媒、環境触媒

エネルギー化学プロセス

(Processes of Energy Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	化学プロセス工学の知識を修得し、産業構造としての「環境」とエネルギー消費量の関係を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	化学変換とエネルギー変換を環境問題の観点から理解し、問題解決する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	資源・環境・エネルギー問題に関心を持ち、生涯学習意欲の足掛かりを得る。
	コミュニケーション力		
		エネルギー化学プロセス	
		CHM363M	

授業の概要 /Course Description

産業構造としての「環境」をエネルギー消費量との関係で理解する。また、化学変換とエネルギー変換は環境問題の一つの解答であるという観点から、工業化学の上での具体的問題を取り上げることで、化学プロセス工学を実用学として演習的に理解させる。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布資料

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 化学プロセスの3因子
3. 化学プロセスの基本コンセプト
4. 物質収支
5. エネルギー収支
6. 石油化学プロセス
7. 水素化分解、接触分解
8. 石炭からの液体燃料を合成するシステム
9. フィッシャー・トロプシュ合成
10. 天然ガス化学プロセス
11. リフォーミング
12. メタノール合成
13. 低級オレフィン、低級パラフィン
14. バイオマスエネルギー
15. 期末演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、小テスト50%
期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

エネルギー化学プロセス

(Processes of Energy Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

授業内容を予測して関係する物質名・反応を調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高分子化学

(Polymer Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高分子化学の基本的な原理、法則に関する正しい知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基本的な原理、法則を組み合わせ、未知の問題を解決するための正しい方法を考案できる能力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

高分子化学

CHM340M

授業の概要 /Course Description

高分子物質は、今日の生活はもとより、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなど、科学の最先端においても必要不可欠な物質である。したがって、高分子化学の基礎を習得することは、将来、化学に関わる研究者、技術者にとって必要不可欠である。本講義では、高分子化合物の生成や反応及び構造など、高分子化学の基礎について講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎高分子科学 高分子学会編 東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 高分子の化学構造
3. ラジカル重合
4. ラジカル共重合
5. イオン重合
6. 重縮合
7. 高分子の反応
8. 分子量と分子量分布
9. 孤立鎖の広がり1 二乗平均末端間距離
10. 孤立鎖の広がり2 回転半径
11. ガウス鎖
12. 高分子溶液の熱力学(格子理論)
13. 浸透圧・蒸気圧・相平衡
14. 高分子固体の構造
15. 高分子の結晶構造、結晶化の動力学

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%
全範囲にわたり出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

高分子化学

(Polymer Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

有機化学、物理化学の基礎を復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地圏環境論

(Geosphere Environment)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球・国土・地域環境に関わる諸課題に対し、身につけた専門知識が適用可能であることを認識する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	知識を生かした行動ができる潜在力の向上を認識することができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	広く環境問題に対して関心を持ち、生涯学習意欲の足掛かりを得る。
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

地圏環境論

ENV331M

授業の概要 /Course Description

地圏は、土と水（地下水）で構成され、動植物生存や人間活動（農産物生産、都市形成など）の基盤となっている。土壌（地圏の特に表層）は水・物質・熱の保持・輸送・浄化機能がある。地圏環境を構成する土壌のこういった物理・化学性に係る基礎を学ぶことを目的として、土壌の性質、水分・化学物質移動などの基礎原理を理解できるように学習する。

教科書 /Textbooks

土壌物理学（宮崎毅ほか著、朝倉書店）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 土と水の性質
- 3 土の保水性
- 4 土中の水分移動 I (ダルシー則、飽和流)
- 5 土中の水分移動 II (不飽和流など)
- 6 土中の溶質移動 I (基本的メカニズム)
- 7 土中の溶質移動 II (拡散、移流、吸着など)
- 8 中間まとめ・演習
- 9 土中の熱移動
- 10 土中のガス移動
- 11 移動現象の基礎方程式 I (飽和・不飽和流)
- 12 移動現象の基礎方程式 II (移流分散、熱移動)
- 13 移動現象の基礎方程式 III (ガス拡散)
- 14 まとめ・演習
- 15 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 40%
(学習態度・演習等)
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地圏環境論

(Geosphere Environment)

履修上の注意 /Remarks

前回の授業内容の復習を行うこと。関数電卓を持参すること。
適宜、演習を実施し、レポートの提出を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境を構成する大気・土・水の中で土壌物理学は、土と水の一部を取り扱う学問です。土壌に係る現象の基礎を学ぶことで、より地圏環境問題を深く理解できるようになるでしょう。

キーワード /Keywords

水処理工学

(Water Treatment Engineering)

担当者名 /Instructor 石川 精一 / Seichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	得られたデータや解析結果を基に、現状を把握しながら、論理的な思考・判断によって、環境に関する問題解決能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地球規模で抱えている環境・エネルギー問題を解決する意欲と行動力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球規模で抱えている環境・エネルギー問題に関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

水処理工学

ENV330M

授業の概要 /Course Description

水環境の保全と水資源を有効に活用するため、既存の上水道・下水道処理技術や食品廃水、金属廃水を始めとする各種産業廃水処理技術、それに付随する污泥処理技術、最新の高度水処理技術及び水質測定技術等について、それを構成している基礎的な技術について学習する。

思考・判断・表現・水処理等における課題を発見し、分析して解決する力を養う。
関心・意欲・態度・水処理等に関心や意欲を持ち、実践力・生涯学習力を養う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概論
- 2 沈降分離
- 3 凝集分離
- 4 浮上分離
- 5 污泥脱水
- 6 活性汚泥法
- 7 散水ろ床法
- 8 嫌気性消化法
- 9 活性炭吸着
- 10 イオン交換
- 11 電気透析法
- 12 逆浸透法
- 13 膜処理
- 14 光化学反応
- 15 塩素処理

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40%
小テスト・・・30%
日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

水処理工学

(Water Treatment Engineering)

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数式がかなり出るが、主に、水処理関係操作の基礎的知識及び技術を学ぶものである。

キーワード /Keywords

固液分離 生物処理 物理化学的処理 化学処理

生物化学

(Biochemistry)

担当者名 /Instructor 沼野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	エネルギー代謝など生命科学の基礎としての生物化学の考え方を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	酵素反応速度論、代謝制御を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	タンパク質の構造と機能、代謝経路、情報伝達経路についての課題を通じて自主的に学習することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生物化学

BIO220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、「基礎生物化学」で学んだ内容を下地に、生体内で起きるエネルギー代謝など化学反応についての詳細を学び、生物化学からみた生命像の理解を目指す。具体的には、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、光合成など代謝とエネルギー生産の基礎、生体分子の合成と分解など物質代謝の基礎、遺伝子の発現と複製など、機能面から生物化学に関する知見を深める。また、物質輸送、細胞内情報伝達、遺伝子発現制御による代謝制御の仕組みについても学び、動的な生命現象の理解を目指す。特に後半に重点を置くのが、代謝制御や光合成を理解するために重要な、ミカエリス・メンテンの式およびそれを基礎とした酵素や光合成の反応速度論である。酵素反応の阻害様式の決定や数値やグラフの扱いについても習熟する必要がある。

教科書 /Textbooks

田宮信雄他訳「ヴォート基礎生化学」第3版、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Albertsら著、中村・松原監訳「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス
福岡伸一監訳「マッキー生化学」第4版、化学同人
生化学辞典第4版、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN 「生物化学とは」、「生命の誕生と生化学」、「生化学反応の場としての細胞とオルガネラ」
- 2 代謝とエネルギー(1) 解糖系と糖新生
- 3 代謝とエネルギー(2) TCA回路
- 4 代謝とエネルギー(3) 電子伝達系とATP収支
- 5 代謝とエネルギー(4) 光合成(前半) 【明反応、電子伝達系】
- 6 生体分子の合成と分解
- 7 生体膜と物質輸送、細胞内情報伝達を担う分子たち
- 8 前半の復習、確認試験
- 9 代謝の量的制御と質的制御(1) 【酵素反応速度論】
- 10 代謝とエネルギー(5) 光合成(後半) 【暗反応、炭素固定、光合成速度】
- 11 代謝の量的制御と質的制御(3) 遺伝情報と遺伝子
- 12 代謝の量的制御と質的制御(4) 遺伝子の発現と複製 【核酸の構造、DNAの複製、修復、組換え】
- 13 代謝の量的制御と質的制御(5) 遺伝子の発現と複製 【転写、RNAプロセッシング、翻訳】
- 14 遺伝子発現制御と代謝制御
- 15 まとめと後半の復習

生物化学

(Biochemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題、レポート 20% 適宜指示する (2 回程度)
 確認試験 40% 第 1 回 ~ 7 回の範囲から出題
 期末試験 40% 主に第 9 回以降の範囲から出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書の「IV代謝」と「V遺伝子の発現と複製」の範囲を読んで十分な予習をすること。また、配布物およびワークシートに従って予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1 年次の「基礎生物化学」の内容をよく復習して講義に臨んでください。前半には、代謝経路などいわゆる「記憶」すべき内容が多く有ります。日々の予習復習において、各経路における物質変化の様子を書き表せるようになるまで繰り返し、繰り返し、自らペンと紙を使って学習してください。後半にミカエリス・メンテンの式やラインウィーバーバークプロット法など反応速度の理解や、酵素反応の阻害や活性化についての理解を深めるための手法を学びます。成績評価には含めませんが、学習進度の高い学生は、さらにヒルの式など生化学反応の動的理解に有用な数値解析の手法についても学習することが望まれます。エクセルなどを使えば、自宅の PC で反応シミュレーションの自習も可能です。

キーワード /Keywords

統計熱力学

(Thermodynamics and Statistical Mechanics)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	熱力学の復習と、統計力学の基礎的な考え方（特にボルツマン分布とその応用）について学ぶ。
技能	専門分野のスキル	●	統計力学的な思考方法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計熱力学

CHM212M

授業の概要 /Course Description

統計熱力学について学ぶ。熱力学の知識の上にたち、統計熱力学は、多数の原子・分子から構成されている物質の特性を微視的状態の集合として捕らえる考え方の基礎について学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学系の統計力学入門 Benjamin Widomt著 甲賀研一郎訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 熱力学の復習 (1) 【第 1 法則】
- 2 熱力学の復習 (2) 【第 2 法則】
- 3 熱力学の復習 (3) 【熱力学関数】
- 4 熱力学の演習
- 5 ボルツマン分布則と分配関数 (1) 【ボルツマン分布】
- 6 ボルツマン分布則と分配関数 (2) 【分配関数、期待値】
- 7 分配関数の応用
- 8 理想気体の統計熱力学 (1) 【内部エネルギー】
- 9 理想気体の統計熱力学 (2) 【2 原子分子】
- 10 演習 (講義第 1 回 ~ 第 9 回)
- 11 分配関数と平衡定数
- 12 高分子鎖の統計力学
- 13 演習 (講義第 11 回 ~ 第 12 回)
- 14 演習 (全体)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 4 0 % (追試あり)、期末試験 6 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をしっかりと行うこと。
講義は板書と配布資料で行う。

統計熱力学

(Thermodynamics and Statistical Mechanics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

熱力学の分子論的根拠を与える重要な分野であり、ボルツマン統計をしっかりと学んで欲しい。

キーワード /Keywords

分子生物学

(Molecular Biology)

担当者名 /Instructor 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	特にDNAの複製と転写を中心に、分子生物学に関する基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	遺伝子を中心とした生命の基本戦略を理解・分析する能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

分子生物学

BI0221M

授業の概要 /Course Description

分子生物学は現代の生命科学の基礎となる学問である。特に本講義では、DNAの複製、RNAへの転写、タンパク質への翻訳といった内容を中心に講義をする。

教科書 /Textbooks

【教科書】

・アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学 サダヴァ 他著 講談社ブルーバックス

【問題集】

・生化学・分子生物学演習 第2版 猪飼・野島 著 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

分子生物学 第2版 柳田・西田・野田 編 東京化学同人

細胞の分子生物学 第5版 Alberts 他 著 ニュートンプレス (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 分子生物学概論
- 2 . DNAの構造
- 3 . RNAの構造
- 4 . クロマチン構造
- 5 . DNAの複製
- 6 . DNAの変異と修復
- 7 . DNAの組換え
- 8 . 転写
- 9 . RNAの加工
- 10 . 翻訳
- 11 . タンパク質のフォールディング
- 12 . 転写調節
- 13 . エピジェネティクス
- 14 . 細胞生物学I
- 15 . 細胞生物学II

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加・課題 40%

試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分子生物学

(Molecular Biology)

履修上の注意 /Remarks

生物学および生化学の内容を前提としているため、授業の前に十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分子生物学は20世紀における最大の科学革命であり、さらに今もなお新しい発見が行われている分野です。
是非、生命が作り出した素晴らしい分子機構を感じて下さい。

キーワード /Keywords

錯体化学

(Coordination Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	錯体化学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	無機化学の基礎を理解し、有機化合物と金属の反応性、構造、機能について専門知識を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

錯体化学

CHM233M

授業の概要 /Course Description

錯体化学は、無機化学、有機化学、物理化学の3つの領域が融合した基礎学問です。

環境生命工学科の学生は、2年次、3年次で生化学や遺伝子工学を学習します。ここでは、生命現象をDNAやタンパク分子の化学変化として捉えます。錯体化学はこれを理解するために重要な基礎知識です。

またエネルギー循環化学科の学生は、分析化学の原理や触媒化学の作用機構を理解するための基礎知識として重要です。

この基礎学問を修得できると、3年生の環境分析実習や環境生命工学実習の原理を理解できるようになります。また皆さんが将来、触媒や高分子材料、化粧品や食品、医薬品等の機能性材料を開発する際に必ず必要な知識です。

本講義は、前半は無機化学の基礎を指定教科書を用いて復習します。ここでは金属イオンと有機物からなる錯体分子の基礎事項（電子配置、化学構造、物性）について、演習を行いながら講義を進めます。

後半は、錯体が生体材料や機能性材料、化粧品に利用されている事例を通じて、光や色、発光などの物理現象に関わる基礎理論（結晶場理論）について理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

化学教科書シリーズ 第2版 無機化学概論 (小倉興太郎 著、丸善出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-

錯体化学

(Coordination Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義の説明、履修のポイント
- 2 初級編① 金属元素の軌道
- 3 初級編② 電子配置の法則① (Pauliの排他原理)
- 4 初級編③ 電子配置の法則② (Hundの法則)
- 5 初級編④ d軌道の電子配置
- 6 初級編⑤ d軌道の混成軌道
- 7 演習1 (基礎編①～⑤の理解度確認)
- 8 中級編① エネルギー準位の考え方
- 9 中級編② 錯体の形成と物性
- 10 中級編③ 配位結合
- 11 演習2 (応用編①～③の理解度確認)
- 12 上級編① 結晶場理論
- 13 上級編② 錯体の色や発光 (化粧品開発の事例)
- 14 演習3 (錯体化学の応用④⑤の理解度確認)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価項目：配点：比率
 平常点(10点満点)：1点×10回：10%
 演習点(40点満点)：第1回20点+2回10点+3回10点：40%
 期末試験(50点満点)：50点：50%
 ※比率の合計は100%

※注 レポート、追試等の措置は行わないので、講義に毎回出席し、演習を必ず受けること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①講義中の画像撮影は認めない
- ②演習時は、各自の教科書、ノートの持ち込みのみ可とする(コピーの持ち込み、携帯端末等使用および保存画像情報の使用は不可)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では1年生までに学習した無機化学の基礎について、繰り返し、丁寧に解説し、演習で理解の確認をします。皆さんが今後、卒論や修論を通じて生物や化学の専門分野に入る前に、基礎事項をしっかり身につけてくれることを期待しています。本学大学院試の選択問題に錯体化学を毎年出題します。環境生命工学科では選択科目ですが、大学院進学を予定している学生は特に受講を薦めます。

キーワード /Keywords

環境政策概論

(Introduction to Environmental Policy and Administration)

担当者名 岡山 俊直 / Toshinao OKAYAMA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	環境政策で必要とされる基礎知識を文献や情報調査により収集・解析し、環境政策の要点を抽出する技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	環境政策分野における国際的な視野をもって広く社会に貢献することができる。
	社会的責任・倫理観	●	環境政策が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけ、他者と協力しながら行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策概論

ENV220M

授業の概要 /Course Description

環境政策および法制度では、新しい政策課題に対応する形で、さまざまな原則が提案され、新しい制度が導入されつつある。本科目では日本の基本的な環境政策の動向、問題の状況、法的な枠組み、さらには国際的な動向について概説する。具体的な分野としては、温暖化、廃棄物、化学物質などを中心とする。関連する新聞記事の解説も行い、報道内容が的確に理解できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定はしない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

倉坂秀史「環境政策論」(信山社,2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本の法制度の枠組み
- 第3回 わが国の公害、環境政策の変遷(その1:黎明期)
- 第4回 わが国の公害、環境政策の変遷(その2:公害対策基本法)
- 第5回 わが国の公害、環境政策の変遷(その3:環境庁の政策)
- 第6回 わが国の公害、環境政策の変遷(その4:環境問題の変容)
- 第7回 わが国の公害、環境政策の変遷(その5:環境基本法)
- 第8回 地球温暖化(その1:現象とメカニズム)
- 第9回 地球温暖化(その2:国際協調)
- 第10回 地球温暖化(その3:COPと議定書)
- 第11回 地球温暖化(その4:IPCC報告書)
- 第12回 循環型社会とリサイクル
- 第13回 リサイクル法
- 第14回 化学物質管理政策
- 第15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加及び宿題 40%
試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

環境政策概論

(Introduction to Environmental Policy and Administration)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境関連の時事問題に関心を持ち、問題の核心を理解し、今必要な政策は何かを考える学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

有機化学 II

(Organic Chemistry II)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	芳香族の有機化学、カルボニル基等の官能基の有機化学を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	有機化学と合成化学に関する基礎を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

有機化学 II

CHM222M

授業の概要 /Course Description

化学の最も重要な基礎学問の一つである有機化学を発展的に理解し、官能基の化学反応に関して、反復演習によって理解力を積み上げる。随時、有機化学の応用分野である、生物学や医学、工学での実例を紹介する。

教科書 /Textbooks

ボルハルト・シヨアー現代有機化学（下）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ベンゼン環と芳香族求電子置換反応
- 2 ベンゼン環の置換基の位置選択性
- 3 芳香族の化学の演習
- 4 アルデヒドとケトン（1）【カルボニル基の反応性】
- 5 アルデヒドとケトン（2）【求核反応】
- 6 エノラートとアルドール縮合（1）【アルドール縮合】
- 7 エノラートとアルドール縮合（2）【保護基】
- 8 カルボン酸の化学（1）【マイケル付加】
- 9 カルボン酸の化学（2）【ロビンソンの環化反応】
- 10 アミンの化学（1）【アミノ基】
- 11 アミノの化学（2）【ホフマン分解】
- 12 Claisen縮合とエノラート（1）【Claisen縮合】
- 13 Claisen縮合とエノラート（2）【マロン酸エステル】
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%（追試あり）、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりすること

有機化学 II

(Organic Chemistry II)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学は化学の最も重要な基礎学問の一つである。化学系の専門分野での仕事には不可欠な学問分野であることを十分に自覚して講義にのぞむこと。

キーワード /Keywords

環境計画学

(Environmental Planning)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現状を把握するための環境評価手法、改善の効果推計手法等に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実社会の問題を題材に各種環境評価手法を学ぶことで、実践力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	実社会に出ても継続的に最先端の評価手法にアクセスできるよう、その基礎を修得する。
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

環境計画学

ENV320M

授業の概要 /Course Description

環境計画を考える上で、必要となる意志決定ツールを中心に修得する。まず、都市や国土を規定している都市計画、国土計画の諸制度の成り立ちとその実際について学ぶ。次いで、投資判定分析、費用便益分析、多目的意志決定手法などについて学ぶ。さらに、従来経済価値を認めてこなかった環境資源の扱いも重要な課題であり、そのための環境の経済評価手法について、その基本的な概念と手法を修得する。また、合意形成プロセスのための手法と実際についても講究する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中勝 編著「循環型社会評価手法の基礎知識」技報堂出版
その他、講義中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境計画をめぐる諸状況
- 2 持続可能性評価指標
- 3 物質フロー分析【基礎的概念】
- 4 物質フロー分析【応用】
- 5 ライフサイクルアセスメント【基礎的概念】
- 6 ライフサイクルアセスメント【応用】
- 7 演習
- 8 費用便益分析【基礎的概念】
- 9 費用便益分析【応用】
- 10 リスクアセスメント・リスク便益分析
- 11 環境経済評価手法【基礎的概念】
- 12 環境経済評価手法【応用】
- 13 演習
- 14 多目的意志決定手法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への積極的参加） 10% ※2/3以上出席すること
レポート 30%
期末試験 60%

環境計画学

(Environmental Planning)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、関数電卓、PC (Excel) を使用することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済縮小・人口縮小時代が到来し、社会資本ストックの更新期を迎える中で、持続可能型社会の形成という21世紀の課題に答えるべく、「社会をどのように再構築するか」「開発か環境資源を保護すべきか」といった問題に取り組むためのツールを学びます。

キーワード /Keywords

微生物学

(Microbiology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 微生物の分類、細胞の構造や形態形成の基礎、生育条件や生理などについて修得する。
技能	専門分野のスキル	● 微生物の基本的な性質を理解することで、バイオテクノロジー分野において課題を実用化に結び付け、微生物工業の諸問題を解決するスキルを養う。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 微生物をどのような形で活用していけば、私たちの暮らしや健康を支えることができるのか理解を深める。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

微生物学

BI0310M

授業の概要 /Course Description

土壌、河川、海、空気中など地球上の至るところに微生物は存在しており、その微生物の種類は約20万種ともいわれている。微生物は多種多様な物質を栄養源として生育していることから、通常では高等動植物が存在できない極限環境にも幅広く生息している。本講義では、微生物の種類と基本的な性質について解説する。更に微生物は様々な工業分野で広く利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものであることを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ブラック微生物学 (丸善株式会社)、林英生、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実監訳、1993年、7900円
- バイオのための基礎微生物学 (講談社サイエンティフィク)、扇元敬司著、2002年、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 微生物の拮抗作用と共存作用
2. 微生物の分類と命名
3. 細菌の構造と生活環
4. アーキア (古細菌)
5. 食中毒の分類と微生物
6. 様々な食中毒細菌I【感染型食中毒】
7. 様々な食中毒細菌II【毒素型食中毒】
8. 前半の復習、確認試験
9. ウイルス・寄生虫
10. カビの分類と生活環I【子の菌群、担子菌群】
11. カビの分類と生活環II【不完全菌群、接合菌群】
12. 微生物の制御 (殺菌と静菌)
13. 酵母の分類と生活環
14. 放線菌の分類と機能
15. 微生物の利用

成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験 (60%)
- 確認試験 (25%)
- 授業態度・課題 (15%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

微生物学

(Microbiology)

履修上の注意 /Remarks

授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義において微生物に関する理解を深め、私たちの暮らしに微生物は欠かせないものであることを認識してほしい。そしてこのような微生物をどのような形で活用していけば、私たちの生活に役立つか考えてほしい。

キーワード /Keywords

細菌、カビ、酵母、食品衛生、発酵

生態工学

(Ecological Engineering)

担当者名 上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生態工学に関する基礎・応用知識を修得し、環境問題との関連性を総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	自然科学に関する情報を収集・解析し、総合的に理解し、生態系や環境、社会に配慮しながら技術開発を進める技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然に対する人間活動の影響を理解し、問題解決のために生態系のもつ仕組みを活用する技術を提案できるようになる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

生態工学

BI0311M

授業の概要 /Course Description

本講義では、生物学・生態学的な見地から、自然生態系の仕組みや機能を紹介する。自然生態系の保全や修復のための生態系の基本的知識に加え、生態系機能の強化手法および破壊された生態系の修復手法などの応用的内容について概説し、自然生態系の基本とその応用について論理的に理解できるようにする。また、自分の言葉でそれを説明できるようにする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境修復のための生態工学（講談社）2002年
河川・沿岸域の生態学とエコテクノロジー（東海大学出版会）1996年
エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化（ソフトサイエンス社）2003年
海洋科学入門（恒星社厚生閣）2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 はじめに
- 2 ビオトープによる環境修復(基礎)
- 3 ビオトープによる環境修復(応用)
- 4 湖沼生態系の保全と管理(基礎)
- 5 湖沼生態系の保全と管理(応用)
- 6 河川生態系の保全と管理(基礎)
- 7 河川生態系の保全と管理(応用)
- 8 前半のまとめ、確認テスト
- 9 干潟生態系の保全と管理(基礎)
- 10 干潟生態系の保全と管理(応用)
- 11 沿岸海洋生態系の保全と管理(基礎)
- 12 沿岸海洋生態系の保全と管理(応用)
- 13 エコテクノロジーの応用(バイオマニピュレーション、植生浄化)
- 14 エコテクノロジーの応用(沿岸海洋の環境修復事例)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 30%
期末テスト 50%
日常の授業への取り組み 20%

生態工学

(Ecological Engineering)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生態学（1年次2学期開講）が基礎となっている講義科目であるので、事前に生態学を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生態工学は人類と自然との共生を可能にする技術であり、21世紀に発展が期待されている工学です。

キーワード /Keywords

自然生態系 環境修復 指標生物 バイオマニピュレーション

生物工学

(Biological Engineering)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生物工学に関する専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	生物工学に必要な技能を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生物工学分野において、問題の発見やその解決策を導き出す能力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

生物工学

BI0330M

授業の概要 /Course Description

酵素、微生物、動植物細胞などを産業利用する場合、原料調製、反応、分離といった一連のプロセスを考えることが重要である。本講義では、生体触媒の特性や調製に関わるアップストリームプロセス、バイオリクター操作などのプロダクションプロセス、バイオセパレーションなどのダウンストリームプロセスを学び、バイオプロダクトの生産について理解する。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入（生物工学とは）
- 2 バイオプロセスの構成
- 3 生体触媒の特徴
- 4 酵素反応速度論 1【反応条件】
- 5 酵素反応速度論 2【速度論】
- 6 細胞反応速度論 1【反応条件】
- 7 細胞反応速度論 2【速度論】
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 培養操作
- 10 バイオリクター
- 11 酸素供給
- 12 スケールアップ
- 13 バイオセパレーション 1【破碎・遠心・抽出】
- 14 バイオセパレーション 2【膜分離・クロマトグラフィー】
- 15 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を行うこと。

生物工学

(Biological Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物を利用する産業において、バイオプロセスを理解できる（理解している）ことこそが工学系出身の強みといえます。

キーワード /Keywords

遺伝子工学

(Genetic Engineering)

担当者名 /Instructor 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	遺伝子工学に関する専門知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	遺伝子工学を実現する技術を理解し、身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	遺伝子工学を利用して、様々な社会的課題の解決方法を提案できるようにする。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

遺伝子工学

BI0320M

授業の概要 /Course Description

過去半世紀にわたって築き上げられた分子生物学は、それを基本とした遺伝子工学の発展により社会に貢献している。本講義を通じて遺伝子工学の基本を学び、それを利用、さらには応用する力を養う。

教科書 /Textbooks

- 【教科書】
 ・アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学 サダヴァ ほか著 講談社ブルーバックス
 【問題集】
 ・生化学・分子生物学演習 第2版 猪飼・野島 著 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・遺伝子工学 - 基礎から応用まで - 野島 著 東京化学同人 (○)
 ・細胞の分子生物学 第5版 Alberts 他 著 ニュートンプレス (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 遺伝子工学概論
 第 2 回 分子生物学復習 - 複製
 第 3 回 分子生物学復習 - 転写
 第 4 回 分子生物学復習 - 翻訳
 第 5 回 遺伝子組換え - プラスミド・制限酵素
 第 6 回 遺伝子組換え - クローニング
 第 7 回 遺伝子組換え - 遺伝子発現
 第 8 回 遺伝子解析手法
 第 9 回 ES細胞・iPS細胞
 第 10 回 エピジェネティクス
 第 11 回 RNA
 第 12 回 遺伝子組換え作物
 第 13 回 遺伝子工学演習
 第 14 回 遺伝子工学実習I プラスミドの酵素処理
 第 15 回 遺伝子工学実習II 遺伝子組換え生物観察

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加・課題 40%
 試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

遺伝子工学

(Genetic Engineering)

履修上の注意 /Remarks

生物学・生化学・分子生物学の知識が基礎となります。これらを履修しなおかつ理解していることが前提です。
授業で配布する資料と演習書を利用して復習することが不可欠です。
座学だけで遺伝子工学を理解することは難しいため、簡単な演習や実習も行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分から積極的に学ぼうとする姿勢が最も大切です。是非この授業で遺伝子工学を学び、今後の研究に利用して下さい。

キーワード /Keywords

環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

担当者名 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境に関わる計算機シミュレーションの専門知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	環境シミュレーションを実現する数理及び情報技術を理解し、身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境シミュレーションを利用して、様々な自然及び社会現象を解析し、課題の解決方法を提案できるようにする。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

環境シミュレーション	ENV310M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

Excelのマクロプログラム (VBA) を使って、複雑と思われた自然現象や社会的事象が実は簡単な法則や規則の積み上げで起こることを理解する。身の回りにある様々な形 (人工物や自然界にある不規則な形) や人間の記憶がコンピュータの中でどう表現するのかを学び、それらを動かす基本的な法則やアルゴリズムを学習する。その際、フラクタルやモンテカルロ法などの確率論的な手法も重視する。自らプログラムを実行して考察するプログラム教材を毎回用意しており、宿題演習することでシミュレーションの面白さを実感できる。

教科書 /Textbooks

講義資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ハーベイ・ゴールド「計算物理学入門」および他の参考書は講義中に指示する。
授業中の演習や宿題に不可欠な部分は講義資料に含まれている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概要：計算機シミュレーションの歴史、差分法 (オイラー法)
- 2 差分法の簡単な例：コーヒーの冷却、差分法の誤差
- 3 粒子の運動 (2体問題、3体問題)：落下運動、惑星の運動
- 4 高精度差分法：高精度時間積分、価電子の運動
- 5 多粒子系の動力学：気体・個体の分子運動、相変態 (融解)
- 6 幾何学的物体の表現法：メッシュ分割、立体の可視化
- 7 不定形物の表現法：画像、フーリエ変換、電子波動関数
- 8 非線形現象：カオス、ロジスティック曲線
- 9 中間試験
- 10 確率的現象：ランダムウォーク、拡散
- 11 モンテカルロ法：サイコロ積分、最適化問題、光線の屈折
- 12 フラクタル：自己相似性、フラクタル次元、DLAクラスター
- 13 学習モデル：エキスパートシステム、神経回路網
- 14 複雑性：臨界現象、人工生命
- 15 全く異なる計算モデル：生態系、銀河系 ~まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の宿題及び授業内演習 40%
中間試験 30%
期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

履修上の注意 /Remarks

本授業の宿題はExcelおよびExcelマクロ (Visual Basic) を用いる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの中に身の回りの自然現象や人間の社会システムを再現する基本的なモデルをゲーム感覚で学んでください。これにより、コンピュータによる思考実験の結果を価値判断できるセンス (何が使える情報で、何が使えないのか) を養ってほしい。

キーワード /Keywords

環境リスク学

(Environmental Risk Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	化学物質等に関する環境リスクを評価し、管理し、関係者とのコミュニケーションを行うための専門知識・技能を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	環境リスクに関する知識を正しく理解し、企業や行政の立場だけでなく市民の立場からもリスク管理を適切に行えるようになる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	常に更新される化学物質等に関する有害情報や管理方法に関心を持ち、自らアプローチするようになる。

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

環境リスク学

ENW321M

授業の概要 /Course Description

有害化学物質や重金属などの環境汚染物質のリスクを正しく評価・理解して適切に選択・行動できるだけでなく、情報を正確に伝える技術が必要である。日常行動に伴うリスク、化学物質のリスクなどを例にとり、リスクの大きさに基づいて行動する重要性を認識する。さらに、人の健康リスクを評価するための有害性評価、暴露評価、リスク評価の手法について学び、化学物質管理やリスクコミュニケーションの事例を通して学習する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉田喜久雄・中西準子「環境リスク解析入門[化学物質編]」東京図書、2800円
矢野昌彦「リスクマネジメント・システム」大阪大学出版会、東海明宏・岸本充生・蒲生昌志「環境リスク評価論」大阪大学出版会、中西準子他「演習環境リスクを計算する」岩波書店、ほか講義中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境リスクと化学物質のリスク
- 2 リスクアセスメント
- 3 リスクアセスメントの事例
- 4 化学物質のリスクアセスメントとデータ
- 5 化学物質の有害性確認と用量反応関係
- 6 化学物質の暴露解析
- 7 リスク判定
- 8 生態リスク解析
- 9 化学物質のリスク計算1 (演習)
- 10 化学物質のリスク計算2 (演習)
- 11 リスクマネジメント
- 12 リスクコミュニケーション
- 13 リスクアセスメントのためのシステム
- 14 社会経済分析・費用効果分析
- 15 環境リスクと企業活動、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
小テスト・レポート 20% (上記5~10の授業では、1回前の授業内容に関するミニテストを実施する。)
期末試験 60%

環境リスク学

(Environmental Risk Management)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

説明が分からなかったところはそのままにせずに、教員への質問や復習をすること。
日常生活の中で環境リスクに関する事項に関心を持つこと。例えば、ニュースや新聞記事に日頃から注意する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学物質を扱う企業だけでなく、一般環境や日常生活の中にも環境リスクは存在する。国際社会・地域社会における環境リスクの評価や管理の方法を学びたいという学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

化学物質 リスクアセスメント リスクマネジメント リスクコミュニケーション

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本の表層文化のみならず、その根柢に潜在する深層文化をも理解し、日本社会において自信を持って生活することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も良識ある社会人として日本社会に参画できるよう、日本文化に関する深い知識の探求を継続することができる。
	コミュニケーション力	●	日本人と相互に理解し合えるように、日本人の考え方を知り、異文化において自分を活かせるコミュニケーション方法を習得する。
			日本事情
			JPS100F

授業の概要 /Course Description

この授業では、外国人学生が日本に関する知識を学ぶだけでなく、深層文化である日本人の考え方、観念などに関しても考え、主体的に日本の文化・社会に参加し、かつ日本風に主張もできる能力を身に付けることを目指す。現代日本の文化・社会に関するテーマについて討論し理解を深め、異文化間コミュニケーションが円滑に行なえるようにする。授業の中で、日本人学生や地域の人々を招き興味あるテーマに関して討論会なども行い、日本人との交流を通して学ぶ。

教科書 /Textbooks

『文化の壁なんてこわくない』,水本光美・池田隆介,北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室,2011.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ホームページの教材 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション&クラスのルールについて
- 時間の感覚 1: 適切な時間とは
- 時間の感覚 2: 「ちょっと」ってどのくらい?
- 病気・ケガ対処法: 健康保険は払えば得する
- 事故の対処法: 交通規則を知っている?
- お礼・お詫び: 日本人は2度言う
- 不正行為 1: たった1回が命取り
- 不正行為 2: レポートなのに不正行為?
- お願い: 保証人が必要だけど
- 期末プレゼンテーションの計画
- 日本人とのつきあい 1: 本音と建て前
- ゲスト大会: 日本人と話し合って日本を知ろう! (ゲスト講師講演とディスカッション)
- ゲスト大会: 日本人と話し合って日本を知ろう! (スピーチとディスカッション)
- お金の感覚: たかが100円、されど100円
- プロジェクトワーク(日本事情スキット大会)の準備

※予定は状況によって変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加（討論含む）20%
宿題&課題 30%（作文・発表準備を含む）
小テスト 30%
期末プレゼンテーション 20%

※ 出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 視聴覚教材は「留学生のホームページ」 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/> 参照。
2. 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の日本に関する様々な知識を学びながら日本人、日本文化をより深く理解しましょう。異文化の中にありながら自分らしさを失わずに上手に異文化コミュニケーションをする方法を身につけ、今後の留学生活を楽しく有意義なものにしましょう。

キーワード /Keywords

表層文化, 深層文化, 考え方, 異文化間コミュニケーション, キャンパス生活適応, 地域社会への主体的参加

総合日本語 A

(Integrated Advanced Japanese A)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	必要な情報を適切な手法で収集し、正確に理解するための日本語能力を身につける。
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、様々な状況で応用可能なアカデミック・ジャパニーズ能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	留学生が大学生活に適應するために必要な日本語能力を総合的に身につける。
		総合日本語 A	JSL100F

授業の概要 /Course Description

一般的な日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、話す聴く読む書くの4技能を上級の中レベル以上に発達させることが、大学生活を円滑に送るために必須の日本語能力である。この授業では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、長文をできるだけ短時間で、かつ、正確に理解する訓練を繰り返し行い、また、単語・文の羅列ではなく、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールできるレベルの作文能力を身に着けることを目指す。

教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語A』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室日本語教育プログラム）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

総合日本語A

(Integrated Advanced Japanese A)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 論理的な文章の書き方 1 書き言葉
 2. 論理的な文章の書き方 2 「は」と「が」の区別
 3. 論理的な文種の書き方 3 文の名詞化
 4. メールのマナー (ActiveMailの使い方)
 5. 日本語ワープロの基本 (Wordの使い方)
 6. プレゼンテーション用のソフトウェア (PowerPointの注意点)
 7. 発表 1: ミニ発表会プロジェクトの説明
 8. 発表 2: 新聞を読む
 9. 発表 3: 資料の収集
 10. 発表 4: 事実と意見
 11. 発表 5: 発表でよく使う表現
 12. 発表 6: 新聞音読テスト / 資料の正確な理解のために必要なこと
 13. 発表 7: PowerPointの注意点
 14. 発表 8: 司会・進行
 15. 発表 9: ミニ発表会
 16. 中間試験
 17. 読解ユニット 1 「環境と経済」(1)読む前に
 18. 読解ユニット 1 「環境と経済」(2)文法・重要表現
 19. 読解ユニット 1 「環境と経済」(3)精読: 自然破壊をともなう経済発展
 20. 読解ユニット 1 「環境と経済」(4)精読: リービッチの循環論、理解チェック
 21. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(1)読む前に
 22. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(2)文法・重要表現
 23. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(3)精読: バイオマスエネルギーとは
 24. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(4)精読: 各国のバイオマス事情、理解チェック
 25. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(1)読む前に
 26. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(2)文法・重要表現
 27. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(3)精読: 人間関係と敬語・場面と敬語他
 28. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(4)精読: 敬語の正誤他、理解チェック
 29. プロジェクトワークのための質疑応答
 30. 口頭能力測定 (会話試験)
- ※実際の授業においては、発表のための課題、読解のための課題が適度なバランスになるように順序を調整する。授業中の連絡に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文・発表 10%
口頭試験 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
プレイスメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語基礎」に合格した学生のみを対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な表現も、論理的な表現も、繰り返し使用するほどに運用の力は向上していく。この授業は論理的な日本語表現の基礎になる部分を学ぶ貴重な機会となるので、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

上級日本語、書き言葉、アカデミックジャパニーズ、環境工学系読解教材、プレゼンテーション

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	得られた情報を適切な手法を用いて誤解なく他者に伝達するための日本語能力を身につける。
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	やや複雑で困難な課題にも対処し得るだけのアカデミック・ジャパニーズ能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	留学生が大学生活を円滑に進めるために必要な日本語能力を総合的に身につける。
		総合日本語B	JSL110F

授業の概要 /Course Description

「総合日本語B」では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、複雑な状況、緊張感を伴う場面においても、最低限のタスクを遂行できる会話能力を養成し、また、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールしながら運用する訓練を繰り返し行っていく。この授業を通じて、日本語を使って積極的に情報発信を行い得る能力と、積極的に問題提起を行える態度を養成することで、日本語を「運用」できる範囲を広げていくことが、受講生の主な目的となる。

教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語B』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 授業のルール
 2. 作文1: 「留学生スピーチコンテスト」とは
 3. 作文2: 作文の構成1 段落
 4. 作文3: 作文の構成2 起承転結
 5. 作文4: 文の首尾一貫性
 6. 作文5: 引用
 7. 作文6: 作文からプレゼンテーションへ
 8. 上級聴解1: ディクテーション / 不正確な発話を理解する
 9. 上級聴解2: 話し言葉から書き言葉へ、書き言葉から話し言葉へ
 10. プレゼン1: 「作文プレゼンテーション」について
 11. プレゼン2: 「読んで理解すること」と「聞いて理解すること」の違い
 12. プレゼン3: 聞き手への配慮 / 聞き手の集中力を考えた構成
 13. プレゼン4: 分かりやすいプレゼンのために1 / 「総論」を考える
 14. プレゼン5: 分かりやすいプレゼンのために2 / 視覚効果を利用する
 15. プレゼン6: 積極的な質疑応答
 16. 作文プレゼンテーション大会
 17. 中間試験
 18. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(1)文法・重要表現
 19. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(2)VTRを見ながら内容を理解する
 20. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(3)精読(レジюме作りと発表): 原助教授と納豆との出会い 他
 21. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(4)精読(レジюме作りと発表): 砂漠緑化への第一歩 他、理解チェック
 22. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(1)文法・重要表現
 23. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(2)第1節 精読(レジюме作りと発表): 持続可能なエネルギーはない
 24. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(3)第2節 精読(レジюме作りと発表): 石炭と石油が自然環境を救った
 25. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(4)第3節 精読(レジюме作りと発表): なぜアメリカがバイオ燃料に力を注ぐのか
 26. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(5)第4節 精読(レジюме作りと発表): 理解チェック
 27. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(1)文法・重要表現
 28. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(2)精読(レジюме作りと発表): 20世紀が「知の空白期」に? 他
 29. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(3)精読(レジюме作りと発表): 電子図書館化で追い打ち 他、理解チェック
 30. 口頭能力測定(会話試験)
- ※実際は、作文・プレゼン関係の授業、読解関係の活動をバランス良く配置した順序で展開する。授業中、及び、moodle上の連絡事項に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文 10%
討論会 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
プレイスメントテスト等によって日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語A」に合格した学生のみを対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やや専門的な内容の日本語資料を正確に理解し、さらに、それを周囲に伝達できる能力を育成するための授業である。教員の指示を待つだけでなく、自分から積極的に問題提起をし、議論を進めていく積極的な姿勢の学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

上級日本語、文レベルから段落レベルへ、情報発信、討論、ディクテーション、作文

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 演習 / 演習 Class クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	一般的な科学理解に必要な日本語による基礎的情報収集能力を習得する。
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり科学技術を学ぶために必要な日本語能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	理系のアカデミックライフにおいて、日本語を用いた円滑なコミュニケーションを実現する能力を習得する。
			技術日本語基礎
			JSL230F

授業の概要 /Course Description

主に、環境工学と情報技術に関するテーマを扱った放送番組や新聞記事など、本工学部の全5学科に対応する内容の教材を扱いながら、理系の語彙増強と書き言葉の表現能力および聴解力の向上を目指す。また、著作物の引用や参考文献の書き方などを学び、専門科目のレポートや卒業論文の執筆の基礎能力を養成する。

<主な目的>

- (1)理系語彙増強
- (2)説明文の文構造、段落構造、文体、表現の特徴の把握
- (3)複段落単位の説明文の記述
- (4)説明文を要約し複段落で口頭説明
- (5)理系語彙を含む聴解力増強
- (6)著作物の引用方法と参考文献の書き方

教科書 /Textbooks

1. 『技術日本語への架け橋 (2011年度改訂版)』, 水本光美・池田隆介, 北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室・日本語教育プログラム, 2011. ← 授業で配布する。
2. ホームページ「技術日本語基礎」のビデオ教材← 授業で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○DVD 『HAYABUSA Back to the Earth』はやぶさ大型映像制作委員会(有限会社ライブ 2011年)。詳細は授業中に説明する。

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ①Orientation ②北九州工コタウン 1
- 2 ①北九州工コタウン2 ②改まったスタイル1
- 3 ①改まったスタイル2 ②改まったスタイル3
- 4 段落構成
- 5 WTCビル崩壊の謎
- 6 植物で土壌を蘇らせる
- 7 ①引用の仕方 ②出典や参考文献の書き方
- 8 改まったスタイル4：書き言葉表現
- 9 二酸化炭素隔離技術1：地球温暖化対策、二酸化炭素隔離研究
- 10 二酸化炭素隔離技術2：二酸化炭素海洋隔離
- 11 ロボット世界1：ロボットの用途
- 12 ロボット世界2：人間型ロボット
- 13 はやぶさの挑戦1：はやぶさの偉業と旅の道筋
- 14 はやぶさの挑戦2：イオンエンジンの開発とイトカワ着地
- 15 はやぶさの挑戦3：様々な困難を克服して地球帰還

※ 予定は変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。
※ 試験期間中に、期末試験を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
宿題 30%
小テスト 20%
期末試験 30%

※ 出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うビデオは、「留学生のホームページ」にアクセスして、必ず予習しておくことが必要である。

URL: <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

詳細は別途配布の「授業概要」を参照。

- 1 留学生のうち、「総合日本語A」または「総合日本語B」に合格した学生対象の専門技術日本語入門コースである。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
- 2 Hibikino e-Learning Portal (moodle)への登録必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが工学部で専門分野や環境問題に関する知識を得るために最低知っていなくてはならない理系の基礎的で、一般的な語彙やレポートや論文に必要な表現法を学びます。また、一般の成人向け科学番組を視聴し内容を理解することにより、アカデミック聴解力を養います。予習や宿題が重要な授業ですので、十分な準備をして、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

環境工学, 情報技術, 科学番組, 理系語彙増強, 表現力, 書き言葉, 聴解能力向上

ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期/2学期 /1st/2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自己を正しく分析し、自らの能力を効果的にアピールでき、主体的に就職活動への準備ができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	就職後も使えるビジネス日本語能力および問題解決能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	就職活動および入社後に求められる日本語によるコミュニケーション能力を習得する。
		ビジネス日本語	JSL340F

授業の概要 /Course Description

大学卒業後に日本国内の企業、あるいは母国の日系企業で活躍したいと希望している留学生のための上級日本語レベルの授業である。日本企業への就職を希望する留学生には、専門知識や技術のみならず高度な日本語コミュニケーション能力が求められている。この授業では主に就職活動に必要な日本語表現を、言語の4技能「聴く」「話す」「読む」「書く」などのトレーニングを通し、現場で即座に生かせる運用能力を育成する。

教科書 /Textbooks

- 成美堂出版編集部「16年版 こう動く！就職活動のオールガイド」(H27年度前期受講生)
- 成美堂出版編集部「17年版 こう動く！就職活動のオールガイド」(H27年度後期受講生)
- その他、適宜授業中に配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Web: 『留学生のためのページ』の「ビジネス日本語」← 授業で説明する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション ②就活に求められる日本語能力
- 己を知る：自己分析, 自己評価, 就活プラン1 (企業が求める日本語能力・就職活動の流れ)
- 己を知る：自己分析, 自己評価, 就活プラン2 (効果的な自己分析・キャリアプラン)
- 業界・企業を知る：企業選びへの業界調査
- 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)&マナー1: 問い合わせ方法
- 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)&マナー2: 資料請求葉書とメール
- 就職筆記試験: Web, SPI, CAB/GAB & 一般常識
- 己を知る：自己PR, 志望動機, 将来設計など
- 就活アクション: 履歴書&エントリーシート1 (エントリーシートの基本常識と書き方)
- 就活アクション: 履歴書&エントリーシート2 (履歴書, 送付状, 封筒の書き方)
- 就活アクション: 会社説明会・セミナー参加
- 就活アクション: 面接 1 (面接のマナーとよく聞かれる質問)
- 就活アクション: 面接 2 (回答のポイント・面接シミュレーション)
- プレゼンテーションの準備
- プレゼンテーション

※ この授業計画は状況に応じて随時変更する可能性もある。

ビジネス日本語

(Business Japanese)

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 積極的授業参加 20%
2. 宿題 & 小テスト 35%
3. 期末会話試験 20%
4. 期末プレゼンテーション 25%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始時に指示する。

1. 履修希望者は、「総合日本語A」「総合日本語B」「技術日本語基礎」のうち3単位以上を取得しておかなければならない。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
2. 学部で就活をする学生は、3年次の前期に履修するのが望ましい。大学院へ進学後就活する学生は3年次の後期がそれ以後の受講でも良い。
3. 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、日本企業への就職を考えている留学生の皆さん、就職活動をし社会人となるために、自分の日本語能力に自信がありますか。適切な敬語を使って話したり、書いたりすることに対する準備はできていますか。昨今の就職難の状況下では、就活時期(3年生の3月から開始)が始まってから就活準備を開始するのは遅すぎます。就活時期以前の出来るだけ早期(遅くとも3年生の夏休み前まで)に、しっかりと自己分析・企業研究を終え、かつ、適切な日本語での表現力を身につけておくことが肝要です。3年生の夏休みまでにインターンシップを経験しておくことも必要です。この授業では、日本の就職活動やビジネス場面における社会人としての活動について、様々な知識とともに必要とされる上級の日本語実践能力を育成します。一緒にがんばってみませんか。

キーワード /Keywords

高度なコミュニケーション能力, 就職活動, 敬語&マナー, 書類作成, 面接, ビジネス場面

総合英語I

(Introductory College English I)

担当者名 /Instructor 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	基礎的な文法、語彙を正しく理解することができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語を用いて簡単なコミュニケーションを取ることができる。
		総合英語 I	ENG104F

授業の概要 /Course Description

Students will learn basic reading and writing of English that allow them to communicate effectively as university students. Students are also asked to read extensively in English to develop fluency.

基本的な英語リーディング・ライティングの習得を通して、大学生としてより効果的なコミュニケーション力を身につける。また英語を大量に読むことで英語力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

Butler, L. (2014). Longman Academic Writing Series 1. Longman.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None, but students must bring a dictionary to class.
なし、ただし毎回の授業に辞書を持参すること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the course
2. Chapter 1 (I) From words to sentences to paragraphs
3. Chapter 1 (II) Basic sentence patterns with the verb BE
4. Chapter 1 (III) A paragraph to introduce yourself
5. Chapter 2 (I) Word partners
6. Chapter 2 (II) Subject pronouns
7. Chapter 2 (III) A paragraph about your morning routine
8. Midterm review
9. Chapter 3 (I) Topic sentences
10. Chapter 3 (II) Writing complete sentences
11. Chapter 3 (III) A paragraph about someone in a photo
12. Chapter 4 (I) Phrasal verbs
13. Chapter 4 (II) Adverbs of frequency
14. Chapter 4 (III) A paragraph about a typical day
15. Final review

総合英語I

(Introductory College English I)

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation to class (授業参加) : 20%
Assignments (課題) : 30%
Quizzes (小テスト) : 10%
Final exam (期末試験) : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are asked to prepare for the class. 必ず予習課題をして授業にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

総合英語II

(Introductory College English II)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
	情報リテラシー		
技能	数量的スキル		
	英語力	●	基礎的な文法、語彙を正しく用いることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	簡単な英語を用いて、自分の意見を述べるすることができる。
		総合英語 II	ENG114F

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to develop your ability to convey intended messages, especially in writing. Focus is on understanding how a paragraph is organized and writing paragraphs about various topics to put your understanding into practice. In order to gain knowledge of the basic paragraph structure, you will read model paragraphs carefully and learn basic patterns of organization and techniques for making a paragraph. In addition, you are required to keep a journal to build up fluency.

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 1: Sentences to Paragraphs. By Butler, Linda. Pearson Education.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course orientation
2. Ch. 5 Your hometown: looking at the models
3. Ch. 5 Your hometown: grammar and sentence structure
4. Ch. 5 Your hometown: a paragraph describing your hometown
5. Ch. 6 On the job: looking at the models
6. Ch. 6 On the job: grammar and sentence structure
7. Ch. 6 On the job: a paragraph about someone at work
8. Review of Chapters 5 and 6
9. Ch. 7 Remembering an important event: looking at the models
10. Ch. 7 Remembering an important event: grammar and sentence structure
11. Ch. 7 Remembering an important event: a paragraph about a memorable event
12. Ch. 8 Memories of a trip: looking at the models
13. Ch. 8 Memories of a trip: grammar and sentence structure
14. Ch. 8 Memories of a trip: a photograph about your memories of a trip
15. Review of Chapters 7 and 8

成績評価の方法 /Assessment Method

Paragraph writing assignments: 40%
Journal writing: 30%
Homework assignments: 20%
Active participation in class: 10%

総合英語II

(Introductory College English II)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Instruction in this class will be mainly in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学 (補習)

(Mathematics)

担当者名 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代
/Instructor

履修年次 1年次 単位 0単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※お知らせ/Notice 4月3日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「微分・積分(エネルギー循環化学科・建築デザイン学科・環境生命工学科)」、「微分積分I(機械システム工学科)」、及び「解析学I(情報メディア工学科)」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

- ・微分と積分の基本的な考え方について理解し、簡単な微積分の計算や応用問題に活用できるようにする。
- ・数学に関する基礎的な問題について、自分で問題を理解し、解析し、思考発展させる能力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せずにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数と式
- 2 方程式
- 3 いろいろな関数とグラフ (1)
- 4 いろいろな関数とグラフ (2)
- 5 いろいろな関数とグラフ (3)
- 6 微分 (1)
- 7 微分 (2)
- 8 微分 (3)
- 9 指数関数と対数関数 (1)
- 10 指数関数と対数関数 (2)
- 11 指数関数と対数関数 (3)
- 12 三角関数 (1)
- 13 三角関数 (2)
- 14 微分 (4)
- 15 微分 (5)
- 16 微分 (6)
- 17 微分 (7)
- 18 微分 (8)
- 19 微分 (9)
- 20 積分 (1)
- 21 積分 (2)
- 22 積分 (3)
- 23 積分 (4)
- 24 積分 (5)
- 25 積分 (6)
- 26 積分 (7)
- 27 積分 (8)
- 28 積分 (9)・期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 20%
中間・期末試験 80% 中間試験は各分野の授業の終了後に実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校「数学I」、「数学II」、「数学III」の教科書などを復習すること。
クラス別により授業内容を変更する予定である。詳細については開講時に連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学の勉強では積み重ねが重要です。高校で学んだ数学についてよく復習して、大学の数学科目および専門科目での学修で必要となる数学的な思考法と計算力を身につけてください。

数学 (補習)

(Mathematics)

キーワード /Keywords

物理 (補習)

(Physics)

担当者名 /Instructor 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※お知らせ/Notice 4月3日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「物理実験基礎」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

多くの工学基礎科目および専門工学科目を受講する上で必要不可欠な「力学・熱・電気」について学習する。また、物理的思考力や応用力を養うため、各回の講義の後に演習を行う。

教科書 /Textbooks

高校で使用した物理の教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入，運動の表し方，速度と加速度
- 2 いろいろな力と運動の法則(1)
- 3 運動の法則(2)
- 4 運動の法則(3)
- 5 力のつりあいとモーメント
- 6 仕事
- 7 中間試験I，問題の解説
- 8 力学的エネルギー
- 9 運動量と衝突
- 10 等速円運動，慣性力と万有引力
- 11 単振動
- 12 熱(1)
- 13 熱(2)
- 14 熱(3)
- 15 中間試験II，問題の解説
- 16 電場とクーロンの法則
- 17 電位
- 18 コンデンサー
- 19 直流回路 (オームの法則)
- 20 キルヒホッフの法則
- 21 磁場と電流
- 22 ローレンツ力
- 23 電磁誘導の法則
- 24 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 20%
中間試験I，II，期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回，講義内容に関する確認テストを実施するため，必ず予習と復習を行うこと。
授業には，必ず高校で使用した物理の教科書 (教科書が無い場合は購入すること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業進度がとても速いので，緊張感を持って授業に臨んで下さい。また，物理を始めて習う人にはハンディがありますが，あなたのガンバリで必ず克服できます。そして，この授業で習得した自然科学の法則を物作りの工学に生かして下さい。

キーワード /Keywords

化学 (補習)

(Chemistry)

担当者名 /Instructor 溝部 秀樹

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※お知らせ/Notice 4月3日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「化学実験基礎」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

- ・ 大学で化学を学ぶために必要な基礎学力を向上させる。
- ・ 高校「化学基礎」「化学」の理論化学分野の基礎の確認と学力の向上を行う。
- ・ 問題が与えられた際に「自分で参考資料を見つけ、それを参考にすれば問題を解くことができる」という基本的な学習の取り組み方を身につける。

教科書 /Textbooks

プリント配布、各自の高校「化学基礎」・「化学」の教科書及び問題集

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 単位換算、物質の量・濃度
2. 化学結合、結晶
3. 化学反応と量的関係
4. 酸と塩基①
5. 酸と塩基②、電離平衡
6. 酸化と還元
7. 電池、電気分解①
8. 電気分解②、中間試験
9. 化学反応と熱
10. 気体の法則①
11. 気体の法則②
12. 溶液の性質①
13. 溶液の性質②
14. 化学平衡
15. 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験 80%
演習 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

苦手な領域は、十分に復習すること
電卓と高校化学の教科書(「化学基礎」・「化学」)を持参のこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「習ったのに忘れてしまった」「聞いたことはあるが、よくわかっていない」「そこはあまり習っていない」など、個人によって基礎の理解度が違うと思います。高校で習う「化学」のポイントをもう一度復習し、基礎学力を向上させることによって、大学で習う「化学」の中身を深めて下さい。

キーワード /Keywords

英語 (補習)

(English)

担当者名 /Instructor 外部講師 (○長 加奈子)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

※お知らせ/Notice 1年次1月末時点でTOEICスコアが470点に満たない場合は受講対象者となります。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格しない限り、「TOEIC I」(英語・選択必修科目群A)の単位を修得することはできません。

授業の概要 /Course Description

本講座では、より多くの実践問題に取り組み、TOEIC470点をクリアする為に求められる英語力と瞬発力を鍛えます。知識の習得のみならずアウトプット(音読訓練)の機会を設けることで、基礎文法および基礎語彙習得のプロセスを速めるとともに、英語コミュニケーション力の土台作りを行います。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト 新公式問題集Vol.6』
著者：ETS, 発行元：国際ビジネスコミュニケーション協会, 出版年：2014年
価格：3,024円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション, パート1-人物・物の描写問題
2. e-Learning (NetAcademy スーパースタンダードコース2)
3. パート2-応答問題
4. e-Learning (NetAcademy スーパースタンダードコース2)
5. パート5 & 6-短・長文穴埋め問題
6. e-Learning (NetAcademy スーパースタンダードコース2)
7. 4. パート3-会話問題
8. e-Learning (NetAcademy スーパースタンダードコース2)
9. パート4 & 7-説明文問題、読解問題
10. e-Learning (NetAcademy スーパースタンダードコース2)
11. パート5 & 6-短・長文穴埋め問題
12. e-Learning (NetAcademy スーパースタンダードコース2)
13. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1.小テスト40%
- 2.e-Learning 40%
- 3.授業参加度 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

所属クラスによって、補習授業開始日が異なる為、掲示に注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords